DENON

AV サラウンドアンプ

AVC-3310

取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになったあとは、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は持ち込み修理対象製品です。
  出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承願います。詳しくは、☞82 ページ「保証と修理について」をご覧ください。

GUI *Graphical User Interface*

本書は、GUI 画面に表示される操作ガイドと一緒にご覧ください。

GUI メニューマップ（☞25 ページ）
GUI メニュー操作（☞26 ページ）
リモコン操作（☞68 ページ）

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例
図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜け

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水をかけたり、濡らしたりしない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

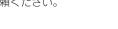
水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

禁止

付属の電源コードを使用する
他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない
電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは
電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する
テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電池を交換するときは
- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない
火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する
放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない
内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない
特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない
機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

移動させるときは
まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは
安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

再生までのながれ

本機の再生までのながれは、次の順番でおこなってください。

接続

スピーカーを設置 / 設定する（☞13 ページ）

スピーカーを接続する（☞15 ページ）

機器を接続する（☞16 ページ）

電源を入れる（☞24 ページ）

設定

ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこなう（Audyssey™ Auto Setup）
（☞28 ページ）

詳細な設定をする（Manual Setup）
（☞34ページ）
※ “Manual Setup”は、必要に応じて設定してください。

入力の設定をする（Input Setup）
（☞42 ページ）

再生

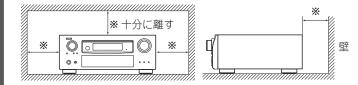
機器を再生する（☞48 ページ）

サラウンドモードを選ぶ（☞52 ページ）

音声や映像の調整をする（☞55 ページ）

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱を良くするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置でご使用ください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を入れたまま 1 ～ 2 時間放置してから使用してください。

ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

準備

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

① 取扱説明書（本書）..1
② 簡単セットアップガイド 1
③ 保証書（梱包箱に貼付）...1
④ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内 1
⑤ 電源コード（長さ：約 1.7m）【本機専用】...................1
⑥ リモコン（RC-1118）..1
⑦ 単 3 形乾電池..2
⑧ セットアップマイク
（DM-A409、コードの長さ：約 7.6 m）......................1

⑤ ⑥ ⑧

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

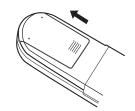
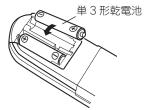
リモコンについて

付属のリモコン（RC-1118）は、本機の操作以外に次の機器の操作もできます。

① DENON 製コンポーネント製品
② DENON 製以外のコンポーネント製品
DENON 製以外のコンポーネント製品を操作する場合には、プリセットコードの登録が必要です（☞68 ページ「プリセットコードを登録する」）。

乾電池の入れかた

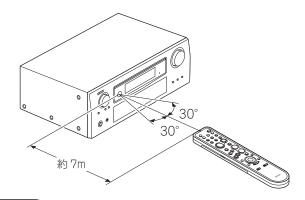
①つまみを引き上げながら、裏ぶたを取り外す。

②乾電池（2 本）を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

③裏ぶたを元通りにする。

ご注意

- リモコンには単 3 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。

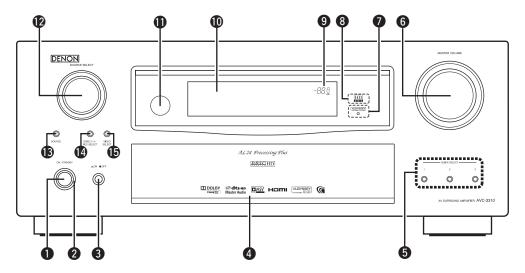
リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。

ご注意

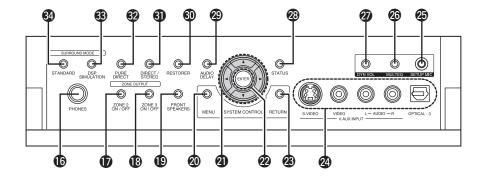
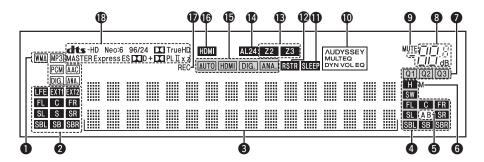
リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

各部の名前

フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、（ ）内のページを参照してください。

❶ 電源ボタン（ON/STANDBY）………（24）
❷ 電源表示 ………………………………（24）
❸ 電源スイッチ（▁ON ■OFF）………（24）
❹ ドア
ドアの中にあるボタンや端子をご使用になるときにドアの下の部分を押すと、ドアが開きます。ドアの中にあるボタンや端子を使用しないときに、ドアを閉めておくこともできます。ドアの開閉の際に、指などを挟まないようご注意ください。

❺ クイックセレクトボタン（QUICK SELECT）……………………（64）
❻ 主音量調節つまみ（MASTER VOLUME）…………………（50）
❼ AUDYSSEY DYNAMIC VOLUME™ 表示 …………（57）
❽ HD AUDIO 表示 ………………………（53）
❾ 主音量表示
❿ ディスプレイ ……………………………（8）
⓫ リモコン受光部 …………………………（6）
⓬ 入力ソース切り替えつまみ（SOURCE SELECT）…………………（27）
⓭ ソース切り替えボタン（SOURCE）………………………………（27）
⓮ ゾーン 2/3 / 録音出力切り替えボタン（ZONE 2/3 / REC SELECT）…（62, 66）
⓯ ビデオセレクトボタン（VIDEO SELECT）……………………（45）

【ドアを開いた状態】

⓰ ヘッドホン端子（PHONES）…………（50）
⓱ ゾーン 2 用電源ボタン（ZONE2 ON/OFF）……………………（66）
⓲ ゾーン 3 用電源ボタン（ZONE3 ON/OFF）……………………（66）
⓳ フロントスピーカー切り替えボタン（FRONT SPEAKERS）………………（51）
⓴ メニューボタン（MENU）……………（25）
㉑ カーソルボタン（△▽◁ ▷）…………（26）
㉒ エンターボタン（ENTER）……………（26）
㉓ リターンボタン（RETURN）…………（26）
㉔ V.AUX 入力端子（V.AUX INPUT）………………………（22）
㉕ セットアップマイク端子（SETUP MIC）……………………………（29）
㉖ MULTEQ® ボタン ………………………（57）
㉗ DYNAMIC VOLUME™ ボタン（DYN VOL）…………………………………（58）
㉘ ステータスボタン（STATUS）………（61）
㉙ オーディオディレイボタン（AUDIO DELAY）……………………………（59）
㉚ RESTORER ボタン ……………………（59）
㉛ ダイレクト / ステレオボタン（DIRECT/STEREO）……………………（54）
㉜ ピュアダイレクトボタン（PURE DIRECT）…………………………（54）
㉝ DSP シミュレーションボタン（DSP SIMULATION）…………………（53）
㉞ スタンダードボタン（STANDARD）……………………………（52）

ディスプレイ

❶ 入力信号表示

❷ 入力信号チャンネル表示
デジタル信号が入力されているときに点灯します。
再生している HD オーディオソースに拡張チャンネル（フロント / センター / サラウンド / サラウンドバック /LFE 以外のチャンネル）が含まれる場合は、“EXT1”表示が点灯します。拡張チャンネルが２種類以上含まれる場合は、“EXT1”と“EXT2”表示が点灯します。

❸ インフォメーションディスプレイ
入力ソース名、サラウンドモード、設定値などを表示します。

❹ 出力信号チャンネル表示

❺ フロントスピーカー表示
フロントスピーカー A、B の設定に合わせて点灯します。

❻ モニター出力表示
HDMI モニターを接続しているときに点灯します。

❼ クイックセレクト表示

❽ 主音量表示

❾ ミュート表示
ミューティング中に点灯します（☞50 ページ）。

❿ AUDYSSEY MULTEQ 表示
“Dynamic EQ”（☞57 ページ）と“Dynamic Volume”（☞58 ページ）の設定により、次のように点灯します。

- AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL：“Dynamic EQ”および“Dynamic Volume”の設定が“ON”のとき
- AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ：“Dynamic EQ”の設定が“ON”、“Dynamic Volume”の設定が“OFF”のとき
- AUDYSSEY MULTEQ：“Dynamic EQ”および“Dynamic Volume”の設定が“OFF”のとき

⓫ スリープタイマー表示
スリープタイマーモードが設定されているときに点灯します（☞63 ページ）。

⓬ RESTORER 表示
RESTORER モードが選ばれているときに点灯します（☞59 ページ）。

⓭ マルチゾーン表示
各ゾーンの電源が入っているときに点灯します。

⓮ AL24 表示
AL24 Processing Plus が動作しているときに点灯します（☞74 ページ）。

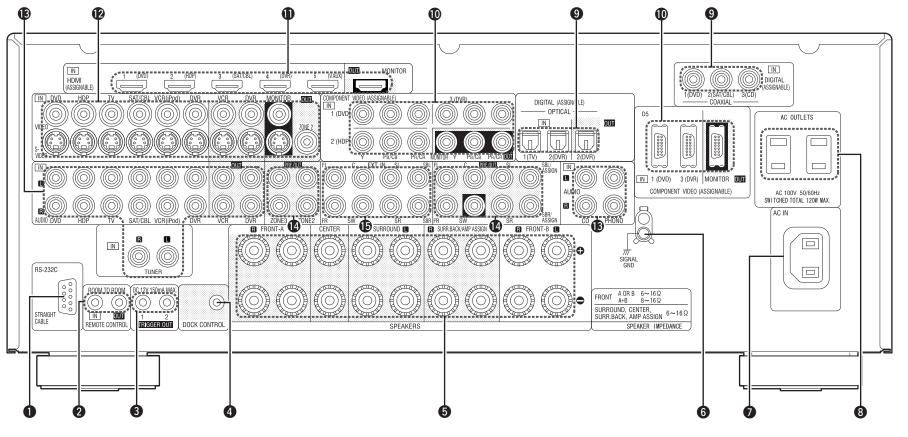
⓯ 入力モード表示

⓰ HDMI 表示
HDMI 接続で再生しているときに点灯します。

⓱ 録音出力ソース表示
REC OUT モードが選ばれているときに点灯します（☞62 ページ）。

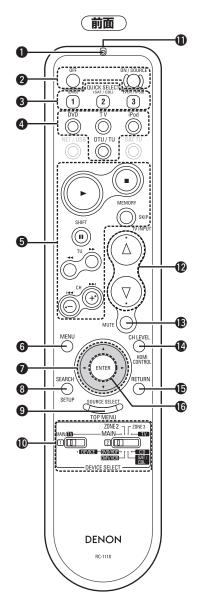
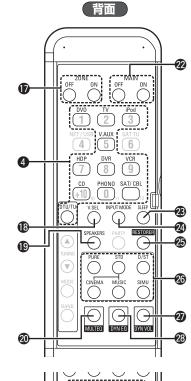
⓲ デコーダー表示
各デコーダーが動作しているときに点灯します。

リアパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、( ) 内のページを参照してください。

リモコン

各部のはたらきなど詳しい説明については、（ ）内のページを参照してください。

前面

背面

ご注意

- 裏ぶたを押すと、裏面のボタンが動作する場合があります。
- 本機では、**NET/USB**、**SAT TU**、**PARTY**、**TUNING ▲▼**、**MODE** および **BAND** ボタンは使用しません。

❶ 送信表示 ……………………（68）
❷ 電源ボタン ……………………（24）
❸ クイックセレクトボタン（QUICK SELECT） ……………………（64）
❹ 入力ソース選択ボタン ……………………（27）
❺ システムボタン ……………………（51, 69, 70）
❻ メニューボタン（MENU） ……………………（25）
❼ カーソルボタン（△▽◁ ▷） ……………………（26）
❽ サーチボタン（SEARCH） ……………………（51）
❾ ソースセレクトボタン（SOURCE SELECT） ……………………（27）
❿ デバイス切り替えスイッチ（DEVICE SELECT） ……………………（10, 68）
⓫ リモコン信号送信窓 ……………………（6）
⓬ 主音量調節ボタン ……………………（50）
⓭ ミューティングボタン（MUTE） ……………………（50）
⓮ チャンネルレベル調節ボタン（CH LEVEL） ……………………（36, 64）
HDMIコントロールボタン（HDMI CONTROL） ……………………（69）
⓯ リターンボタン（RETURN） ……………………（26）
⓰ エンターボタン（ENTER） ……………………（26）
⓱ マルチゾーン用電源ボタン ……………………（66）
⓲ ビデオセレクトボタン（V. SEL） ……………………（45）
⓳ フロントハイトスピーカーオン/オフボタン（SPEAKERS） ……………………（56）
⓴ MULTEQ®ボタン ……………………（57）
㉑ 番号ボタン（0〜9, +10） ……………………（68）
㉒ メインゾーン用電源ボタン ……………………（24）
㉓ スリープタイマーボタン（SLEEP） ……………………（63）
㉔ 入力モード切り替えボタン（INPUT MODE） ……………………（46）
㉕ RESTORERボタン ……………………（59）
㉖ サラウンドモードボタン ……………………（52〜54）
㉗ DYNAMIC VOLUME™ボタン（DYN VOL） ……………………（58）
㉘ DYNAMIC EQ™ボタン（DYN EQ） ……………………（57）

リモコンでできること

❏ 本機の操作

❏ 本機以外の機器の操作

- 操作する機器のリモコンコードをプリセット登録すると、機器の操作ができるようになります（☞68 ページ）。
- 操作する機器にあわせて 2 つのデバイス切り替えスイッチを切り替えます。

スイッチの位置		操作できる機器
MAIN/TV ・DEVICE	ZONE 2 ZONE 3 MAIN TV DVD/HDP DVR/VCR CD SAT CBL	
MAIN/TV	MAIN	本機（メインゾーン）、iPod
	ZONE 2	本機（ゾーン2）
	ZONE 3	本機（ゾーン3）
	TV	テレビ
DEVICE	DVD/HDP	ブルーレイディスクプレーヤー または DVDプレーヤー
	DVR/VCR	デジタルビデオレコーダー または ビデオデッキ
	SAT/ CBL	衛星チューナー または ケーブルテレビ
	CD	CDプレーヤー

❏ マルチゾーン（ゾーン 2/ ゾーン 3）の操作（☞66 ページ）

❏ パンチスルー設定（☞71 ページ）

接続のしかた

知っておいてほしいこと

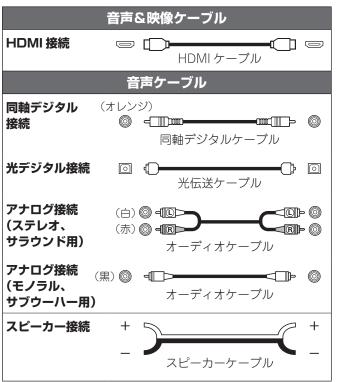
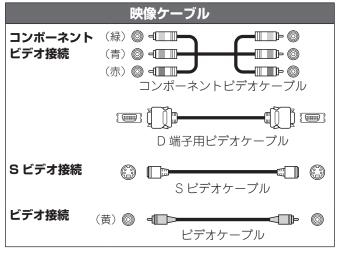
この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法をお選びください。

接続後に、本機の設定が必要なものがあります。各項目の"**必要に応じて設定してください**"の設定をおこなってください。

ご注意

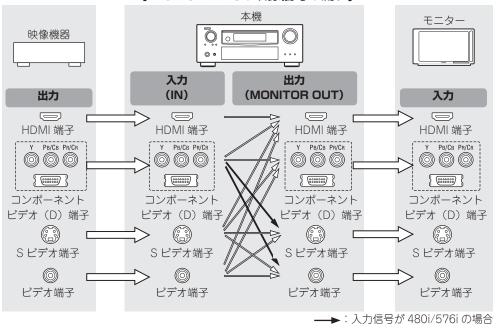
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

接続に使用するケーブル

ご使用になる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）

本機には、4 種類（HDMI、コンポーネントビデオ、S ビデオ、ビデオ）の映像入出力端子があります。
接続する機器に合わせてご使用ください。
この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からモニターに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです（☞79 ページ「映像信号とモニター出力の関係」）。

【メインゾーンでの映像信号の流れ】

【ゾーン 2 での映像信号の流れ】

映像機器
本機
モニター
出力
入力 (IN)
出力 (MONITOR OUT)
入力
S ビデオ端子
S ビデオ端子
ビデオ端子
ビデオ端子
ビデオ端子
ビデオ端子

必要に応じて設定してください

- ビデオコンバージョン機能を使用しないときに設定します。
  "Video Convert"（☞45 ページ）
- 映像信号の解像度を変更するときに設定します。
  "Resolution"（☞46 ページ）

- ビデオコンバージョン機能を使用しない場合は、映像入力端子と同じ種類の端子からモニターへ出力してください。
- HDMI 対応モニターの解像度は、"HDMI Information" ⇨ "Monitor Information"（☞61 ページ）で確認することができます。

ご注意

- HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。
- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。
- コンポーネントビデオ入力の 480p、576p、1080i、720p および 1080p の信号は、S ビデオ信号やビデオ信号には変換できません。

スピーカーを設置 / 設定する

本機は、サラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現するドルビープロロジック IIz（☞72 ページ）に対応しています。
ドルビープロロジック IIz をご使用になる場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。

1 スピーカーレイアウトを決めてください

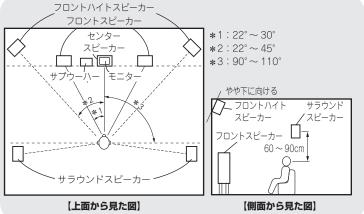
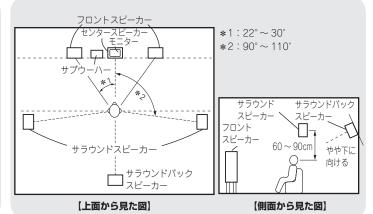
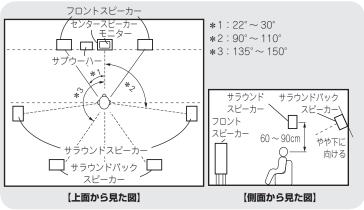
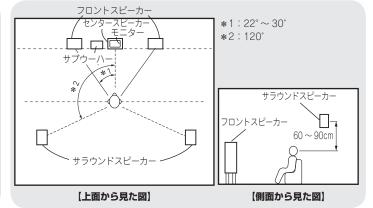
スピーカーの設置例をご紹介します。
これらを参考に、お手持ちのスピーカーを種類や用途に合わせて設置してください。

すべてのスピーカーのレイアウトのしかた

フロントハイトスピーカー
フロントスピーカー
サブウーハー
センタースピーカー
サラウンドスピーカー
サラウンドスピーカー
サラウンドバックスピーカー

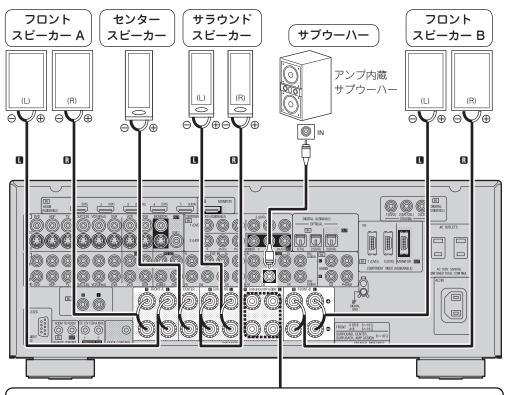
ご注意

サラウンドバックスピーカーとフロントハイトスピーカーを同時に使用することはできません。

❑ 7.1 チャンネル（フロントハイトスピーカー）接続時

❑ 6.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）接続時

❑ 7.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）接続時

❑ 5.1 チャンネル接続時

2 スピーカーレイアウトに合わせて“Amp Assign”モードを設定してください

本機の SURR. BACK/AMP ASSIGN スピーカー端子から出力する信号を切り替えることができます（☞34 ページ“Amp Assign”）。

“Amp Assign” モード（☞34 ページ）	SURR. BACK / AMP ASSIGN 端子に接続するスピーカー	スピーカー設置例（再生チャンネル数）
Normal（お買い上げ時の設定）	サラウンドバックスピーカー（2 台）	
Normal	サラウンドバックスピーカー（1 台） ※サラウンドバックスピーカー端子の“L”に接続してください。 ※“Surround Back”（☞35 ページ）を“1spkr”に設定してください。	
Normal	スピーカーは、接続しません。 ※“Surround Back”（☞35 ページ）を“None”に設定してください。	
ZONE2	ゾーン2スピーカー	メインゾーン ゾーン 2 (2)
ZONE3	ゾーン3スピーカー	メインゾーン ゾーン 3
ZONE2/3-MONO	L チャンネル：ゾーン2スピーカー R チャンネル：ゾーン3スピーカー	メインゾーン　ゾーン 2 または ゾーン 3
Front A Bi-Amp または **Front B Bi-Amp**	フロント A または フロント B スピーカー ※接続のしかたは、「バイアンプ接続について」（☞15 ページ）をご覧ください。	
Front Height	フロントハイトスピーカー	

スピーカーを接続する

SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子の接続については、「2 スピーカーレイアウトに合わせて"Amp Assign"モードを設定してください」（☞14 ページ）をご覧ください。

保護回路について

芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作して電源表示が約0.5秒間隔で赤色に点滅します。

保護回路が動作するとスピーカー出力は遮断され、電源はスタンバイ状態になります。この場合は、電源を切るか電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの接続を確認してください。

また、指定されたインピーダンス以下のスピーカー(例：4Ω)を使用して大音量で再生すると、本機の温度が上昇して保護回路が動作する場合があります。電源はスタンバイ状態になり、電源表示が約2秒間隔で赤色に点滅します。この場合は、電源を切って、周囲の通風状態を良くして、本機が冷えるのをお待ちください。

周囲の通風や接続に問題がないのにも関わらず保護回路が動作する場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で弊社の修理相談窓口にご連絡ください。

スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、＋（赤）、－（黒）をよく確認して、同じ極性を接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の被覆を10mm程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。

2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

4 スピーカー端子を右に回してしめる。

❏ バナナプラグをご使用になる場合

スピーカー端子を右に回してしめてから、バナナプラグを差し込む。

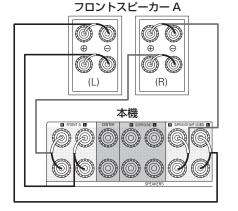
1 台のスピーカーのインピーダンスが 6 ～ 16 Ω のスピーカーをご使用ください。また、フロントスピーカー A と B を同時にご使用になる場合は、1 台のスピーカーのインピーダンスが 8 ～ 16 Ω のスピーカーをご使用ください。

ご注意

- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します（☞「保護回路について」）。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

バイアンプ接続について

この接続では、低域ユニットと高域ユニットの間の信号の干渉がなくなり、より高音質な再生をお楽しみいただくことができます。

"Amp Assign" の設定（☞34 ページ）が "Front A Bi-Amp" または "Front B Bi-Amp" のとき、次のように接続してください。（イラストは、フロントスピーカー A の接続例です。）

"Front A Bi-Amp" および "Front B Bi-Amp" モードのときは、フロントスピーカー端子とアンプアサイン（SURR.BACK/AMP ASSIGN）端子から同じ信号を出力します。

ご注意

- バイアンプ接続に対応したスピーカーをご使用ください。
- バイアンプ接続ではスピーカーのウーファー端子とツィーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。

機器を接続する

機器を接続する

HDMI 端子付きの機器を接続する

知っておいてほしいこと

❑ HDMI について

HDMI とは、“High Definition Multimedia Interface”の略で、デジタル映像信号とデジタル音声信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送できるインターフェースです。

“HDMI”、“HDMI ロゴ”および“High-Definition Multimedia Interface”は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

❑ HDMI 接続でできること

Deep Color
微小な映像データを増やすことで、色の変化をより滑らかにして、異なる色彩間の微妙なグラデーションを表現することが可能になります。

x.v.Color
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。
“x.v.Color”はソニーの登録商標です。

Auto Lip Sync（☞37 ページ）
Auto Lip Sync 機能に対応したテレビと接続すると、映像と音声のずれを自動的に補正することができます。

HDMI コントロール機能（☞63 ページ）
外部機器を本機で操作したり、外部機器から本機を操作することができます。

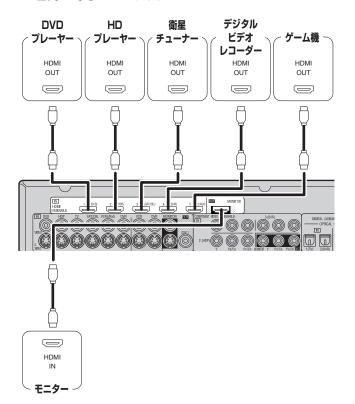
ご注意
- HDMI 接続している機器が Deep Color や x.v.Color の伝送、および Auto Lipsync 機能に対応していないときは、それらの機能ははたらきません。
- 接続する機器や設定によって、HDMI コントロール機能がはたらかない場合があります。
- HDMI コントロール機能に対応していないテレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーは操作できません。

❑ 著作権保護（HDCP）について

HDMI/DVI 接続を通して DVD ビデオや DVD オーディオのデジタル映像と音声を再生する場合は、接続されたブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーとモニターの双方が HDCP（Highbandwidth Digital Content Protection）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。
HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。
本機は HDCP に対応しています。ご使用になるブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーまたはモニターについては、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意
HDCP に対応していない機器と接続すると、映像が正しく出力されません。

接続のしかた

本機は 5 台までの HDMI 機器からの入力と、1 台のモニターへの出力に対応しています。

- HDMI ケーブルは、HDMI ロゴのついたケーブル（HDMI 認証品）をご使用ください。HDMI ロゴのないケーブル（HDMI 非認証品）をご使用になると、正しく再生できない場合があります。
- 本機と各機器を HDMI ケーブルで接続したときは、本機とモニターも HDMI ケーブルで接続してください。
- Deep Color 伝送に対応している機器を接続する場合は、Deep Color 対応のケーブルをご使用ください。
- ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーの解像度は、モニターが対応している解像度に合わせてください。ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーとモニターの解像度が合っていない場合は、映像が出力されません。

ご注意

- “Audio Out”（☞37 ページ）の設定が “AMP” のときにモニターの電源を切ると、音声が途切れる場合があります。
- HDMI 出力端子からの音声信号（サンプリング周波数、チャンネル数など）は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。

❑ DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

HDMI/DVI 変換ケーブル（別売り）をご使用になると、HDMI の映像信号を DVI 信号に変換して、DVI-D 端子付きの機器に接続することができます。

ご注意

- DVI-D 端子付きの機器と接続する場合、音声は出力されません。音声の接続をおこなってください。
- HDCP に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによって、映像が出力されない場合があります。

HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。
詳しくは、各参照ページをご覧ください。

❑ 入力端子の割り当て（☞43 ページ）

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定してください。

❑ HDMI 設定（☞37 ページ）

HDMI の入出力信号に関する設定をします。

- RGB Range
- Audio Out
- Auto Lip Sync
- HDMI Control

ご注意

HDMI 入力端子から音声信号が入力された場合のみ、HDMI モニター出力端子から音声が出力されます。

モニターを接続する

- ご使用になる端子を選んで接続してください。
- 映像の接続をおこなう際には、「入力された映像信号を変換して出力する(ビデオコンバージョン機能)」(☞12 ページ)をご覧ください。

HDMI 接続については、16 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

モニター（テレビ）

VIDEO

S VIDEO IN

VIDEO IN

COMPONENT VIDEO IN Y PB PR

D1/D2/D3/D4/D5 VIDEO IN

コンポーネントビデオ（D）端子のご使用について

ご注意

コンポーネントビデオ端子と D 端子は、同時に接続できません。接続する機器に合わせてどちらか片方を接続してください。

コンポーネントビデオ1入力端子

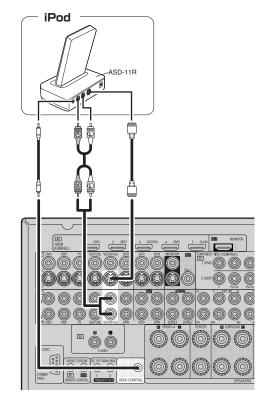
コンポーネントビデオ3入力端子

モニター出力端子

- モニターによってコンポーネントビデオ（D）端子の表示が異なります。
- 本機のコンポーネントビデオ（D）端子は、D1 ～ D5（480i、480p、1080i、720p、1080p）のビデオ端子に対応しています。
- 本機のコンポーネントビデオ（D）端子とモニターをコンポーネント変換ケーブルで接続した場合、コンポーネントビデオ（D）端子から入力された解像度などの識別信号は出力されません。

再生機器を接続する

iPod 用コントロールドック

本機と iPod の接続には、DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R または ASD-11R、別売り）をご使用ください。この場合、iPod 用コントロールドック側の設定も必要です。詳しくは、iPod 用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。

必要に応じて設定してください

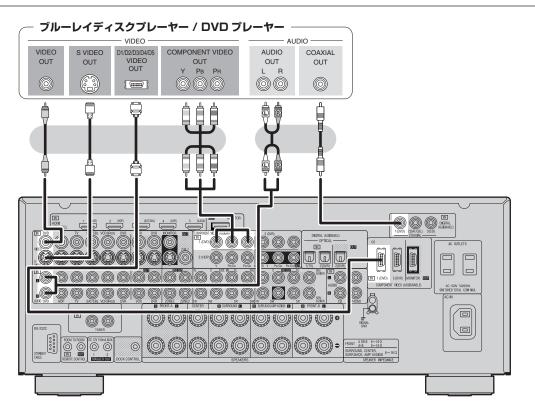
iPod を VCR（iPod）端子以外に割り当てるときに設定します。

"Input Assign" ⇨ **"iPod dock"**（☞45 ページ）

お買い上げ時の設定では、iPod を VCR（iPod）端子に接続してご使用いただけます。

ブルーレイディスクプレーヤー / DVD プレーヤー

ご使用になる端子を選んで接続してください。

HDMI 接続については、16 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

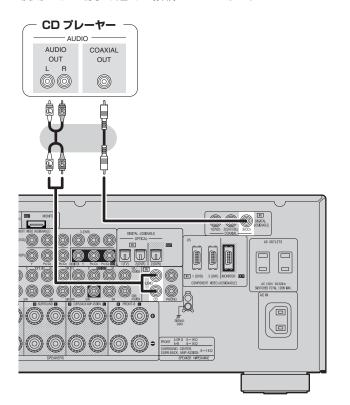
入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。

"Input Assign"（☞43 ページ）

ご注意

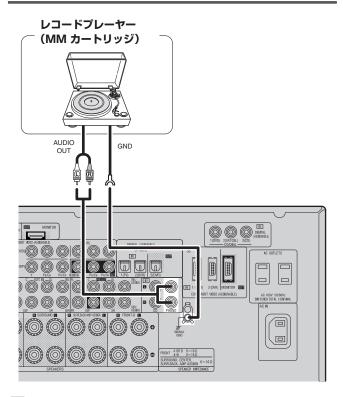
HD オーディオ（ドルビー TrueHD、DTS-HD、ドルビーデジタルプラスおよび DTS Express）を再生する場合は、HDMI で接続してください（☞16 ページ「HDMI 端子付きの機器を接続する」）。

CD プレーヤー

ご使用になる端子を選んで接続してください。

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。

"Input Assign"（☞43 ページ）

ご使用になる前に
接続
設定
再生
マルチゾーン
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

レコードプレーヤー

- 本機は、MM カートリッジ付きのレコードプレーヤーに対応しています。MC カートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続される場合は、市販の MC ヘッドアンプまたは昇圧トランスをご使用ください。
- レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、"ブーン"という雑音がスピーカーから出力される場合があります。

ご注意

本機の SIGNAL GND 端子は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなることがあります。このような場合は、アース線を接続する必要はありません。

録音機器を接続する

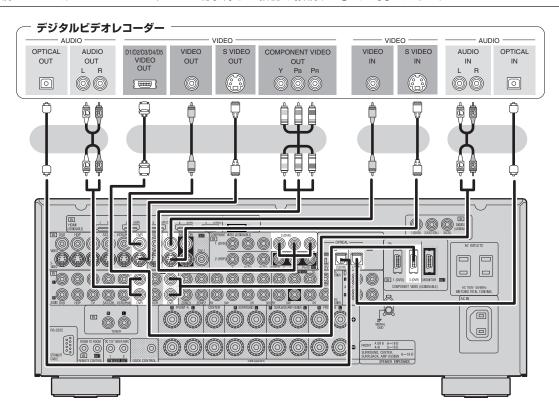
デジタルビデオレコーダー

- ご使用になる端子を選んで接続してください。
- アナログ音声を録音する場合は、アナログ接続をしてください。
- 操作のしかたは、62 ページの「外部機器で録音や録画をおこなう（REC OUT モード）」をご覧ください。

HDMI 接続については、16 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞43 ページ）

ご注意

本機を通して録画するときは、本機と再生機器の接続と、本機とレコーダーの接続に、同じ種類の映像ケーブルを使用してください。

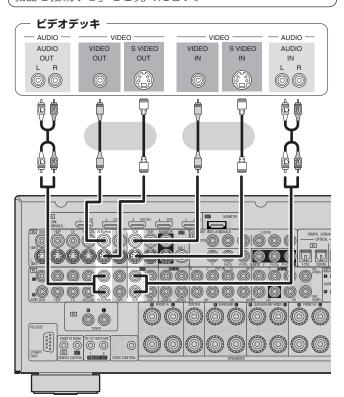
ビデオデッキ

- ご使用になる端子を選んで接続してください。
- アナログ音声を録音する場合は、アナログ接続をしてください。
- 操作のしかたは、62 ページの「外部機器で録音や録画をおこなう（REC OUT モード）」をご覧ください。

HDMI 接続については、16 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

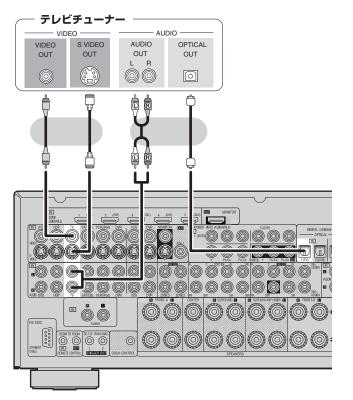
必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞43 ページ）

ご注意

本機を通して録画するときは、本機と再生機器の接続と、本機とレコーダーの接続に、同じ種類の映像ケーブルを使用してください。

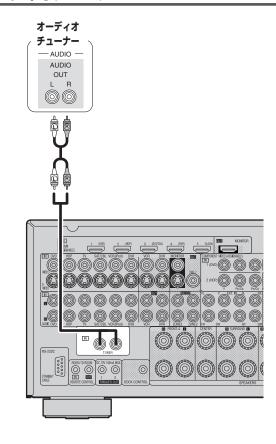
チューナーを接続する

テレビチューナー

ご使用になる端子を選んで接続してください。

HDMI 接続については、16 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞43 ページ）

オーディオチューナー

衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー（セットトップボックス）

ご使用になる端子を選んで接続してください。

HDMI 接続については、16 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー

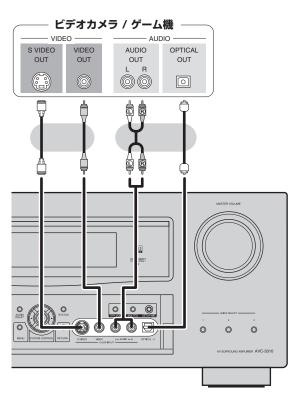
VIDEO		AUDIO	
VIDEO OUT	S VIDEO OUT	AUDIO OUT L R	COAXIAL OUT

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞43 ページ）

その他の機器を接続する

ビデオカメラ / ゲーム機

ご使用になる端子を選んで接続してください。

必要に応じて設定してください

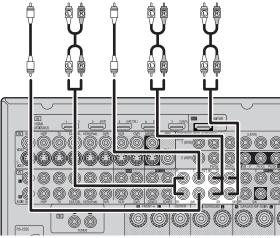
入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞43 ページ）

ご注意

ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。

マルチチャンネル出力端子がある機器

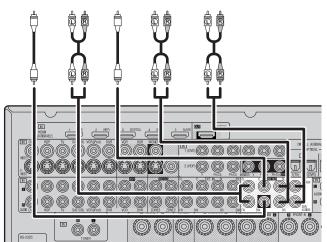
映像信号はブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーと同じ方法で接続することができます（☞19 ページ「ブルーレイディスクプレーヤー / DVD プレーヤー」）。

ブルーレイディスクプレーヤー / DVD プレーヤー / 外部デコーダー

必要に応じて設定してください

外部入力（EXT. IN）端子から入力されたアナログ信号を再生する場合は、GUI メニューの"Input Mode"（☞46 ページ）を"EXT. IN"に設定してください。
"EXT. IN"は、リモコンの **INPUT MODE** ボタンを押しても選択できます。

外部入力端子（EXT. IN）の SBL/SBR 端子に機器を接続するときは、"Amp Assign"（☞34 ページ）を"Normal"に設定してください。

外部のパワーアンプ

- ご使用になる端子を選んで接続してください。
- 外部のパワーアンプやお手持ちのアンプをご使用になる場合などに、プリアウト端子と接続します。

- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみご使用になる場合は、左チャンネル（L）に接続してください。
- サブウーハーの音量は、ご使用のサブウーハー側で調節してください。
- サブウーハーの音量が小さく感じられる場合は、サブウーハーに装備されている音量調節機能を使用して音量を調節してください。

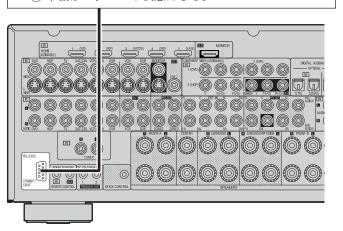
ご注意

- プリアウト端子にスピーカーを接続した場合、スピーカー端子にはスピーカーを接続しないでください。
- "Amp Assign" の設定（☞34 ページ）により、プリアウト端子の SBL と SBR 端子から出力されるチャンネルが変わります。

外部のコントロール機器

❑ RS-232C 端子

外部のコントロール機器と接続すると、外部のコントロール機器で本機をコントロールすることができます。あらかじめ次の確認をしてください。

① 本機の電源を入れる。
② 外部のコントロール機器で、本機の電源を切る。
③ 本機がスタンバイ状態になる。

必要に応じて設定してください

RS-232C 端子を DENON 製 RF リモートコントローラー用として使用するときに設定します。
"232C Port"（☞41 ページ）

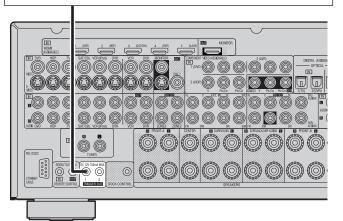
本機を DENON 製 RF リモートコントローラー（RC-7000CI、別売り）や RF リモートレシーバー（RC-7001RCI、別売り）と組み合わせてご使用になると、双方向通信ができます。本機のステータス情報や iPod の音楽ファイルのブラウズを、RF リモートコントローラーのディスプレイを見ながら操作できます。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

GUI メニューの "232C Port"（☞41 ページ）を "2Way Remote" に設定している場合、RS-232C 端子を外部コントローラー用として使用できません。

❑ トリガー出力端子

トリガー出力端子から最大で 12V/150mA の電気信号を出力します。トリガー入力端子がある機器をモノラルミニプラグケーブルで接続すると、本機の操作に連動させて、接続した機器の電源をオン / スタンバイすることができます。

接続する機器のトリガー許容入力レベルが 12V/150mA よりも大きいときや短絡状態のときは、トリガー出力が自動停止します。このような場合は、本機の電源を切り、その接続を外してください。

必要に応じて設定してください

トリガー出力 1 またはトリガー出力 2 端子の出力を連動させる条件を変更するときに設定します。
"Trigger Out 1" または **"Trigger Out 2"**
（☞41 ページ）

2 台目の機器を接続するときは、トリガー出力 1 端子と同じようにトリガー出力 2 端子に接続してください。

電源コードを接続する

すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。

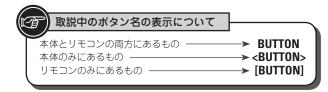
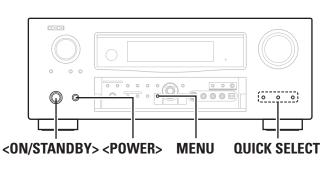
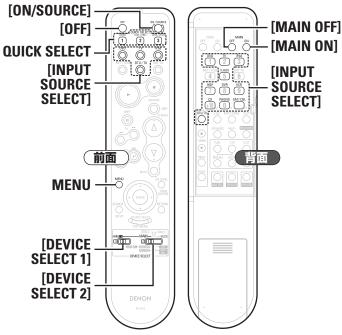
ACアウトレットへの接続

- 外部の AV 機器に電源を供給するコンセントです。
- 消費電力が合計で 120W（1.2A）までの AV 機器を接続することができます。
- 本体の **ON/STANDBY** に連動しています。"オン" のときは電源を供給し、"スタンバイ" のときは、電源を供給しません。

家庭用の
電源コンセントへ
（AC100V、50/60Hz）

電源コード
（付属）

ご注意

- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- AC アウトレットへは、AV 機器の電源プラグを差し込んでください。ドライヤーなど AV 機器以外の電源としては使用しないでください。

接続が終わったら

電源を入れる

1 **<POWER> を押す。**
電源表示が赤色に点灯して、電源がスタンバイ状態になります。

2 **リモコンで操作する場合は、[DEVICE SELECT 1] および [DEVICE SELECT 2] を "MAIN" 側にし、リモコンをメインモードに切り替える（☞68ページ「リモコンで機器を操作する」）。**

3 **<ON/STANDBY> または [ON/SOURCE] を押す。**
電源表示が緑色に点滅して、電源が入ります。

※ スタンバイ状態のときに、**[INPUT SOURCE SELECT]** または **QUICK SELECT** を押しても、電源が入ります。
[INPUT SOURCE SELECT] を押した場合は、**[INPUT SOURCE SELECT]** で選択した入力ソースになります。また、**QUICK SELECT** を押した場合は、クイックセレクト機能に記憶させた入力ソースになります（☞64 ページ「よく使う設定を記憶させる（クイックセレクト機能]」）。

電源を切る

1 **リモコンで操作する場合は、[DEVICE SELECT 1] および [DEVICE SELECT 2] を "MAIN" 側にし、リモコンをメインモードに切り替える（☞68ページ「リモコンで機器を操作する」）。**

2 **<ON/STANDBY> または [OFF] を押す。**
電源がスタンバイ状態になります。

3 **<POWER> を押す。**
電源表示が消灯して、電源が切れます。

ご注意

- 電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、**<POWER>** を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ゾーン2またはゾーン3を使用しているときに **[MAIN ON]** または **[MAIN OFF]** を押すと、メインゾーンの電源をオン/オフすることができます。

設定のしかた

GUI メニューマップ

MENU を押すと、GUI メニューを表示します。
このメニューから各種設定画面に移動できます。

設定項目	詳細項目	内　容	参照ページ
Audio / Video Adjust 音声や映像のパラメーターを調節します。	**Audio Adjust**	音声のパラメーターを調節します。	55
	Picture Adjust	映像のパラメーターを調節します。	60
Information 本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。	**Status**	現在の設定状態を表示します。	61
	Audio Input Signal	音声入力信号の情報を表示します。	61
	HDMI Information	HDMIの入出力信号やテレビの情報を表示します。	61
	Auto Surround Mode	オートサラウンドモードに記憶している内容を表示します。	61
	Quick Select	クイックセレクト機能で記憶している内容を表示します。	61
Auto Setup スピーカーの最適な設定をおこない、部屋の音響特性を補正します。	**Audyssey™ Auto Setup**	ご使用になるスピーカーの最適な設定を自動的におこないます。	28
	Parameter Check	オートセットアップの測定結果を確認します。 この項目は、Audyssey Auto Setup実行後に表示します。	33
Manual Setup 各種の詳細設定をします。	**Speaker Setup**	スピーカーの大きさや距離、チャンネルレベルなどを設定します。	34
	HDMI Setup	HDMIの音声/映像出力に関する設定をします。	37
	Audio Setup	音声の再生に関する設定をします。	37
	Zone Setup	マルチゾーンでの音声の再生に関する設定をします。	39
	Option Setup	その他の設定をします。	40
Input Setup 入力ソースの再生に関する設定をします。	**Input Assign**	入力端子の割り当てを変更します。	43
	Video	映像の設定をします。	45
	Input Mode	入力モードとデコードモードを設定します。	46
	Rename	選んだ入力ソースの表示名を変更します。	47
	Source Level	音声入力の再生レベルを補正します。	47
	Playback Mode	iPodの再生に関する設定をします。	47

GUI メニューの操作のしかた

本機にテレビを接続すると、メニュー画面や音場パラメーターなどをテレビに表示することができます。
テレビ画面に表示される設定メニューを見ながら本機を操作したり、設定を変更したりすることができます。

1 **MENU を押す。**
テレビ画面にGUIメニューを表示します。

2 **△▽◁▷を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。**
※ 前の項目に戻る場合は、◁ または **RETURN** を押してください。

3 **RETURN を押して、設定を確定する。**
※ "Default"を選んだときは、"Yes"を選択した後に **ENTER** を押すと、お買い上げ時の設定に戻ります。

❑ GUIメニューを終了するとき

GUIメニューの表示中に、**MENU** を押す。
GUIメニュー表示が消えます。

取扱説明書中のタイトル表示例

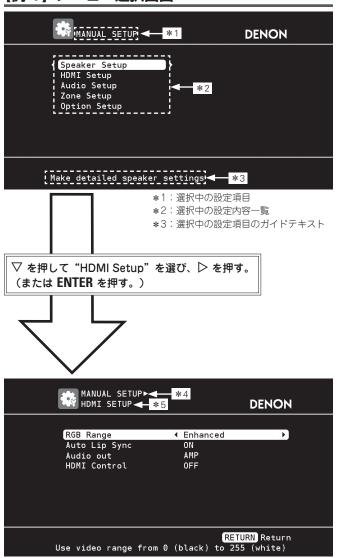
タイトルにこのマークがある項目は、GUI メニューの操作に対応しています。
GUI メニューでの操作をおすすめします。

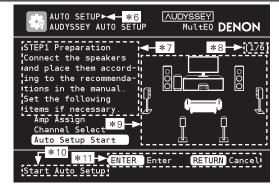
詳細な設定をする (Manual Setup)

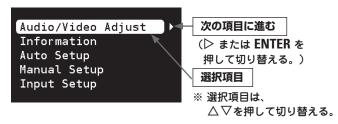
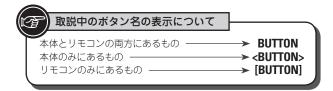
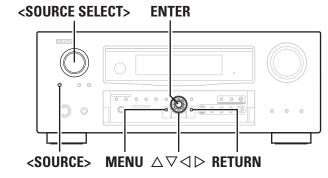
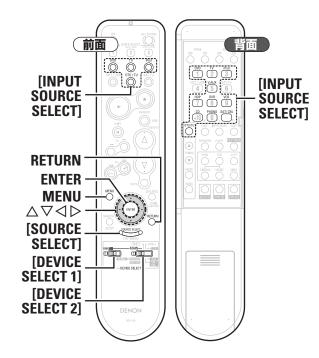
GUI メニュー画面の表示例

代表例を説明します。

【例 1】メニュー選択画面

＊1：選択中の設定項目
＊2：選択中の設定内容一覧
＊3：選択中の設定項目のガイドテキスト

＊4：履歴項目
＊5：選択中の設定項目

【例 2】Audyssey Auto Setup 画面（イラスト付き）

＊6　：履歴項目
＊7　：操作ガイドテキスト
＊8　：操作ステップ表示
＊9　：イラスト
＊10：選択中の設定項目のガイドテキスト
＊11：操作ボタンガイド

❑ リスト

入力ソースを選ぶ

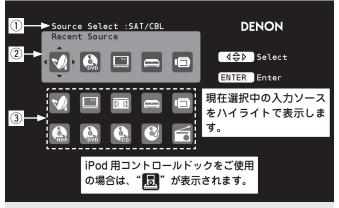
入力ソースの選択には、次の 3 つの方法があります。

① GUI メニューの“Source Select”メニューで選ぶ方法
② リモコンの入力ソース選択ボタンを使用して入力ソースを選ぶ方法
③ 本体の入力ソース切り替えつまみを使用して入力ソースを選ぶ方法

①“Source Select”メニューを使用する

“Source Select”メニューを使用しても、入力ソースを選ぶことができます。

1 [DEVICE SELECT 1] を“MAIN/TV”に、[DEVICE SELECT 2] を“MAIN”に設定する。

2 [SOURCE SELECT] を押す。
“Source Select”メニューが表示されます。

① **入力ソース（Source Select）**：ハイライト表示されている入力ソース名を表示します。
② **履歴（Recent Source）**：最近使用した入力ソースの履歴を 5 つまで表示します。
③ 各カテゴリーの入力ソースのアイコンを表示します。

ビデオ：（SAT/CBL）、（TV）、（VCR）、（DVR）、（V.AUX）
プレーヤー：（HDP）、（DVD）、（CD）、（PHONO）
チューナー：（TUNER）

3 △▽◁▷を押して入力ソースのアイコンを選び、ENTER を押す。
入力ソースを確定し、“Source Select”メニューを終了します。

- 使用しない入力ソースをあらかじめ設定することができます。“Source Delete”（☞40 ページ）で設定してください。
- 入力ソースを選ばずに“Source Select”メニューを終了させる場合は、もう一度 **[SOURCE SELECT]** を押してください。

② リモコンで操作する

1 [DEVICE SELECT 1] を“MAIN/TV”に、[DEVICE SELECT 2] を“MAIN”に設定する。

2 [INPUT SOURCE SELECT] を押す。
入力ソースをダイレクトに選べます。

③ 本体で操作する

<SOURCE SELECT> を回す。

※“ZONE2/3/Rec Select”または“Video Select”モードが選ばれている場合は、**<SOURCE>** を押してから **<SOURCE SELECT>** を回してください。

ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこなう（Audyssey™ Auto Setup） GUI

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。

❑ Audyssey Auto Setupのながれ

1 付属のセットアップマイクを接続する
（☞29ページ）

2 Audyssey Auto Setupの準備をする
（☞30ページ）

❑ アンプの割り当てを変更する（Amp Assign） （☞30ページ）
❑ 測定するチャンネルを設定する（Channel Select） （☞30ページ）

3 Audyssey Auto Setupをおこなう
（☞31ページ）

Audyssey Auto Setup後に測定結果やイコライザーの特性を確認する（Parameter Check） （☞33ページ）

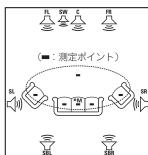
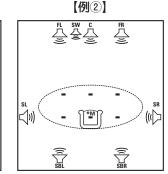
知っておいてほしいこと

本機のAudyssey Auto Setup機能であるAudyssey MultEQ®は、リスニングルームの音響特性の測定、解析および設定を自動的におこない、最適なホームシアターオーディオ環境を提供します。

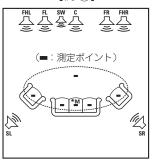
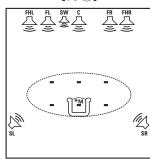
- Audyssey™ Auto Setup を おこなうと、MultEQ®、Dynamic EQ™ および Dynamic Volume™ の機能（☞57、58 ページ）が有効になります。
- Audyssey Auto Setup は、付属のセットアップマイク（DM-A409）を使用しておこないます。
- 測定は、【例①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るには、図のように 6 ポイントで測定することをおすすめします。
- リスニング環境が【例②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

❑ サラウンドバックスピーカーをご使用になるとき

【例①】

【例②】

❑ フロントハイトスピーカーをご使用になるとき

【例 ①】

【例 ②】

FL： フロントスピーカー（L）
FR： フロントスピーカー（R）
FHL： フロントハイトスピーカー（L）
FHR： フロントハイトスピーカー（R）
C： センタースピーカー
SW： サブウーハー
SL： サラウンドスピーカー（L）
SR： サラウンドスピーカー（R）
SBL： サラウンドバックスピーカー（L）
SBR： サラウンドバックスピーカー（R）

メインリスニングポイント（*M）について

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置、または一人で視聴するときに座る位置をいいます。Audyssey MultEQは、この位置からの測定値を用いて、スピーカー距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

ご注意

- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。室内の騒音が大きいとさらにテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができなくなります。
- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯などの電化製品をオフにしてください。測定はこれらの騒音の影響を受けることがあります。
  測定中、携帯電話はリスニングルームとは別の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨害する原因になることがあります。
- 測定中に **MASTER VOLUME** を操作すると、測定が中止します。

1 付属のセットアップマイクを接続する

- セットアップマイクは、Audyssey Auto Setup が完了するまで絶対に抜かないでください。
- ヘッドホンをご使用の場合は、Audyssey Auto Setup をおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

1 スピーカーの接続を確認する。
（☞15 ページ「スピーカーを接続する」）

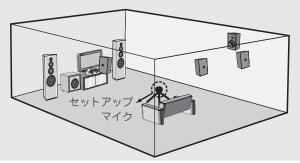
2 テレビやサブウーハーの電源を入れる。
テレビの入力を本機の入力に設定します。

3 本機の電源を入れる。
（☞24 ページ「電源を入れる」）

4 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。

セットアップマイクを接続すると、“Audyssey Auto Setup”画面が表示されます。

AUTO SETUP▶
AUDYSSEY AUTO SETUP
AUDYSSEY MultEQ DENON
STEP1 Preparation [1/6]
Connect the speakers and place them according to the recommendations in the manual.
Set the following items if necessary.
Amp Assign
Channel Select
Auto Setup Start
ENTER Enter RETURN Cancel
Start Auto Setup

5 セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。
セットアップマイクを設置する際は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。

音量調節やクロスオーバー周波数の設定ができるサブウーハーをご使用の場合は、Audyssey Auto Setup をはじめる前に、次の設定をおこなってください。

- 音量の設定：“12 時”の位置、またはサブウーハーの音量調節レンジを中央の位置
- ローパスフィルターの設定：“オフ”または
  クロスオーバー周波数の設定：“最大 / 最高周波数”
- 位相の設定：“0°”
- スタンバイモードの設定：“オフ”

ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながら Audyssey Auto Setup をおこなわないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

2 Audyssey Auto Setup の準備をする

□ で囲まれている項目は、お買い上げ時の設定です。

STEP1 Preparation（準備）

ご使用になるスピーカーの環境に合わせるなど、必要に応じて以下の設定をおこなってください。
以下の設定をおこなう必要がない場合や設定を終了する場合には、“Auto Setup Start” を選んで、**ENTER** を押してください。STEP2 に進みます。

アンプの割り当てを変更する（Amp Assign）

本機の SURR. BACK/AMP ASSIGN スピーカー端子から出力する信号を、ご使用になるスピーカー環境に合わせて切り替えて出力することができます（☞34 ページ “Amp Assign”）。

1 △▽ を押して “Amp Assign” を選び、**ENTER** を押す。

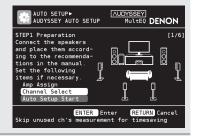
2 ◁ ▷ を押して “Amp Assign” モードを選び、**RETURN** を押す。

Normal	：サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。
ZONE2	：ゾーン 2 の音声を出力します。
ZONE3	：ゾーン 3 の音声を出力します。
ZONE2/3-MONO	：ゾーン 2、ゾーン 3 の音声をモノラルで出力します。
Front A Bi-Amp	：フロントスピーカー A のバイアンプ接続用に、フロントチャンネルの音声を出力します。
Front B Bi-Amp	：フロントスピーカー B のバイアンプ接続用に、フロントチャンネルの音声を出力します。
Front Height	：フロントハイトチャンネルの音声を出力します。

- SURR.BACK/AMP ASSIGN スピーカー端子に接続したスピーカーをゾーン 2 やゾーン 3 でご使用になる場合は、“ZONE2” または “ZONE3” に設定してください。
- 34 ページの “Amp Assign” でも同じように設定できます。

測定するチャンネルを設定する (Channel Select)

- **Front**
  測定するフロントスピーカーをあらかじめ設定します。
- **Subwoofer, Surround Back**
  使用しないチャンネルをあらかじめ設定すると、設定したチャンネルの測定をスキップして、測定時間を短縮することができます。

1 △▽ を押して “Channel Select” を選び、**ENTER** を押す。

2 △▽ を押してチャンネルを選び、◁ ▷ を押して項目を選び、**RETURN** を押す。

❑ Front

A	：フロントスピーカーを測定するときに、音声をフロントスピーカーAから出力します。
B	：フロントスピーカーを測定するときに、音声をフロントスピーカーBから出力します。
A +B	：フロントスピーカーを測定するときに、音声をフロントスピーカーAとBから同時に出力します。

❑ Subwoofer, Surround Back

Measure	：選んだチャンネルを測定します。
Skip	：選んだチャンネルをスキップし、測定しません。

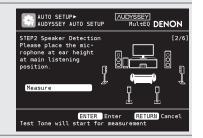
“Amp Assign” を “Normal” 以外に設定しているとき、“Surround Back” は表示されません。

3 Audyssey Auto Setupをおこなう

- Audyssey Auto Setupでは、スピーカーの接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離およびクロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。
- 測定をはじめると、各スピーカーからテストトーンを出力します。
- Audyssey Auto Setupをはじめる前に、すべてのスピーカーを設置し接続してください。

STEP2 Speaker Detection（スピーカー検出）

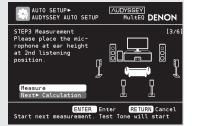
1 **△▽ を押して“Auto Setup Start”を選び、ENTER を押す。**

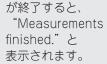
2 **“Measure”を選び、ENTER を押す。**

3 **すべてのスピーカーの検出が終わったら、スピーカー接続の有無の結果を確認する。**

4 **△▽ を押して“Next ► Measurement”を選び、ENTER を押す。**

※ △ を押して“Retry”を選び、**ENTER** を押すと、再びメインリスニングポイントの測定をはじめます。

STEP3 Measurement（測定）

5 **2ポイント目にセットアップマイクを移動させ、△▽ を押して“Measure”を選び、ENTER を押す。**
2ポイント目の測定をはじめます。

※ この手順を省略する場合は、“Next ► Calculation”を選んで、STEP4 へ進んでください。

6 **手順5をくり返して3〜6ポイントを測定する。**
6ポイント目の測定が終了すると、“Measurements finished.”と表示されます。

※ この手順を省略する場合は、“Next ► Calculation”を選んで、STEP4 へ進んでください。
※ メインリスニングポイントとその周囲を合わせて、6ポイントの測定をおこなってください。測定ポイントが5ポイント以下でも測定を終了することができますが、より良い結果を得るためには、6ポイントの測定をおすすめします。

STEP4 Calculation（解析）

7 **STEP3 の画面で △▽ を押して“Next ► Calculation”を選び、ENTER を押す。**
測定結果を自動的に解析し、リスニングルームにおける各スピーカーの特性を決定します。

※ 解析には数分間かかります。解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定ポイント数に依存します。
接続するスピーカーの数と測定ポイントが多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

STEP5 Check（解析結果）

8 **△▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。**

Speaker Config.Check（スピーカー構成確認）

Distance Check（距離確認）

Channnel Level Check（チャンネルレベル確認）

Crossover Freq. Check（クロスオーバー周波数確認）

※ サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

9 **RETURN を押す。**
他の項目を確認したいときは、手順8をおこなってください。

10 **▽ を押して“Next ► Store”を選び、ENTER を押す。**

次のページへ

STEP6 Store（保存）

11 **“Store”を選び、ENTER を押す。**
保存中は、“Now Storing... Please wait.”を表示します。

ご注意
解析結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。

12 **右の画面が表示されたら、本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。**

13 **“Exit”を選び、ENTER を押す。**

❑ GUI メニューを終了するとき

GUI メニューの表示中に **MENU** を押す。
GUI メニュー表示が消えます。

ご注意
Audyssey Auto Setup をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。もし変更した場合には、再び Audyssey™ Auto Setup をおこなってください。

- 接続している状態と異なる結果が出た場合や、エラーメッセージが表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞32 ページ）をご覧になり、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。
- 再測定後の結果も、接続している状態と異なる結果が出た場合や、再度エラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性がありますので、必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- **スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザーの補正を得るために、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。**

エラーメッセージについて

スピーカーの設置や測定環境などにより、Audyssey Auto Setup を完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目をチェックし、必要な処理をおこなってください。問題点を修正したら、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

ご注意 スピーカーの接続を確認する際は、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ（例）	エラー内容	処　理
AUTO SETUP▶ AUDYSSEY AUTO SETUP AUDYSSEY MultEQ DENON Caution! No microphone or Speaker Retry RETURN Cancel Check cause of problem!	• 付属のセットアップマイクが接続されていません。 • すべてのスピーカーが検出されません。 • フロント左スピーカーが正しく検出されません。	• 付属のセットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 • スピーカーの接続を確認してください。
AUTO SETUP▶ AUDYSSEY AUTO SETUP AUDYSSEY MultEQ DENON Caution! Ambient noise is too high or Level is too low Retry RETURN Cancel Check cause of problem!	• 部屋の騒音が大きいため、正しく測定できません。 • スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しく測定できません。	• 騒音を発生する機器の電源を切るか、遠ざけてください。 • 周囲がより静かなときに再度おこなってください。 • スピーカーの設置や向きを確認してください。 • サブウーハーの音量を調節してください。
AUTO SETUP▶ AUDYSSEY AUTO SETUP AUDYSSEY MultEQ DENON Caution! Front R None Retry RETURN Cancel Check cause of problem!	• 表示されたスピーカーが検出されませんでした。	• 表示されたスピーカーの接続を確認してください。
AUTO SETUP▶ AUDYSSEY AUTO SETUP AUDYSSEY MultEQ DENON Caution! Front L Phase Retry Skip RETURN Cancel Check cause of problem!	• 表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	• 表示されたスピーカーの極性を確認してください。 • スピーカーによっては、正しく接続してもこのエラーメッセージが表示される場合があります。接続が正しいときには、△▽ を押して“Skip”を選び、**ENTER** を押してください。

❑ 再び Audyssey Auto Setup をおこなうとき

△▽ を押して“Retry”を選び、**ENTER** を押す。

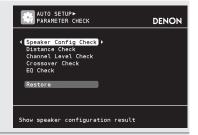
❑ 測定を中止するとき

RETURN を押すと“Cancel auto setup?”が表示されます。

◁ ▷ を押して“Yes”を選び、**ENTER** を押す。

Audyssey Auto Setup 後に測定結果やイコライザーの特性を確認する（Parameter Check）

この項目は、Audyssey Auto Setup 実行後に表示されます。

1 ▽ を押して“Parameter Check”を選び、**ENTER** または ▷ を押す。

2 △▽ を押して確認したい項目を選び、**ENTER** または ▷ を押す。

- **Speaker Config.Check**（スピーカー構成確認）
- **Distance Check**（距離確認）
- **Channnel Level Check**（チャンネルレベル確認）
- **Crossover Freq. Check**（クロスオーバー周波数確認）
- **EQ Check**（EQ確認）

各スピーカーの測定結果を表示します。

※ 手順 2 で“EQ Check”を選んだときは、△▽ を押して確認したい補正カーブ（“Audyssey”または“Audyssey Flat”）を選んでください。

※ 他の項目を確認したいときに **RETURN** を押すと、手順 2 に戻りますので、手順 2、3 をおこなってください。

“Restore”を“Yes”に設定すると、各設定を手動で変更した場合でもAudyssey Auto Setupの測定結果(MultEQ が当初計算した値)に戻すことができます。

詳細な設定をする（Manual Setup）

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「GUI メニューの操作のしかた」（☞26 ページ）をご覧ください。

Audyssey Auto Setup の設定内容を変更する場合や、音声、映像、表示などの設定を変更する場合に設定します。

- Audyssey Auto Setup をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ®、Dynamic EQ™およびDynamic Volume™の選択ができなくなります（☞57、58ページ）。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。
- 「GUI メニューマップ」と「GUI メニューの操作のしかた」は 25、26 ページをご覧ください。

❑ “Manual Setup” でできること

スピーカーの設定をする（Speaker Setup）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey Auto Setup で設定された内容を変更するときにおこなってください。

設定項目	設定内容
Amp Assign SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子に接続されたスピーカーに出力する信号を設定します。	**Normal**：サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。 **ZONE2**：ゾーン 2 の音声を出力します。 **ZONE3**：ゾーン 3 の音声を出力します。 **ZONE2/3-MONO**：マルチゾーン（ゾーン 2、ゾーン 3）の音声をモノラルで出力します。 **Front A Bi-Amp**：バイアンプ用の音声を出力します。フロントスピーカー A をバイアンプ再生するときに設定します。 **Front B Bi-Amp**：バイアンプ用の音声を出力します。フロントスピーカー B をバイアンプ再生するときに設定します。 **Front Height**：フロントハイトチャンネルの音声を出力します。
Speaker Configuration スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。 **ご注意** “Large” と “Small” の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、“Crossover Frequency”（☞36 ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。	**Front**：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • “Subwoofer” の設定が “No” の場合、“Front” の設定は自動的に “Large” になります。 • “Front” の設定が “Small” の場合、“Center”、“Surround”、“Surround Back” および “Front Height” を “Large” に設定することはできません。
	Center：センタースピーカーの有無 / 大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：センタースピーカーを使用しません。 “Front” の設定が “Small” の場合、“Large” は表示されません。
	Subwoofer：サブウーハーの有無を設定します。 • **Yes**：サブウーハーを使用します。 • **No**：サブウーハーを使用しません。 “Front” の設定が “Small” の場合、“Subwoofer” の設定は自動的に “Yes” になります。

リモコンの操作ボタン
MENU :メニューを表示する メニューを解除する
 :カーソルを移動する（上/下/左/右）
 :設定を確定する
RETURN :ひとつ前のメニューに戻る

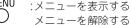
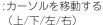
設定項目	設定内容
Speaker Configuration （つづき）	**Surround**：サラウンドスピーカーの有無 / 大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：サラウンドスピーカーを使用しません。 • “Surround” の設定が “Large” のとき、“Surround Back” および “Front Height”を“Large”に設定できます。 • “Surround” の設定が “None” のとき、“Surround Back” および “Front Height”の設定は自動的に“None”になります。
	Surround Back：サラウンドバックスピーカーの有無 / 大きさ / 本数を設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：サラウンドバックスピーカーを使用しません。 • **2spkrs**：サラウンドバックスピーカーを 2 台使用します。 • **1spkr**：サラウンドバックスピーカーを 1 台のみ使用します。 この設定を選んだときには、サラウンドバックスピーカーを左（L）チャンネルに接続してください。 • “Amp Assign”の設定（☞34 ページ）が“Normal”以外のときは、“Surround Back”の設定ができません。 • “Surround Back” を “None” 以外に設定しても、再生するソースによっては、サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない場合があります。この場合は、“Surround Parameter”⇨“Surround Back”（☞56 ページ）を“OFF”以外に設定してください。
	Front Height：フロントハイトスピーカーの有無 / 大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：フロントハイトスピーカーを使用しません。 “Amp Assign”の設定（☞34 ページ）が“Front Height”以外のとき、“Front Height”の設定はできません。

設定項目	設定内容
Bass Setting サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。	**Subwoofer Mode**：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE**：サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさが“Small”に設定されているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • **LFE+Main**：サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • “Speaker Configuration”⇨“Subwoofer”の設定（☞34 ページ）が“Yes”のときに設定できます。 • 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 • 常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+Main”に設定してください。
	LPF for LFE：LFE 信号の再生帯域を設定します。 • **80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz**
Distance リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	**Unit**：距離の単位を設定します。 • **Meters** • **Feet**
	Step：距離の最小可変幅を設定します。 • **0.1m** / **0.01m** • **1ft** / **0.1ft**
	Front L / **Front R** / **Center** / **Subwoofer** / **Surround L** / **Surround R** / **S. Back L＊** / **S. Back R＊** / **Front Height L** / **Front Height R**：スピーカーを選びます。 ＊：“Speaker Configuration”⇨“Surround Back”の設定（☞35 ページ）が“1spkr”のときは、“S. Back”を表示します。 • **0.00m ～ 18.00m** / **0.0ft ～ 60.0ft**：距離を設定します。 • “Speaker Configuration”（☞34 ページ）で“None”に設定したスピーカーは表示されません。 • “Amp Assign”（☞34 ページ）および“Speaker Configuration”（☞34 ページ）の設定により、選択できるスピーカーが異なります。 • お買い上げ時の設定： Front / Center / Subwoofer / Front Height：3.6 メートル（12 フィート） Surround / Surround Back：3.0 メートル（10 フィート） • 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 メートル（20.0 フィート）以下になるように設定してください。

次のページへ

詳細な設定をする（Manual Setup）

設定項目	設定内容
Distance （つづき）	**Default**：設定された内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：設定をお買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。 "Default"を選んで **ENTER** を押すと、"Default Setting?"というメッセージが表示されますので、"Yes" または "No" を選び、**ENTER** を押してください。
Channel Level 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	**Test Tone Start**：テストトーンを出力します。 • **Front L** / **Front Height L** / **Center** / **Front Height R** / **Front R** / **Surround R** / **S. Back R**＊ / **S. Back L**＊ / **Surround L** / **Subwoofer**：スピーカーを選びます。 ＊："Speaker Configuration"⇨"Surround Back"の設定（☞35 ページ）が "1spkr" のときは、"S. Back" を表示します。 • **-12.0dB ～ 12.0dB（<u>0.0dB</u>）**：音量を調節します。 • "Speaker Configuration" の設定（☞34 ページ）で、"None" に設定されているスピーカーは表示しません。 • サブウーハーの音量が "-12dB" のときに ◁ を押すと、"Subwoofer" の設定は "OFF" になります。 • 本体の PHONES 端子にヘッドホンが挿入されている場合は、"Channnel Level" を表示しません。 • リモコンの **CHANNEL LEVEL** を押しても設定できます（☞64 ページ「チャンネルレベルを調節する」）。
	Default：設定された内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：設定をお買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。 "Default"を選んで **ENTER** を押すと、"Default Setting?"というメッセージが表示されますので、"Yes" または "No" を選び、**ENTER** を押してください。
Crossover Frequency 各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。クロスオーバー周波数は、スピーカーの低音域の再生能力に合わせて設定してください。	**40Hz** / **60Hz** / **<u>80Hz</u>** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz**：クロスオーバー周波数を設定します。 **Advanced**：スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。 • **Front** / **Center** / **Surround** / **Surround Back** / **Front Height**：スピーカーを選びます。 • **40Hz** / **60Hz** / **80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz**：クロスオーバー周波数を設定します。

設定項目	設定内容
Crossover Frequency （つづき）	• "Speaker Configuration" ⇨ "Subwoofer" の設定（☞34 ページ）が "Yes"、またはいずれかのスピーカーが "Small" に設定されているときに設定できます。 • クロスオーバー周波数は、通常 "80Hz" に設定してください。ただし、小型スピーカーをご使用になる場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。 • "Small" に設定されているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。 • "Subwoofer Mode"（☞35 ページ）の設定により、"Advanced" のときに設定できるスピーカーが異なります。 • "LFE" の場合は、"Speaker Configuration" で "Small" に設定されているスピーカーの設定ができます。"Large" に設定されているスピーカーのときは、"Full Band" が表示され、設定できません。 • "LFE+Main" の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。
Front Speaker Setup サラウンドモードごとに使用するフロントスピーカーを設定します。	**Setting**：フロントスピーカーの設定方法を選びます。 • **<u>Normal</u>**：**<FRONT SPEAKERS>** を使用して、フロントスピーカーの設定をします。 • **Custom**：再生モードごとに使用するフロントスピーカーをあらかじめ設定します。 **2CH DIRECT/STEREO**：ダイレクト再生、ステレオ再生およびピュアダイレクト再生（2 チャンネル）時に使用するフロントスピーカーをあらかじめ設定します。 • **<u>A</u>**：フロントスピーカー A を使用します。 • **B**：フロントスピーカー B を使用します。 • **A+B**：フロントスピーカー A と B の両方を使用します。 **MULTI CH**：ダイレクト再生、ステレオ再生およびピュアダイレクト再生（2 チャンネル）以外の再生モード時に使用するフロントスピーカーをあらかじめ設定します。 • **<u>A</u>**：フロントスピーカー A を使用します。 • **B**：フロントスピーカー B を使用します。 • **A+B**：フロントスピーカー A と B の両方を使用します。 **NOTE** • "Custom" に設定したときは、**<FRONT SPEAKERS>** での操作はできません。 • "Quick Select" に記憶しているフロントスピーカーの設定を優先します。

HDMIの設定をする（HDMI Setup） GUI

<u>お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。</u>

HDMIの映像や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
RGB Range HDMI 端子から出力する映像信号の方式を設定します。	**<u>Normal</u>**：RGB の映像方式（16（黒）～ 235（白））で出力します。 **Enhanced**：RGB の映像方式（0（黒）～ 255（白））で出力します。 DVI 端子付きのテレビを使用時に有効です。
Auto Lip Sync 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	**<u>ON</u>**：補正します。 **OFF**：補正しません。
Audio Out HDMI の音声の出力先を設定します。	**<u>AMP</u>**：本機に接続されたスピーカーで再生します。 **TV**：本機に接続されたテレビで再生します。 HDMI コントロール機能がはたらいているときは、本機に接続されたテレビの音声設定を優先します（☞63 ページ「HDMI コントロール機能」）。
HDMI Control 外部機器を本機で操作したり、外部機器から本機を操作したりします。 **ご注意** HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロールをおこなうときは、必ずテレビを接続してください。	**ON**：HDMI コントロール機能を使用します。 **<u>OFF</u>**：HDMI コントロール機能を使用しません。 • 接続された機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 • HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」（☞63 ページ）をご覧ください。 **ご注意** • **本設定を“ON”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。** • 長期間本機を使用しない場合は、本体の電源スイッチ（▬ON ■OFF）を押して電源を切る（■OFF）ことをおすすめします。 •“HDMI Control”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。 • 本機の電源を切ると、HDMI コントロール機能は動作しません。電源を入れるか、スタンバイ状態にしてください。 •“HDMI Control”を“ON”に設定すると、常に AC アウトレット（UNSWITCHED）より電源が供給されます。

設定項目	設定内容
Standby Source スタンバイ時に HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。	**<u>Last</u>**：電源がオンのときに、最後に使用していた入力ソースのままスタンバイします。 **HDMI1** / **HDMI2** / **HDMI3** / **HDMI4** / **HDMI5**：それぞれの入力端子が割り当てられている入力ソースでスタンバイします。 “HDMI Control”の設定が“ON”のときに設定できます。
Power Off Control 本機と外部機器の電源オフを連動します。	**<u>ON</u>**：連動させます。 **OFF**：連動させません。 •“HDMI Control”の設定が“ON”のときに設定できます。 • 接続された機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 • HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」（☞63 ページ）をご覧ください。

音声の設定をする（Audio Setup） GUI

<u>お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。</u>

音声の再生に関する設定をします。

設定項目	設定内容
EXT. IN SW Level 外部入力端子（EXT. IN）から入力されたサブウーハー信号の再生レベルを設定します。	**<u>+15dB</u>**：推奨レベルです。 **+10dB** / **+5dB** / **0dB**：ご使用になるプレーヤーに合わせて設定します。
2ch Direct/Stereo 2 チャンネルモードで再生するときのスピーカーの各種設定をします。	**Setting**：2 チャンネルのダイレクト再生またはステレオ再生時に使用するスピーカーの設定方法を選びます。 • **<u>Basic</u>**：“Speaker Configuration”（☞34 ページ）の設定内容を適用します。 • **Custom**：2 チャンネル専用の設定をします。
	Front：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **<u>Large</u>**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 “Speaker Configuration”⇨“Subwoofer”（☞34 ページ）の設定が“No”のときは、自動的に“Large”になります。

次のページへ

詳細な設定をする（Manual Setup）

設定項目	設定内容
2ch Direct/Stereo （つづき）	**Subwoofer**：サブウーハーの有無を設定します。 • **Yes**：サブウーハーを使用します。 • **No**：サブウーハーを使用しません。 "Speaker Configuration" ⇨ "Subwoofer"（☞34 ページ）の設定が "No" のときは、自動的に "No" になります。また、"Front" の設定が "Small" のときは、自動的に "Yes" になります。
	SW Mode：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE**："2ch Direct/Stereo" ⇨ "Front" の設定（☞37 ページ）が "Large" に設定されている場合は、サブウーハーから LFE 信号のみを出力します。また、"2ch Direct/Stereo" ⇨ "Front" の設定が "Small" に設定されている場合は、LFE 信号にフロントチャンネルの低音域信号を加えて、サブウーハーから出力します。 • **LFE+Main**：LFE 信号に、フロントチャンネルの低音域信号を加えて、サブウーハーから出力します。 "2ch Direct/Stereo" ⇨ "Subwoofer" の設定（☞38 ページ）が "Yes" のときに設定できます。
	Crossover：各チャンネルからサブウーハーに出力する、低音域信号の上限の周波数を設定します。 • **40Hz** / **60Hz** / **80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz** • "2ch Direct/Stereo" ⇨ "Subwoofer" の設定（☞38 ページ）が "Yes" のときに設定できます。 • "Front" の設定が "Large" で、"SW Mode" の設定が "LFE" のときは、"Full Band" が表示され設定できません。
	Distance FL / **Distance FR**：スピーカーを選びます。 • **0.00m** ～ **18.00m**（**3.60m**）/**0.0ft** ～ **60.0ft**（**12.0ft**）：スピーカーまでの距離を設定します。 フロント左スピーカーとフロント右スピーカーの距離の差は、6.00 メートル（20.0 フィート）以下になるように設定してください。
	Level FL / **Level FR**：スピーカーを選びます。 • **-12.0dB** ～ **+12.0dB**（**0.0dB**）：各チャンネルのレベルを調節します。

設定項目	設定内容
Auto Surround Mode 入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。	**ON**：記憶します。入力信号の種類に対して、最後に設定したサラウンドモードで、自動的に再生します。 **OFF**：記憶しません。入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。 • オートサラウンドモードは、次の 4 種類の入力信号に対して、最後に設定したサラウンドモードを記憶します。 ① アナログや PCM の 2 チャンネル信号 ② ドルビーデジタルや DTS などの 2 チャンネル信号 ③ ドルビーデジタルや DTS などのマルチチャンネル信号 ④ ドルビーデジタルや DTS 以外のマルチチャンネル信号（PCM など） • ピュアダイレクト再生中は、入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。
EQ Customize リモコンの **MULTEQ** を押したときに、使用しないイコライザーが表示されないように設定します。 "Quick Select" で "Not Used" に設定したイコライザーを記憶させて呼び出すことはできません。	**Audyssey Byp. L/R**："Audyssey Byp. L/R" イコライザーを使用しないときに設定します。 • **Used**：使用します。 • **Not Used**：使用しません。 Audyssey™ Auto Setup を実行すると、"Audyssey Byp. L/R" の設定ができます。
	Audyssey Flat："Audyssey Flat" イコライザーを使用しないときに設定します。 • **Used**：使用します。 • **Not Used**：使用しません。 Audyssey™ Auto Setup を実行すると、"Audyssey Flat" の設定ができます。
	Manual："Manual" イコライザーを使用しないときに設定します。 • **Used**：使用します。 • **Not Used**：使用しません。
Bilingual Mode AAC ソースやドルビーデジタルソースの二重音声の出力内容を設定します。	**Main**：主音声のみ出力します。
	Sub：副音声のみ出力します。
	Main/Sub：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。
	Main+Sub：主音声と副音声がミックスされて出力します。

マルチゾーンの設定をする（Zone Setup）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

マルチゾーン（ゾーン 2、ゾーン 3）で再生する音声の設定をします。

設定項目	設定内容
Bass 低音のトーンを調節します。	**-10dB** ～ **+10dB**（**0dB**）
Treble 高音のトーンを調節します。	**-10dB** ～ **+10dB**（**0dB**）
HPF 低音が歪んで聞こえるときに、低域成分をカットして出力します。	**OFF**：低域成分をカットしません。 **ON**：低域成分をカットして出力します。
Level Lch 左チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB** ～ **12dB**（**0dB**） “Level Lch”は、“Channel”の設定（☞39 ページ）が“Stereo”のときに設定できます。
Level Rch 右チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB** ～ **12dB**（**0dB**） “Level Rch”は、“Channel”の設定（☞39 ページ）が“Stereo”のときに設定できます。
Channel マルチゾーンから出力する信号を設定します。	**Stereo**：ステレオ信号を出力します。 **Mono**：モノラル信号を出力します。 “Amp Assign”（☞34 ページ）を“ZONE2/3-MONO”に設定すると、“Channel”の設定は自動的に“Mono”になります。
Volume Display 音量の表示方法を設定します。	**Relative**：- - -dB（最小）、-80dB ～ 18dB の範囲で表示します。 **Absolute**：0（最小）～ 99 の範囲で表示します。 • “Volume Display”を設定すると、“Volume Level”、“Volume Limit”や“Power On Level”の表示方法も切り替わります。 • “Volume Display”の設定は、すべてのゾーンに対して適用します。
Volume Level 音量出力レベルを設定します。	**Variable**：本機やリモコンで音量の調節ができます。 **-40dB**（**41**）：音量は常に -40dB になります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 **0dB**（**81**）：音量は常に 0dB になります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 “Amp Assign”の設定（☞34 ページ）が“ZONE2”、“ZONE3”または“ZONE2/3-MONO”のとき、“Volume Level”は“Variable”になります。
Volume Limit 音量の上限を設定します。	**OFF**：設定しません。 **-20dB**（**61**）/ **-10dB**（**71**）/ **0dB**（**81**） マルチゾーンの“Volume Level”の設定（☞39 ページ）が“Variable”のときに設定できます。
Power On Level 電源を入れた時の音量を設定します。	**Last**：記憶している音量になります。 **- - -**（**0**）：常に電源を入れたときは消音状態になります。 **-80dB** ～ **18dB**（**1** ～ **99**）：設定した音量になります。 マルチゾーンの“Volume Level”の設定（☞39 ページ）が“Variable”のときに設定できます。
Mute Level ミューティング時の音量の減衰量を設定します。	**Full**：消音状態になります。 **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。

ご使用になる前に
接続
設定
再生
マルチゾーン
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

その他の設定をする（Option Setup）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定項目	設定内容
Volume Control メインゾーンの音量に関する設定をします。	**Volume Display**：音量の表示方法を設定します。 • **Relative**：- - -dB（最小）、-80dB ～ 18dB の範囲で表示します。 • **Absolute**：0（最小）～ 99 の範囲で表示します。 • “Volume Display” を設定すると、“Volume Limit” や “Power On Level” の表示方法も切り替わります。 • “Volume Display” の設定は、すべてのゾーンに対して適用します。
	Volume Limit：音量の上限を設定します。 • **OFF**：設定しません。 • **-20dB（61）/ -10dB（71）/ 0dB（81）**
	Power On Level：電源を入れたときの音量を設定します。 • **Last**：記憶している音量になります。 • **- - -（0）**：常に電源を入れたときは消音状態になります。 • **-80dB ～ 18dB（1 ～ 99）**：設定した音量になります。
	Mute Level：ミューティング時の音量の減衰量を設定します。 • **Full**：消音状態になります。 • **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 • **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。
Source Delete 使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	**PHONO / CD / DVD / HDP / TV / SAT/CBL / VCR / DVR / V.AUX / TUNER**：使用しない入力ソースを選びます。 • **ON**：使用します。 • **Delete**：使用しません。 ご注意 • 選択中の入力ソースの設定はできません。 • “Delete” に設定された入力ソースは、本体またはリモコンの **SOURCE SELECT** を操作しても選択できません。
GUI GUI の表示に関する設定をします。	**Screensaver**：スクリーンセーバーの表示を設定します。 • **ON**：GUI メニューの表示中や iPod 再生画面を表示中に、約 3 分間何も操作しない状態が続くと、スクリーンセーバーが動作します。△▽◁ ▷ を押すと、スクリーンセーバーを解除し、前の画面を表示します。 • **OFF**：使用しません。

設定項目	設定内容
GUI （つづき）	**Wall Paper**：再生停止中などに背景に表示する壁紙を設定します。 • **Picture**：背景をピクチャー画面（DENON ロゴ）にします。 • **Black**：背景を黒色にします。
	Format：ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。 • **NTSC**：NTSC 方式で出力します。 • **PAL**：PAL 方式で出力します。 “Format” は、以下の操作でも設定できます。このとき、GUI 画面は表示されません。 **1**. 本体の **AUDIO DELAY** と **RETURN** を 3 秒以上長押しする。 ディスプレイに “Video Format” を表示します。 **2**. ◁ ▷ を押して映像信号方式を設定する。 **3**. 本体の **ENTER**、**MENU** または **RETURN** を押して、設定を終了する。 ご注意 接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。
	Text：サラウンドモードや入力モードなどの切り替え操作時にモード名を表示します。 • **ON**：表示します。 • **OFF**：表示しません。
	Master Volume：主音量調節時に主音量レベルを表示します。 • **Bottom**：画面下に表示します。 • **Top**：画面上に表示します。 • **OFF**：表示しません。 主音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“Top” に設定してください。
	iPod：入力ソースが “iPod” のときに、iPod 画面の表示時間を設定します。 • **Always**：常に表示します。 • **30s**：30 秒間表示します。 • **10s**：10 秒間表示します。 • **OFF**：表示しません。

設定項目	設定内容
Quick Select Name “Quick Select” の表示名をお好みの名前に変更します。	**1.** △▽ を押して変更したいクイックセレクト名を選び、▷ または **ENTER** を押す。 **2.** ◁ ▷ を押して変更したい文字にカーソルを合わせる。 **3.** △▽ を押して文字を変更し、**ENTER** を押す。 ・16 文字まで入力できます。 ・文字を入力中にリモコンの **SEARCH** を押すと、文字の種類を切り替えることができます。 ・入力できる文字の種類は次のとおりです。 **【英大文字】** **ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ** **【英小文字】** **abcdefghijklmnopqrstuvwxyz** **【記号】** **! “ # $ % & ′ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` { | } ˜** **【数字】** **0123456789**（空白） **4.** 手順 1 ～ 3 をくり返し、表示名を変更する。
Zone Rename 各ゾーンの表示名をお好みの名前に変更します。	**1.** △▽ を押して変更したいゾーン名（メインゾーン、ゾーン 2 またはゾーン 3）を選び、▷ または **ENTER** を押す。 **2.** ◁ ▷ を押して変更したい文字にカーソルを合わせる。 **3.** △▽ を押して文字を変更し、**ENTER** を押す。 ・10 文字まで入力できます。 ・文字を入力中にリモコンの **SEARCH** を押すと、文字の種類を切り替えることができます。 ・入力できる文字の種類は次のとおりです。 **【英大文字】** **ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ** **【英小文字】** **abcdefghijklmnopqrstuvwxyz** **【記号】** **! “ # $ % & ′ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` { | } ˜** **【数字】** **0123456789**（空白） **4.** 手順 1 ～ 3 をくり返し、表示名を変更する。

設定項目	設定内容
Trigger Out 1 入力ソースやサラウンドモードなどに対して、トリガーアウト 1 を動作させる条件を選びます。 トリガーアウトについては、「トリガー出力端子」（☞23 ページ）をご覧ください。 **Trigger Out 2** “Trigger Out 1” と同様に、トリガーアウト 2 を動作させる条件を選びます。	**❑ ゾーン（MAIN ZONE / ZONE2 / ZONE3）に対して設定するとき** “ON” に設定されたゾーンの電源に連動して、トリガーアウトが動作します。 **❑ 入力ソースに対して設定するとき** “ON” に設定された入力ソースが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。 「ゾーンに対して設定するとき」で “ON” に設定されたゾーンに対して有効です。 **❑ サラウンドモードに対して設定するとき** “ON” に設定されたサラウンドモードが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。 「ゾーンに対して設定するとき」で “MAIN ZONE” が “ON”、「入力ソースに対して設定するとき」で “ON” に設定されている入力ソースが選ばれているときに有効です。 • **ON**：出力の条件にします。 • **- - -**：条件にしません。 “Default” を選んで **ENTER** を押すと、“Default Setting?” というメッセージが表示されますので、“Yes” または “No” を選び、**ENTER** を押してください。
Remote ID 本機のリモコンで、他の DENON 製 AV アンプが動作してしまうときに設定します。ご使用になるリモコンと本機のリモコン ID を合わせてください。	**1** / **2** / **3** / **4** 付属のリモコン（RC-1118）をご使用になる場合は、リモコン ID を “1”（お買い上げ時の設定）に設定してください。別売りのリモコン（RC-7000CI など）を使用して、リモコン ID を設定したときは、本機とリモコンのリモコン ID を合わせてください。
232C Port RS-232C 端子に外部コントローラーまたは双方向リモコンを接続して使用するときに設定します。	**Serial Control**：外部コントローラーを使用します。 **2Way Remote**：双方向リモコンを使用します。 DENON 製双方向リモコン（RC-700CI や RC-7001RCI、別売り）をご使用になる場合は、“2Way Remote” に設定してください。 **ご注意** “232C Port” を “2Way Remote” に設定している場合、RS-232C 端子を外部コントローラー用として使用できません。
Dimmer 本体のディスプレイ表示の明るさを調節します。	**Bright**：通常の明るさです。 **Dim**：薄暗くします。 **Dark**：暗くします。 **OFF**：ディスプレイを消灯します。

次のページへ

設定項目	設定内容
Setup Lock 設定した内容を変更できないように保護します。	**OFF**：設定した内容を保護しません。 **ON**：設定した内容を保護します。 • “Setup Lock”を“ON”に設定すると、以下の設定が変更できなくなります。また、以下の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに“SETUP LOCKED!”を表示します。 ·GUI メニュー操作 ·Dynamic Volume ·RESTORER ·Channel level ·Audio/Video Adjust ·Audio Delay ·MultEQ ·Input Mode ·Dynamic EQ • 設定を解除するときは、“Setup Lock”を“OFF”に設定してください。

入力の設定をする（Input Setup） GUI

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「GUI メニューの操作のしかた」（☞26 ページ）をご覧ください。

現在選択している入力ソースに関する設定をします。
GUIメニュー画面を表示させる前に、リモコンの **SOURCE SELECT** ボタンで設定をおこなう入力ソースに切り替えてください。
設定できる項目は選択している入力ソースにより異なります。
設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。
「GUIメニューマップ」と操作方法については、25、26ページをご覧ください。

❑ “Input Setup”でできること

- **入力端子の割り当てを変更する（Input Assign）☞43ページ**
- **映像の設定をする（Video）☞45ページ**
- **入力モードとデコードモードを設定する（Input Mode）☞46ページ**
- **入力ソースの表示名を変更する（Rename）☞47ページ**
- **入力ソースの再生レベルを補正する（Source Level）☞47ページ**
- **iPod用コントロールドックの再生モードを設定する（Playback Mode）☞47ページ**

リモコンの操作ボタン

MENU ：メニューを表示する メニューを解除する

：カーソルを移動する（上/下/左/右）

ENTER ：設定を確定する

RETURN ：ひとつ前のメニューに戻る

知っておいてほしいこと

本書内の入力ソースの表示について

本書では、各項目で設定できる入力ソース名を次のようにあらわします。

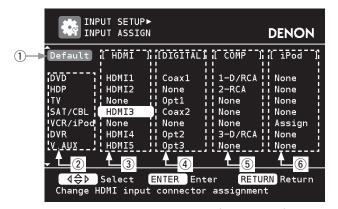
PHONO CD DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX TUNER

ご注意

“Source Delete”（☞40 ページ）で“Delete”に設定した入力ソースは選択できません。

入力端子の割り当てを変更する（Input Assign） GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

❑ “Input Assign”メニュー画面の表示例

① 初期化ボタン
② 入力ソース
③ HDMI 入力
④ デジタルオーディオ入力
⑤ コンポーネントビデオ入力
⑥ iPod 用コントロールドック

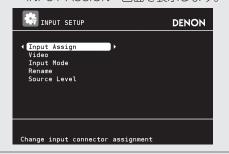
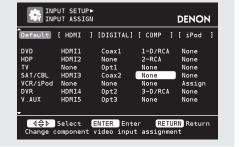
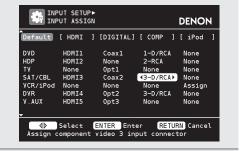
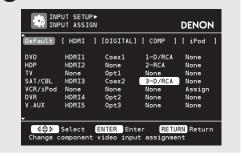
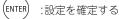
❑ “Input Assign”メニューの操作のしかた

1 **MENU を押す。**

テレビ画面にGUIメニューを表示します。

△▽ を押して“Input Setup”を選び、ENTER または ▷ を押す。

2 **“Input Assign”を選び、ENTER または ▷ を押す。**

“INPUT ASSIGN”画面を表示します。

3 **△▽◁ ▷ を押して、設定したい項目へオレンジのハイライトを移動させる。**

4 **ENTER を押して、◁ ▷ で割り当てたい入力端子を選ぶ。**

5 **ENTER を押して設定を確定する。**

入力の設定をする（Input Setup）

設定項目	設定内容
HDMI 入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。	DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX の入力ソースに次の HDMI 入力端子を割り当てます。 **HDMI 1** / **HDMI 2** / **HDMI 3** / **HDMI 4** / **HDMI 5** **None**：選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。 ※ 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	DVD	HDP	TV	SAT/CBL	VCR	DVR	V.AUX
お買い上げ時の設定	HDMI 1	HDMI 2	None	HDMI 3	None	HDMI 4	HDMI 5

- HDMI 入力端子を割り当てできない入力ソースには、“- - -”が表示されます。
- “HDMI”で割り当てた映像信号と“Input Assign” ⇨ “Digital”で割り当てた音声信号を組み合わせて再生する場合は、“Input Mode”（☞46 ページ）を“Digital”に設定してください。
- 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続したとき、テレビが HDMI 音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみをテレビに出力します。
- アナログ端子、デジタル端子および外部入力（EXT. IN）端子から入力された音声信号は、テレビには出力されません。
- iPod 用コントロールドックをご使用の入力ソースでは、HDMI 入力端子を割り当てていても無効になります。
- “HDMI Control”を“ON”に設定している場合、“TV”に HDMI を割り当てることはできません。

設定項目	設定内容
Digital 入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。	DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX TUNER CD の入力ソースに次のデジタル音声入力端子を割り当てます。 **Coax 1**（同軸デジタル入力端子）/ **Coax 2** / **Coax 3** / **Opt 1**（光デジタル入力端子）/ **Opt 2** / **Opt 3** **None**：選択した入力ソースにデジタル入力端子を割り当てません。

設定項目	設定内容
Digital （つづき）	※ 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	DVD	HDP	TV	SAT/CBL	VCR
お買い上げ時の設定	Coax 1	None	Opt 1	Coax 2	None

入力ソース	DVR	V.AUX	TUNER	CD
お買い上げ時の設定	Opt 2	Opt 3	None	Coax 3

iPod 用コントロールドックをご使用の入力ソースでは、デジタル入力端子を割り当てていても無効になります。

設定項目	設定内容
Component 入力ソースに割り当てられているコンポーネントビデオ（D）入力端子を変更するときに設定します。	DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX の入力ソースに次のコンポーネントビデオ（D）入力端子を割り当てます。 **1D/RCA**（コンポーネントビデオ（D）1 入力端子）/ **2-RCA**（コンポーネントビデオ 2 入力端子）/ **3D/RCA**（コンポーネントビデオ（D）3 入力端子） **None**：選択した入力ソースにコンポーネントビデオ（D）入力端子を割り当てません。 ※ 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	DVD	HDP	TV	SAT/CBL	VCR	DVR	V.AUX
お買い上げ時の設定	1D/RCA	2-RCA	None	None	None	3D/RCA	None

- コンポーネントビデオ（D）入力端子を割り当てできない入力ソースには、“- - -”が表示されます。
- iPod 用コントロールドックをご使用の入力ソースでは、コンポーネントビデオ（D）入力端子を割り当てていても無効になります。

設定項目	設定内容
iPod dock iPod 用コントロールドックの割り当てを変更します。	**DVD** **HDP** **TV** **SAT/CBL** **VCR** **DVR** **V.AUX** **TUNER** **CD** の入力ソースに iPod 用コントロールドックを割り当てます。 **Assign**：選択した入力ソースに、iPod 用コントロールドックの入力を割り当てます。 **None**：選択した入力ソースに、iPod 用コントロールドックの入力を割り当てません。 • お買い上げ時の設定は“VCR”です。 • 本機に iPod 用コントロールドックを接続していないときは、“iPod dock”の割り当ては無効になり、通常の入力ソースとしてお使いいただけます。 • 映像ファイルを再生する場合は、S ビデオ端子のある入力ソースに割り当ててください。
Default 設定された内容をお買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：設定をお買い上げ時の設定に戻します。 **No**：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。 “Default”を選んで **ENTER** を押すと、“Default Setting?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、**ENTER** を押してください。

映像の設定をする（Video） GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定項目	設定内容
Video Select 映像入力をお好みの入力ソースに切り替えます。	**Source**：入力ソースの映像と音声を再生します。 **DVD** / **HDP** / **TV** / **SAT/CBL** / **VCR** / **DVR** / **V.AUX**：見たい映像の入力ソースを選びます。入力ソースごとに設定できます。 本体またはリモコンの **VIDEO SELECT** を押しても設定できます。 • リモコンで操作する場合 見たい映像が表示されるまで **VIDEO SELECT** を押す。 解除するときは、**VIDEO SELECT** を押して“Source”を選ぶ。 • 本体で操作する場合 **VIDEO SELECT** を押した後、見たい映像が表示されるまで **SOURCE SELECT** を回す。 解除するときは、**VIDEO SELECT** を押した後に **SOURCE SELECT** を回して、“Source”を選ぶ。 **ご注意** • HDMI 入力信号は選べません。 • HDMI 信号には、ビデオセレクト機能ははたらきません。 • “Source Delete”（☞40 ページ）で“Delete”に設定した入力ソースは選べません。
Video Convert 入力された映像信号を、接続されたテレビに合わせて自動的に変換します（☞12 ページ「入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）」）。	入力ソースが **DVD** **HDP** **TV** **SAT/CBL** **VCR** **DVR** **V.AUX** のときに設定できます。 **ON**：入力された映像信号を変換します。 **OFF**：入力された映像信号を変換しません。 • ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。このような場合は、“Video Convert”を“OFF”に設定してください。 • “Video Convert”を“OFF”に設定すると、ビデオコンバージョン機能ははたらきませんので、本機とテレビの接続に同じ種類の映像ケーブルを使用してください。

次のページへ

入力の設定をする（Input Setup）

設定項目	設定内容
i/p Scaler 入力ソースの解像度を、設定した解像度に変換します。	入力ソースが DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX のときに設定できます。 **Analog**：アナログ映像入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。 **Analog & HDMI**：アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号の両方に対して、i/p スケーラー機能を使用します。 **OFF**：i/p スケーラー機能を使用しません。 • "Video Convert" の設定が "ON" のときに設定できます。 • "Analog & HDMI" は、HDMI 入力端子を割り当てている入力ソースに対して設定できます。 • 入力信号が x.v.Color 信号およびコンピューター解像度のときは、効果がありません。
Resolution HDMI 端子へ出力する、映像信号の解像度を設定します。	入力ソースが DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX のときに設定できます。 **Auto**：HDMI 出力に接続しているモニターのパネル画素数を自動的に検出し、適切な解像度で出力します。 **480p/576p** / **1080i** / **720p** / **1080p** / **1080p:24Hz**：出力したい解像度を選びます。 • "i/p Scaler" の設定が "OFF" 以外のときに設定できます。 • "i/p Scaler" の設定が "Analog & HDMI" のときは、アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号の解像度をそれぞれ設定できます。 • 1080p/24Hz の映像をお楽しみいただくときは、1080p/24Hz の映像信号に対応しているテレビを使用してください。 • "1080p/24Hz" に設定すると、フィルムソース（24Hz）のときに、フィルムライクな映像を楽しむことができます。ビデオソースやミックスソースの場合は、"1080p" に設定することをおすすめします。 • 50Hz の信号を 1080p/24Hz へ変換することはできません。1080p/50Hz の解像度で出力します。
Progressive Mode 映像素材に最適なプログレッシブモードを選択します。	入力ソースが DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX のときに設定できます。 **Auto**：映像の素材を自動的に検出し、適切なモードを設定します。 **Video 1**：ビデオ素材の再生に適しています。 **Video 2**：ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。 "i/p Scaler" の設定が "OFF" 以外のときに設定できます。
Aspect HDMI 端子へ出力する、映像信号のアスペクト比を設定します。	入力ソースが DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX のときに設定できます。 **Full**：16:9 のアスペクト比で出力します。 **Normal**：4:3 のアスペクト比で出力します。 "i/p Scaler" の設定が "OFF" 以外のときに設定できます。

入力モードとデコードモードを設定する（Input Mode）

GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選択できる入力モードは、入力ソースや "Input Assign" の設定（☞43 ページ）によって異なります。

設定項目	設定内容
Input Mode 各入力ソースの音声入力モードを設定します。	**Auto**：本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。 **HDMI**：HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。 **Digital**：デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。 **Analog**：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。 **EXT. IN**：外部入力端子（EXT. IN）からの入力信号のみを再生します。 • "HDMI" は、"Input Assign"（☞44 ページ）で "HDMI" を割り当てられている入力ソースのときに選べます。 • "Digital" は、"Input Assign"（☞44 ページ）で "Digital" を割り当てられている入力ソースのときに選べます。 • デジタル信号が正しく入力されると、ディスプレイの "DIG." 表示が点灯します。"DIG." 表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当てや接続を確認してください。 • 入力モードが "EXT. IN" のときは、サラウンドモードの設定ができません。 • リモコンの **INPUT MODE** を押しても設定できます。ボタンを押すたびに、入力モードの表示が切り替わります。

リモコンの操作ボタン

MENU :メニューを表示する
メニューを解除する

 :カーソルを移動する
（上/下/左/右）

ENTER :設定を確定する

RETURN :ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
Decode Mode 入力ソースのデコードモードを設定します。	入力ソースが DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX CD TUNER のときに設定できます。 **Auto**：デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。 **PCM**：PCM 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 **DTS**：DTS 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 •“Input Assign”（☞44 ページ）で“HDMI”または“Digital”に割り当てられている入力ソースのときに選ぶことができます。 •通常は“Auto”に設定してください。“PCM”や“DTS”は、それぞれの入力信号を再生するときに設定してください。

入力ソースの表示名を変更する（Rename） GUI

設定項目	設定内容
Rename 選択した入力ソースの表示名を変更します。	**1.** ▷ または **ENTER** を押す。 **2.** ◁ ▷ を押して変更したい文字にカーソルを合わせる。 **3.** △▽ を押して文字を変更し、**ENTER** を押す。 •8 文字まで入力できます。 •文字を入力中にリモコンの **SEARCH** を押すと、文字の種類を切り替えることができます。 •入力できる文字の種類は以下のとおりです。 **［英大文字］** **ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ** **［英小文字］** **abcdefghijklmnopqrstuvwxyz** **［記号］** **! “ # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` { | } ˜** **［数字］** **0123456789**（空白） **4.** 手順 2、3 をくり返し、表示名を変更する。
Default 設定内容をお買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “Default”を選んで **ENTER** を押すと、“Default Setting?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、**ENTER** を押してください。

入力ソースの再生レベルを補正する（Source Level） GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

•選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
•ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

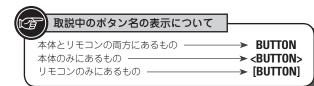
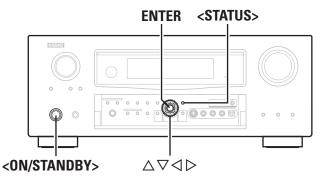
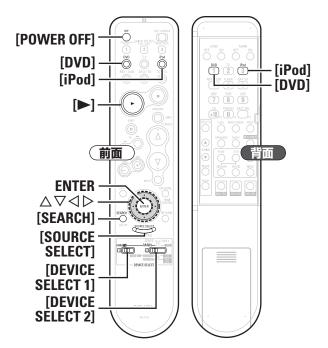
設定内容
-12dB ～ 12dB（<u>0dB</u>）

“Input Assign”の設定（☞44 ページ）で、“HDMI”または“Digital”を割り当てた入力ソースに対しては、アナログ入力レベルとデジタル入力レベルを別々に調節することができます。

iPod用コントロールドックの再生モードを設定する（Playback Mode） GUI

“Input Assign”（☞45 ページ）で“iPod dock”を割り当てた入力ソースのときに設定できます。また、表示モードがブラウズモードのときに設定できます。

設定項目	設定内容
Repeat リピート再生モードを設定します。	**All**：すべての曲をリピート再生します。 **One**：再生中の曲をリピート再生します。 **OFF**：リピート再生モードを解除します。
Shuffle シャッフル再生モードを設定します。	**Songs**：すべての曲をシャッフル再生します。 **Albums**：再生中のアルバムの中の曲でシャッフル再生します。 **OFF**：シャッフル再生モードを解除します。

再生のしかた

知っておいてほしいこと

再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。

ご注意

- 再生する際は、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。
- リモコンで外部の機器を操作することができます（☞68 ページ「リモコンで機器を操作する」）。

機器を再生する

ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する

ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーの再生手順です。他の機器の再生も同じようにおこなってください。

1 再生の準備をする。
① テレビやサブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を本機の入力に設定する。
③ プレーヤーにディスクを入れる。

2 本機の電源を入れる。
（☞24 ページ「電源を入れる」）

3 [SOURCE SELECT] を押して、入力ソースを選ぶ。
“SOURCE SELECT”メニューを表示します（☞27 ページ）。

4 本機と接続した機器を再生する。
あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

5 以下の項目を調節する。
❑ **主音量を調節する**（☞50 ページ）
❑ **サラウンドモードを選ぶ**（☞52 ページ）
❑ **音声や映像の調整をする**（☞55 ページ）

iPod® を再生する

別売りの DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R、ASD-11R）をご使用になると、iPod® の音楽や映像を再生することができます。

iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標または登録商標です。

※ iPodは、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

iPod® の音楽を聴く

1 再生の準備をする。
① DENON 製 iPod 用コントロールドックに、iPod® をセットする（☞18 ページ「iPod 用コントロールドック」）。
② iPod 用コントロールドックに iPod® をセットする。
③ **[DEVICE SELECT 1]** を“MAIN/TV”に、**[DEVICE SELECT 2]** を“MAIN”に設定する。

2 本機の電源を入れる。
（☞24 ページ「電源を入れる」）

3 [SOURCE SELECT] を押して“Source Select”メニューを表示させ、“ ”を選ぶ（☞27ページ）。
iPod用コントロールドックが割り当てられている入力ソースに切り替わります。

4 [SEARCH]を2秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。

※iPod 内のデータを表示するモードは 2 つあります。表示モードによって、再生できるファイル、操作できるボタンが異なります。

リモートモード：（お買い上げ時の設定）

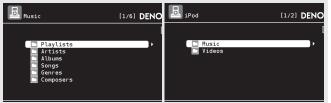
iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。このモードでは、GUI 画面は表示されません。

- 本機のディスプレイに"Remote iPod"を表示します。

ブラウズモード：

iPod の情報を GUI 画面に表示させて操作をおこなうモードです。このモードでは、直接 iPod 本体を操作することはできません。

＊ 本機のディスプレイでは、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、".（ピリオド）"に置き換えて表示します。

－ GUI 画面 (ブラウズモード) －

（ASD-1R 使用時）　（ASD-11R 使用時）

※ ASD-1R をご使用の場合、"Music"の下のメニューが表示されます。

※ ASD-11R をご使用の場合、"Music"と"Videos"フォルダが表示されます。

※ 本機と iPod の通信が完了すると、iPod に接続画面が表示されます。

※ 画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。再度接続をやり直してください。

表示モード		ブラウズモード	リモートモード
再生できるファイル	音声ファイル	○	○
	写真ファイル	×	○＊2
	動画ファイル	○＊1	○＊2
操作できるボタン	本機のリモコン	○	○
	iPod®	×	○

＊1：DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R 使用時。

＊2：DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

5 △▽ を押して項目を選び、ENTER または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。

6 [▶]、ENTER または ▷ を押す。

再生をはじめます。

7 以下の項目を調節する。

- ❑ **主音量を調節する**（☞50 ページ）
- ❑ **サラウンドモードを選ぶ**（☞52 ページ）
- ❑ **音声や映像の調整をする**（☞55 ページ）

- ❑ **停止する**（☞51 ページ）
- ❑ **一時停止する**（☞51 ページ）
- ❑ **早送りや早戻しする**（☞51 ページ）
- ❑ **頭出しする**（☞51 ページ）
- ❑ **リピート再生をする**（☞47 ページ）
- ❑ **シャッフル再生をする**（☞47 ページ）
- ❑ **ページを検索する（ページサーチ）**（☞51 ページ）

- RESTORER モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をすることができます（☞59 ページ「RESTORER」）。お買い上げ時の設定は"Mode 3"です。
- 再生中に **<STATUS>** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認することができます。
- GUI メニューの"GUI"⇨"iPod"（☞40 ページ）で、GUI の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定することができます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- iPod は、**[POWER OFF]** または **<ON/STANDBY>** で本機の電源をスタンバイ状態にしてから、取り外してください。入力ソースを"iPod"以外に切り替えても、iPod を取り外すことができます。

ご注意

- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一 iPod のデータが消失または損傷しても、弊社は一切責任を負いません。

ブラウズモードで iPod® の映像を見る

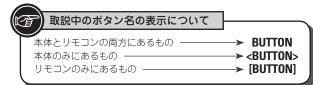
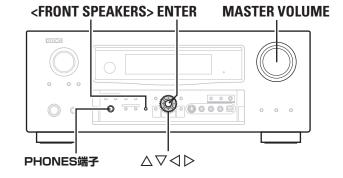
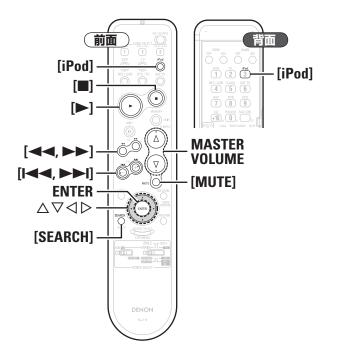
DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R にビデオ機能対応の iPod を接続すると、ブラウズモードで映像ファイルを再生することができます。

1 [SEARCH] を長押しして、ブラウズモードに切り替える。

2 △▽ を押して"Videos"を選び、ENTER または ▷ を押す。

3 △▽を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。

4 △▽ を押してビデオファイルを選び、ENTER、▷ または [▶] を押す。

再生がはじまります。

リモートモードで iPod® の写真や映像を見る

スライドショーやビデオ機能がある iPod® の写真や映像を再生することができます。

1 **[SEARCH] を長押しして、リモートモードに切り替える。**
本機のディスプレイに“Remote iPod”を表示します。

2 **iPodの画面を見ながら△▽を押して、“写真”または“ビデオ”を選ぶ。**

※ 使用する iPod によっては、直接 iPod 本体を操作する必要があります。

3 **再生したい写真または映像が表示されるまで、ENTER を押す。**

iPod の写真や映像をテレビに映し出すには、iPod の“スライドショー設定”または“ビデオ設定”の“TV 出力”を“オン”に設定する必要があります。詳しくは、iPod の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

再生中にできる操作

主音量を調節する

MASTER VOLUME を回して、音量を調節する。

❑ **“Volume Display”の設定（☞40ページ）が“Relative”のとき**

【調節できる範囲】 – – – –80.5dB ~ 18.0dB

❑ **“Volume Display”の設定（☞40ページ）が“Absolute”のとき**

【調節できる範囲】 0.0 ~ 99.0

※ 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

一時的に音を消す（ミューティング）

[MUTE] を押す。

- “Mute Level”（☞40 ページ）で設定したレベルに音量が減衰します。
- ミューティングを解除するときは、もう一度 **[MUTE]** を押してください。主音量を調節しても解除できます。

ヘッドホンで音を聴く

本体の PHONES 端子に、ヘッドホンのプラグを差し込む。
自動的にスピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
- Audyssey™ Auto Setup や各設定をおこなうときは、ヘッドホンをはずしてください。

フロントスピーカーを切り替える

<FRONT SPEAKERS> を押す。

ご注意

"Front Speaker Setup"（☞36 ページ）を"Custom"に設定したときは、**<FRONT SPEAKERS>** での操作はできません。

停止する

再生中に ENTER を長押しするか、[■] を押す。

一時停止する

再生中に ENTER または [▶] を押す。
もう一度押すと、再生を再開します。

早送りや早戻しする

再生中に [◀◀]（早戻し）または [▶▶]（早送り）を長押しするか、△▽ を長押しする。

頭出しする

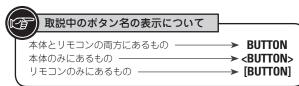
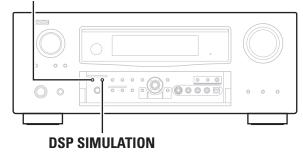
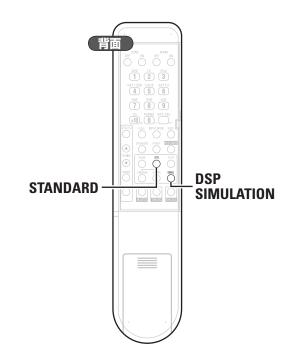
再生中に [I◀◀]（前の曲の頭出し）または [▶▶I]（次の曲の頭出し）を押すか、△▽ を押す。

ページを検索する（ページサーチ）

[SEARCH]を押した後に、◁（前のページ）または▷（次のページ）を押す。

※ 解除するときは、△▽ または **[SEARCH]** を押す。

サラウンドモードを選ぶ

GUI

① ソースの音声信号形式 / チャンネル数をそのまま再生する（スタンダード再生）

操作のしかた

選択できるサラウンドモードは次の内容により異なります。
- 入力している音声信号形式
- 入力している音声のチャンネル数
- 設定している“Amp Assign”モード（☞34 ページ）

1 機器を再生する（☞48 ページ）。

2 **STANDARD** を押して、サラウンドモードを選ぶ。

❑ 2チャンネルのソースをサラウンド再生する

① **STANDARD** を押すたびに、次のようにサラウンドモードが切り替わります。

DOLBY PLⅡz ＊1 ：DOLBY PLⅡz でデコードして再生します。

DOLBY PLⅡx ＊2 ：DOLBY PLⅡx でデコードして再生します。

DOLBY PLⅡ ：DOLBY PLⅡ でデコードして再生します。

DTS NEO:6 ：DTS NEO:6 でデコードして再生します。

＊1：“Amp Assign”の設定が“Front Height”のとき、および“Speaker Configuration” ⇨ “Front Height” の設定が“None”以外のときに設定できます。

＊2：“Amp Assign”の設定が“Normal”のとき、および“Speaker Configuration” ⇨ “Surround Back” の設定が“None”以外のときに設定できます。

② GUI メニューの“Surround Parameter”⇨“Mode”（☞55 ページ）でソースに合わせたモードを選ぶ。

Cinema ：映画ソースに適したモードです。

Music ：音楽ソースに適したモードです。

Game ：ゲームに適したモードです。

Pro Logic ：プロロジック再生モードです。PLⅡ デコーダーで再生する場合に選べます。

Height ：フロントハイトの再生モードです。“Front Height”の設定が“ON”のときに設定できます（☞56 ページ）。

※選択できるモードは、選択しているサラウンドモードにより異なります。

❑ マルチチャンネルのソースをサラウンド再生する（ドルビーデジタル、DTS、AAC など）

マルチチャンネルソースのスタンダード再生では、入力しているマルチチャンネル音声の信号形式を検出し、自動的にその専用デコーダーを動作させて、サラウンド再生をおこないます。

［再生中のサラウンドモードの表示］

入力信号	ディスプレイの表示内容
DOLBY DIGITAL（2チャンネル以外）/ DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL
	DOLBY DIGITAL EX
	DOLBY DIGITAL+PLⅡx CINEMA
	DOLBY DIGITAL+PLⅡx MUSIC
	DOLBY DIGITAL+PLⅡz HEIGHT
DOLBY DIGITAL Plus（＊）	DOLBY DIGITAL+
	DOLBY DIGITAL+ +EX
	DOLBY DIGITAL+ + PLⅡx CINEMA
	DOLBY DIGITAL+ + PLⅡx MUSIC
	DOLBY DIGITAL+ + PLⅡz HEIGHT
DOLBY TrueHD（＊）	DOLBY TrueHD
	DOLBY TrueHD+EX
	DOLBY TrueHD+PLⅡx CINEMA
	DOLBY TrueHD+PLⅡx MUSIC
	DOLBY TrueHD+PLⅡz HEIGHT

＊：HD AUDIO 信号が入力されたときに、HD AUDIO 表示が点灯します。

【再生中のサラウンドモードの表示】

入力信号	ディスプレイの表示内容
DTS（5.1チャンネル）/ DTS-ES Discrete 6.1 / DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24	DTS SURROUND
	DTS+PLIIx CINEMA
	DTS+PLIIx MUSIC
	DTS+PLIIz HEIGHT
	DTS+NEO:6
	DTS ES MTRX6.1（＊1）
	DTS ES DSCRT6.1（＊2）
	DTS 96/24（＊3）
DTS-HD（＊4）	DTS-HD HI RES
	DTS-HD MSTR
	DTS-HD+NEO:6
	DTS-HD+PLIIx CINEMA
	DTS-HD+PLIIx MUSIC
	DTS-HD+PLIIz HEIGHT
	DTS EXPRESS
MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC
	AAC+Dolby EX
	AAC+PLIIx CINEMA
	AAC+PLIIx MUSIC
	AAC+PLIIz HEIGHT
PCM（マルチチャンネル）	MULTI CH IN
	MULTI IN+Dolby EX
	MULTI IN+PLIIx CINEMA
	MULTI IN+PLIIx MUSIC
	MULTI IN+PLIIz HEIGHT
	MULTI CH IN 7.1

＊1：入力信号が“DTS-ES Matrix 6.1”で、“AFDM”の設定（☞56 ページ）が“ON”のときに表示します。
＊2：入力信号が“DTS-ES Discrete 6.1”のときに表示します。
＊3：入力信号が“DTS 96/24”のときに表示します。
＊4：HD AUDIO 信号が入力されたときに、HD AUDIO 表示が点灯します。

詳しくは、77、78 ページをご覧ください。

MPEG-2 AAC について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

❏入力信号チャンネル表示について

プログラムソースにより、入力信号チャンネル表示が点灯します。

- **2 チャンネルソース**

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

STANDARD を押すと、“DOLBY PLIIx”モードと“DTS NEO:6”モードを切り替えることができます。

- **5.1 チャンネルソース**

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

STANDARD を押すと、5.1 チャンネル再生ができます。
5.1 チャンネルで再生しているときは、“MPEG2 AAC”を表示します。

- **モノラルソース**

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

STANDARD を押すと、“MPEG2 AAC”を表示します。
音声は、センタースピーカーより出力します。フロントスピーカーで再生する場合は、サラウンドモード（“STEREO”など）を選んでください。

- **二重音声ソース**

FL C FR
FL C FR
FL C FR

二重音声の情報がある AAC ソースを再生する場合は、主音声や副音声などの出力内容を選べます。
詳しくは、“Billingual Mode”（☞38 ページ）をご覧ください。

“S”は 2 チャンネルサラウンド信号（ドルビーサラウンド）信号が入力された場合に点灯します。
※ 2 チャンネルサラウンド信号とは、4 チャンネル（フロント左 / フロント右 / センター / サラウンド）を 2 チャンネルに変換してある信号です。

② DENON オリジナルサラウンド再生をおこなう

7 通りの DENON オリジナルサラウンドモードの中から、プログラムソースや視聴するシチュエーションに応じてお好みのモードを選ぶことができます。

1 機器を再生する（☞48 ページ）。

2 DSP SIMULATION を押して、サラウンドモードを選ぶ。

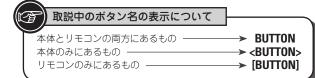
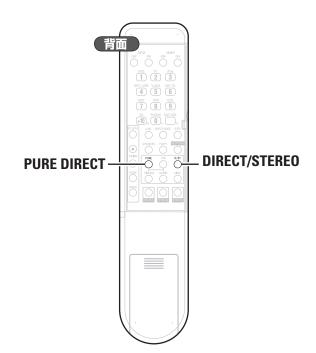
5CH/7CH STEREO	：ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。
ROCK ARENA	：アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
JAZZ CLUB	：ライブハウスでのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
MONO MOVIE ＊	：モノラルの映画ソースをサラウンド再生するモードです。
VIDEO GAME	：ビデオゲームのサラウンドに適したモードです。
MATRIX	：ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。
VIRTUAL	：フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

＊：モノラル録音ソースを“MONO MOVIE”モードで再生する場合、片チャンネル（左または右）では音声が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られない場合があります。このような場合は、各モードを試してお好みの音場でお楽しみください。

ご注意

入力信号がドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD、DTS Express の場合、DENON オリジナルサラウンドは選べません。

ご使用になる前に
接続
設定
再生
マルチゾーン
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

③ ダイレクト再生をおこなう

音質調節回路を通さず、高音質で再生するモードです。
入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。

1 機器を再生する（☞48 ページ）。

2 **DIRECT/STEREO** を押して、“DIRECT”を選ぶ。

【再生中のサラウンドモードの表示】

入力信号	ディスプレイの表示内容
アナログ信号 / PCM（2 チャンネル）/ Dolby Digital ソース / DTS ソース / その他の 2ch のデジタル信号	DIRECT
PCM（マルチチャンネル）	MULTI CH DIRECT
	MULTI CH DIRECT + Dolby EX
	MULTI CH DIRECT + PLⅡx CINEMA
	MULTI CH DIRECT + PLⅡx MUSIC
	MULTI CH DIRECT + PLⅡz HEIGHT
	MULTI CH DIRECT 7.1

詳しくは、78 ページをご覧ください。

④ ステレオ再生をおこなう

音質調整ができるステレオ再生用のモードです。トーンを調節できます。
フロントスピーカー（左 / 右）とサブウーハーから音声を出力します。

1 機器を再生する（☞48 ページ）。

2 **DIRECT/STEREO**を押して、“STEREO”を選ぶ。

⑤ ピュアダイレクト再生をおこなう

最も原音に忠実な音楽再生をおこないます。

1 機器を再生する（☞48 ページ）。

2 **PURE DIRECT** を押す。

- 解除するときは、もう一度 **PURE DIRECT** を押す。
- PURE DIRECT モード中のサラウンドパラメーターは、DIRECT モードと共通になります。
- HDMI 信号を再生しているときは、PURE DIRECT モードでも映像を出力します。

ご注意

PURE DIRECT モード中は設定メニュー画面を表示しません。また、PURE DIRECT モード中はディスプレイを消灯します。

音声や映像の調整をする（Audio/Video Adjust）

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「GUI メニューの操作のしかた」（☞26 ページ）をご覧ください。

音声を調整する（Audio Adjust） GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。
調節できる項目（パラメーター）は、再生している信号や選択しているサラウンドモードによって異なります。調節できる各項目については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」（☞75 ページ）をご覧ください。

設定項目	設定内容
Surround Parameter 音場効果を調節します。	**Mode**：再生するソースに合わせてモードを選びます。 ❑ **PLⅡx または PLⅡ モードのとき** **Cinema**：映画ソースに適したモードです。 **Music**：音楽ソースに適したモードです。 **Game**：ゲームに適したモードです。 **Pro Logic**：ドルビープロロジック再生モードです（PLⅡ モードのみ）。 ❑ **PLⅡz モードのとき** **Height**：ドルビー PLⅡz フロントハイトの再生モードです。 ❑ **DTS NEO:6 モードのとき** **Cinema**：映画ソースに適したモードです。 **Music**：音楽ソースに適したモードです。 ✎ • “Surround Parameter” ⇨ “Front Height” の設定（☞56 ページ）が “ON” のとき、自動的に “Height” モードになります。 • “Music” モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。 • “Cinema” および “Music” モードは、リモコンの **CINEMA** または **MUSIC** を押して設定することもできます。
	Cinema EQ：映画のせりふの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。 • <u>**OFF**</u>：使用しません。 • **ON**：使用します。
	DRC：ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。 • <u>**Auto**</u>：再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン / オフします。ドルビー TrueHD ソースのときに設定できます。 • **Low** / **Mid** / **High**：圧縮量を設定します。 • **OFF**：ダイナミックレンジを圧縮しません。

設定項目	設定内容
Surround Parameter （つづき）	**D.COMP**：ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。 • <u>**OFF**</u>：ダイナミックレンジを圧縮しません。 • **Low** / **Mid** / **High**：圧縮量を設定します。
	LFE：低域信号（LFE）レベルを調節します。 • **-10dB** ～ <u>**0dB**</u> ✎ 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。 • ドルビーデジタルソース：“0dB” • DTS の映画ソース：“0dB” • DTS の音楽ソース：“-10dB”
	Center Image（C. Image）：センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。 • **0.0** ～ **1.0**（<u>**0.3**</u>）
	Panorama：フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。 • <u>**OFF**</u>：設定しません。 • **ON**：設定します。
	Dimension：音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。 • **0** ～ **6**（<u>**3**</u>）
	Center Width（C. Width）：センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。 • **0** ～ **7**（<u>**3**</u>）
	Delay Time：遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。 • **0ms** ～ **300ms**（<u>**30ms**</u>）
	Effect Level：エフェクトレベルを調節します。 • **1** ～ **15**（<u>**10**</u>） ✎ サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。
	Room Size：音場空間の大きさを設定します。 • **Small**：小さな音場空間のイメージ • **Medium small**：やや小さな音場空間のイメージ • <u>**Medium**</u>：標準的な音場空間のイメージ • **Medium large**：やや大きな音場空間のイメージ • **Large**：大きな音場空間のイメージ **ご注意** “Room Size” は、再生する部屋の大きさを表すものではありません。

次のページへ

音声や映像の調整をする（Audio/Video Adjust）

設定項目	設定内容
Surround Parameter （つづき）	**Front Height（F. Height）**：フロントハイトチャンネルを設定します。 • **ON**：フロントハイトチャンネルを使用します。 • **OFF**：フロントハイトチャンネルを使用しません。 • 以下の設定のとき、“Front Height”は表示されません。 　• “Amp Assign”の設定（☞34 ページ）が“Front Height”以外のとき 　• “Speaker Configuration”⇨“Front Height”の設定（☞35 ページ）が“None”のとき • 再生する HD オーディオソースに、フロントハイトチャンネルが含まれている場合も、“Front Height”は表示されません。この場合、PLIIz モードでデコードせずに、入力信号のままフロントハイトチャンネルを再生します。 • リモコンの **SPEAKERS** を押して設定することもできます。
	AFDM（オートフラグディテクトモード）：ソースのサラウンドバックチャンネル信号を検出して自動的に最適なサラウンドモードを設定します。 • **OFF**：設定しません。 • **ON**：設定します。 **【例】ドルビーデジタルソフト（EX フラグあり）の再生** • “AFDM”を“ON”に設定すると、サラウンドモードは自動的に“DOLBY D + PLIIx C”モードになります。 • ドルビーデジタル EX モードで再生する場合は、“AFDM”を“OFF”、“Surround Back”を“MTRX ON”に設定してください。 • ドルビーデジタル EX ソースには、EX フラグが含まれていないものがあります。“AFDM”を“ON”に設定していても、再生モードが自動的に切り替わらない場合は、“Surround Back”を“MTRX ON”または“PLIIx CINEMA”に設定してください。 • “Speaker Configuration”⇨“Surround Back”の設定（☞35 ページ）が“None”のときは、“AFDM”は表示されません。
	Surround Back（S. Back）：サラウンドバックチャンネルの生成方法を設定します。 ❑ **2 チャンネルソースのとき** **ON**：サラウンドバックチャンネルを使用します。 **OFF**：サラウンドバックチャンネルを使用しません。

設定項目	設定内容
Surround Parameter （つづき）	❑ **マルチチャンネルソースのとき** サラウンドバックチャンネルのデコード方法を設定します。 **DSCRT ON**：6.1/7.1 チャンネルソースに含まれるサラウンドバック信号を再生します。 **MTRX ON**：サラウンドチャンネル信号からサラウンドバック信号を生成して再生します。 **ES MTRX**＊1：DTS ソースのサラウンドチャンネル信号からサラウンドバック信号を生成して再生します。 **ES DSCRT**＊2：6.1 チャンネルの DTS ソースに含まれているサラウンドバック信号を再生します。 **PLIIx CINEMA**＊3：Dolby Pro Logic IIx Cinema モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **PLIIx MUSIC**：Dolby Pro Logic IIx Music モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **OFF**：サラウンドバックチャンネルを再生しません。 ＊1：DTS ソースを再生中に選べます。 ＊2：ディスクリート 6.1 チャンネル信号の識別信号が含まれている DTS ソースを再生中に選べます。 ＊3：“Speaker Configuration”⇨“Surround Back”の設定（☞35 ページ）が“2spkrs”のときに選べます。 • 本体またはリモコンの **STANDARD** を押して設定することもできます。 • 再生しているソースにサラウンドバック信号が含まれている場合は、AFDM 機能によりデコーダーの種類は自動的に選ばれます。お好みのデコードに切り替えるには、“AFDM”を“OFF”に設定してください。 • “Speaker Configuration”⇨“Surround Back”の設定（☞35 ページ）が“None”のとき、“Surround Back”は表示されません。
	Subwoofer Att.（SW ATT）：外部入力端子（EXT. IN）使用時のサブウーハーチャンネルのレベルを抑えます。 • **ON**：設定します。 • **OFF**：設定しません。通常はこのモードでご使用ください。 音声信号を再生したときに、サブウーハーチャンネルの再生レベルが大きいと感じる場合は、“ON”に設定してください。
	Subwoofer：サブウーハー出力のオン / オフを設定します。 • **ON**：出力します。 • **OFF**：出力しません。
	Default：サラウンドパラメーターのすべての設定内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “Default”を選んで **ENTER** を押すと、“Default Setting?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、**ENTER** を押してください。

設定項目	設定内容
Tone トーンを調節します。	**Tone Control**：トーンコントロール機能のオン / オフを設定します。 • **ON**：低音や高音のトーンを調節できます。 • **OFF**：トーンの調節をしないで再生します。 • “Dynamic EQ”の設定(☞57 ページ)が“OFF”のときに設定できます。 • DIRECT および PURE DIRECT モードでは、トーンの調節ができません。
	Bass：低音を調節します。 • **-6dB** ～ **+6dB** “Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。
	Treble：高音を調節します。 • **-6dB** ～ **+6dB** “Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。
Audyssey Settings MultEQ、Dynamic EQ および Dynamic Volume を設定します。 ご注意 Audyssey Auto Setup をおこなっていない場合、または Audyssey Auto Setup をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Dynamic EQ/Dynamic Volume を選択できなかったり“Run Audyssey”を表示します。 この場合は再度 Audyssey Auto Setup をおこなうか、“Restore”（☞33 ページ）をおこなって Audyssey Auto Setup 実行後の設定に戻してください。	**MultEQ**：各スピーカーの周波数特性を補正します。 • **Audyssey**：すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 • **Audyssey Byp.L/R**：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 • **Audyssey Flat**：すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。 • **Manual**：“Manual EQ”（☞59 ページ）で調節された周波数特性を適用します • **OFF**：“MultEQ”イコライザーを使用しません。 • Audyssey Auto Setup をおこなうと、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”が選べます。また、Audyssey Auto Setup 後は自動的に“Audyssey”になります。“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”または“Audyssey Flat”が選ばれたときは、“AUDYSSEY MULTEQ”が点灯します。 • Audyssey Auto Setup をおこなった後、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更した場合は、“AUDYSSEY MULTEQ”が点灯します。 • “MultEQ”の設定が“OFF”または“Manual”のときに、“Dynamic EQ”または“Dynamic Volume”を“ON”に設定すると、“MultEQ”は自動的に“Audyssey”になります。 • 本体またはリモコンの **MULTEQ** を押して設定することもできます。

設定項目	設定内容
Audyssey Settings （つづき）	ご注意 • “EQ Customize”（☞38 ページ）で“Not Used”に設定したイコライザーは選択できません。 • ヘッドホン使用時、“MultEQ”の設定は自動的に“OFF”になります。
	Dynamic EQ：人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。 • **ON**：“Dynamic EQ”イコライザーを使用します。 • **OFF**：“Dynamic EQ”イコライザーを使用しません。 • Audyssey Auto Setup をおこなうと、“Dynamic EQ”の設定は自動的に“ON”になります。 • “ON”に設定すると、“AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ”が点灯します。 • “MultEQ”の設定が“OFF”または“Manual”のとき、“Dynamic EQ”は自動的に“OFF”になります。 • “Dynamic Volume”の設定が“ON”のとき、“Dynamic EQ”は自動的に“ON”になります。 • “Dynamic EQ”を“ON”に設定すると、“Tone Control”は“OFF”になります。 • リモコンの **DYNAMIC EQ** を押して設定することもできます。 **Dynamic EQ について** Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ® 技術と連動することによりすべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

次のページへ

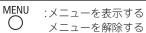
音声や映像の調整をする（Audio/Video Adjust）

設定項目	設定内容
Audyssey Settings （つづき）	**Reference Level Offset**：Audyssey Dynamic EQ は一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。ボリュームレベルが 0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ はフィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定（5dB / 10dB / 15dB）が可能です。以下が推奨の設定レベルになります。 • **0dB**（お買い上げ時の設定・フィルムリファレンス）：初期の設定。映画などのコンテンツに最適。 • **5dB**：クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。 • **10dB**：ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。 • **15dB**：ポップやロックなどの非常に高いボリュームレベルでリスニングしたり、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。 “Dynamic EQ”が“ON”のときに設定できます（☞57 ページ）。

設定項目	設定内容
Audyssey Settings （つづき）	**Dynamic Volume**：テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調整します。 • **ON**：“Dynamic Volume”イコライザーを使用します。Dynamic Volume の効果は、“Setting”（☞58 ページ）で設定した値になります。 • **OFF**：“Dynamic Volume”イコライザーを使用しません。 • “ON”に設定すると、“AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL”が点灯します。 • “MultEQ”の設定が“OFF”のとき、“Dynamic Volume”は自動的に“OFF”になります。 • 本体またはリモコンの **DYNAMIC VOLUME** を押して設定することもできます。 Dynamic EQ / Volume : ON → Dynamic EQ : ON / Volume : OFF AUDYSSEY DYNAMIC VOLUME “緑”　AUDYSSEY DYNAMIC VOLUME “赤” **Dynamic Volume について** Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。
	Setting：“Dynamic Volume”イコライザーの効果を設定します。 • **Midnight**：最大で設定します。すべての音を一定の大きさにします。 • **Evening**：中間で設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 • **Day**：最小で設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 “Dynamic Volume”の設定が“ON”のときに設定できます。

リモコンの操作ボタン
MENU :メニューを表示する メニューを解除する
:カーソルを移動する（上/下/左/右）
ENTER :設定を確定する
RETURN :ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
Manual EQ グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。	**Adjust CH**：各スピーカーの音色を調節します。 ① スピーカーの音色の調節方法を選択する。 **All**：すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。 **L/R**：左右のスピーカーの音色を一緒に調節します。 **Each**：各スピーカーごとに音色を調節します。 ② スピーカーを選択する。 ※“L/R”や“Each”を選んだときに、調節するスピーカーを選んでください。 ③ 調節する周波数帯を選択する。 **63Hz** / **125Hz** / **250Hz** / **500Hz** / **1kHz** / **2kHz** / **4kHz** / **8kHz** / **16kHz** ④ レベルを調節する。 **-20.0dB** ～ **+6.0dB**（**0.0dB**） “MultEQ”の設定（☞57 ページ）が“Manual”のときに設定できます。
	Base Curve Copy：“MultEQ”の“Audyssey Flat”の補正カーブをコピーします。 • **Yes**：コピーします。 • **No**：コピーしません。 “Base Curve Copy”は、Audyssey Auto Setup をおこなった後に表示されます。“Base Curve Copy”を選んで **ENTER** を押すと、“Curve-Audyssey Flat Base Curve Copy?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、**ENTER** を押してください。
	Default：“Manual EQ”の設定内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “Default”を選んで **ENTER** を押すと、“Default Setting?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、**ENTER** を押してください。

設定項目	設定内容
RESTORER 圧縮音声を圧縮前に近い状態に復元し、低域と高域の量感を補正して豊かに再生します。	**OFF**：RESTORER を使用しません。 **Mode 1**（RESTORER 64）：高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。 **Mode 2**（RESTORER 96）：圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。 **Mode 3**（RESTORER HQ）：高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。 • アナログ入力や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときに、設定することができます。 • 入力モードが“EXT. IN”のときや、サラウンドモードが“DIRECT”モードのときは設定できません。 • “iPod”のお買い上げ時の設定は、“Mode 3”です。その他のお買い上げ時の設定は、すべて“OFF”です。 • “OFF”以外に設定すると、“RSTR”を表示します。 • 再生中に本体またはリモコンの **RESTORER** を押して設定することもできます。 OFF → Mode 1 (RESTORER 64) → Mode 2 (RESTORER 96) → Mode 3 (RESTORER HQ) → OFF **RESTORER について** • MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。 • アナログ入力や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときにサラウンドパラメーター内に表示され、設定することができます。
Audio Delay 映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節します。	**0ms** ～ **200ms** • “Auto Lip Sync”の設定が“ON”、およびオートリップシンク対応のテレビを接続しているときは、0 ～ 100ms の範囲で設定できます。 • “Audio Delay”の設定は、入力ソースごとに記憶します。 • 本体の **AUDIO DELAY** を押して設定することもできます。

画質を調整する（Picture Adjust） GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

- 入力ソースが DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX のときに設定できます。
  ※上記以外の入力ソースでは、“Video Select”を選択しているときに設定できます。この場合、元の入力ソースの設定が呼び出されます。
- “Video Convert”の設定（☞45 ページ）が“ON”のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Contrast 映像の明暗の差を調節します。	**-6 ～ 0 ～ +6**
Brightness 映像の明るさを調節します。	**0 ～ +12**
Chroma Level 色の濃さを調節します。	**-6 ～ 0 ～ +6**
Hue 緑色と赤色のバランスを調節します。	**-6 ～ 0 ～ +6**
DNR 映像全体のノイズを軽減します。	**OFF** / **Low** / **Mid** / **High**
Enhancer 映像の輪郭を強調します。	**0 ～ +12**

- “DNR”および“Enhancer”は、HDMI 出力に効果があります。
- “Picture Adjust”で設定した値は、入力ソースごとに記憶します。

本機の設定状態や入力信号の情報などを確認する（Information）

設定項目	設定内容
Status 現在の設定状態を表示します。	❏ **MAIN ZONE** メインゾーンの設定状態を表示します。 表示される内容は、入力ソースによって異なります。 **Select Source**（選択ソース）/ **Name**（ネーム）/ **Zone name**（ゾーンネーム）/ **Surround Mode**（サラウンドモード）/ **Input Mode**（入力モード）/ **Decode Mode**（デコードモード）/ **HDMI**（HDMI 入力端子の割り当て）/ **Digital**（デジタル入力端子の割り当て）/ **Component**（コンポーネント入力端子の割り当て）/ **iPod dock**（iPod 用コントロールドックの割り当て）/ **Rec Select**（レックセレクト）/ **Video Select**（ビデオセレクト）/ **Video Convert**（ビデオコンバート）/ **i/p Scaler**（i/p スケーラー）/ **Resolution**（解像度）/ **Progressive Mode**（プログレッシブモード）/ **Aspect**（アスペクト）など
	❏ **ZONE2** / **ZONE3** マルチゾーンの設定状態を表示します。 **Zone name**（ゾーン名）/ **Power**（電源）/ **Select Source**（選択ソース）/ **Volume Level**（音量レベル）
Audio Input Signal 音声入力信号の情報を表示します。	**Surround Mode**：設定されているサラウンドモード **Signal**：入力信号の種類を表示 **fs**：入力信号のサンプリング周波数 **Format**:入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無） **Offset**：ダイアログノーマライゼーションの補正値 **Flag**：サラウンドバックチャンネルが含まれている信号を入力しているときに表示します。入力信号がドルビーデジタル EX、DTS-ES マトリックスのときは“MATRIX”、DTS-ES ディスクリート信号などのときは“DISCRETE”を表示します。

ダイアログノーマライゼーション機能について

ドルビーデジタルソースの再生中に、自動的に動作します。
この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。
補正値は、本体の **STATUS** でも確認できます。

```
Dial.Norm
Offset  - 4dB
```

数字は、標準レベルに補正した場合の補正値です。

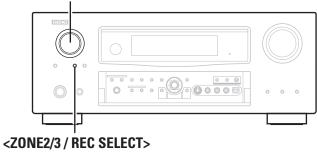
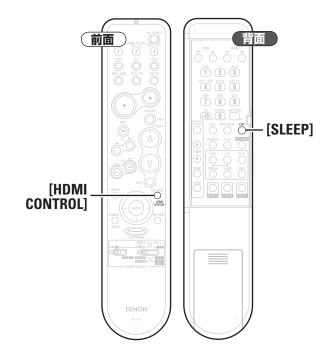
設定項目	設定内容
HDMI Information HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。	**Signal Information**（信号情報） • **Resolution**（解像度）/ **Color Space**（カラースペース）/ **Pixel Depth**（ビット数）
	Monitor Information（モニター情報） • **Interface**（インターフェース）/ **Supported Resolution**（対応解像度）
Auto Surround Mode オートサラウンドモードの情報を表示します。	**Analog/PCM 2ch**（アナログ /PCM 2 チャンネル）/ **Digital 2ch**（デジタル 2 チャンネル）/ **Digital 5.1ch**（デジタル 5.1 チャンネル）/ **Multi ch**（マルチチャンネル） “Auto Surround Mode”の設定が“ON”のときに表示します。
Quick Select 「よく使う設定を記憶させる（クイックセレクト機能）」（☞64 ページ）の情報を表示します。	**Quick Select 1**（クイックセレクト 1）/ **Quick Select 2**（クイックセレクト 2）/ **Quick Select 3**（クイックセレクト 3）/ **ZONE2 Quick Select**（ゾーン 2 クイックセレクト）/ **ZONE3 Quick Select**（ゾーン 3 クイックセレクト） • **Select Source**（選択ソース）/ **Video Select**（ビデオセレクト）/ **MultEQ** / **Dynamic EQ** / **Dynamic Volume** / **Auto Surround Mode**（オートサラウンドモード） **(Analog/PCM 2ch**（アナログ /PCM 2 チャンネル）/ **Digital 2ch**（デジタル 2 チャンネル）/ **Digital 5.1ch**（デジタル 5.1 チャンネル）/ **Multi ch**（マルチチャンネル）**)** / **Volume Level**（音量レベル）

その他の操作や機能

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → BUTTON
本体のみにあるもの → <BUTTON>
リモコンのみにあるもの → [BUTTON]

<SOURCE SELECT>

<ZONE2/3 / REC SELECT>

その他の操作

外部機器で録音や録画をおこなう（REC OUT モード）

録音 / 録画用端子(VCRまたはDVR出力端子)を使用すると、再生中の曲を聴きながら、別のプログラムソースを録音 / 録画することができます。

1 **<ZONE2/3 / REC SELECT> を押す。**
ディスプレイに“ZONE2 Source”を表示します。

2 **“RECOUT Source”が表示されるまで、<SOURCE SELECT> を回す。**
“REC”表示が点灯します。

3 **<SOURCE SELECT> を回して、録音/録画したい入力ソースを選ぶ。**

4 **プログラムソースを再生する。**
※ 操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

5 **録音 / 録画をはじめる。**
※ 操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

- 解除する場合は、**<ZONE2/3 / REC SELECT>** を押してから、ディスプレイに“ZONE2 Source”が表示されるまで、**<SOURCE SELECT>** を回してください。
- 録音 / 録画する前に、あらかじめ「試し録音」や「試し録画」をおこなってください。
- デジタル入力端子（OPTICAL/COAXIAL）から入力されたデジタル信号が PCM（2 チャンネル）の場合のみ、アナログ録音用端子に出力します。
- HDMI 端子から入力されたデジタル音声信号は、デジタル録音用端子（OPTICAL）に出力されないため、OPTICAL 端子や COAXIAL 端子を使用して接続してください。
- REC OUT モードで選ばれた入力ソースは、ゾーン 2 からも出力します。
- REC OUT モード中は、リモコンのゾーン 2 モードのボタンは操作できません。

ご注意

- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。
- “Source Delete”で“Delete”に設定した入力ソースは選べません（☞40 ページ）。

便利な機能

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能に対応しているテレビやプレーヤーを HDMI 接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定をすると、次の操作ができます。

❏テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。
テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
❏テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。
❏テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。
❏テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。
❏プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。

- テレビの音声を本機で聞きたい場合は、光デジタルまたはアナログ接続をしてください（☞21 ページ「テレビチューナー」）。
- 本機能をお使いになる場合は、"HDMI Control" を "ON" に設定してください（☞37 ページ）。

ご注意

- "HDMI Control" を "ON" に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロールをおこなうときは、必ずテレビと HDMI 接続をしてください。
- 本機の電源を切ると、HDMI コントロール機能は動作しません。電源を入れるかスタンバイ状態にしてください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。対応する機器については、弊社ホームページをご覧ください。
- "HDMI Control" を "ON" に設定している場合、"Input Assign"（☞44 ページ）の設定で、"TV" に HDMI 端子を割り当てることはできません。
- リモコンの **HDMI CONTROL** ボタンでは、本機能を呼び出すことはできません（☞69 ページ「テレビ」）。

1 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。

2 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。
"HDMI Control"（☞37 ページ）を "ON" に設定する。

※ 接続機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ いずれかの機器の電源コンセントを抜いた場合は、操作 1、2 をおこなってください。

3 テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。

4 本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るかを確認する。

5 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。
- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- 本機の設定は正しいか。
  - "HDMI Control" の設定（☞37 ページ）が "ON" になっているか。
  - "Power Off Control" の設定（☞37 ページ）が "ON" になっているか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

ご注意

以下の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、操作 1、2 をおこなってください。
- "Input Assign" ⇨ "HDMI"（☞44 ページ）の設定変更
- HDMI で接続している機器の接続変更や機器の増加

設定時間後に電源をスタンバイにする（スリープタイマー機能）

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることが設定できます。
視聴しながら、おやすみになるときに便利です。
スリープタイマーが動作してメインゾーンの電源がオフになると、ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源もオフになります。

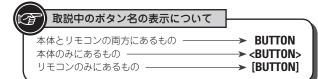
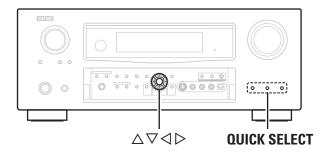
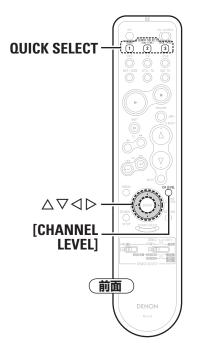
[SLEEP] を押して、設定したい時間を表示する。
ディスプレイの "SLEEP" 表示が点灯します。

※ **[SLEEP]** を押すたびに、時間が次のように切り替わります。

❏スリープタイマーを解除するとき
[SLEEP] を押して "OFF" に設定する。
ディスプレイの "SLEEP" 表示が消灯します。

本機の電源がスタンバイまたはオフになると、スリープタイマーの設定を解除します。

ご使用になる前に / 接続 / 設定 / 再生 / マルチゾーン / リモコン操作 / その他の情報 / 故障かな？と思ったら / 保証と修理 / 主な仕様

ご使用になる前に
接続
設定
再生
マルチゾーン
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

チャンネルレベルを調節する

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調節をおこなってください。

各スピーカーの音量を調節する

1 **[CHANNEL LEVEL] を押す。**

2 **△▽ を押して、スピーカーを選ぶ。**
ボタンを押すたびに、スピーカーが切り替わります。

3 **◁ ▷ を押して、音量を調節する。**

※ サブウーハーの場合、"-12dB" のときに ◁ を押すと、"OFF" の設定になります。

ヘッドホンプラグを挿入しているときは、ヘッドホン用のチャンネルレベルの調節ができます。

スピーカーの音量をまとめて調節する（フェーダー機能）

フロント側（フロントスピーカー / フロントハイトスピーカー / センタースピーカー）またはリア側（サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカー）のスピーカーの音量をまとめて調節（減衰）します。

1 **▽を押して "Fader" を選び、◁▷を押して調節する項目を選ぶ。**

2 **◁ ▷ を押して、スピーカーの音量を調節する。**
（◁：フロント側、▷：リア側）

- フェーダー機能は、サブウーハーにははたらきません。
- 一番小さい値に調節されているスピーカーの音量が、-12dB になるまで調節できます。

よく使う設定を記憶させる（クイックセレクト機能）

手順 1 の設定内容をまとめて記憶できます。よく使う設定を記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。

記憶のさせかた

1 **下記を記憶させたい状態に設定する。**
① 入力ソース（☞27 ページ）
② 音量（☞50 ページ）
③ サラウンドモード（☞52 ページ）
④ Audyssey Setting（MultEQ®、Dynamic EQ™、Dynamic Volume™）（☞57 ページ）
⑤ Video Select（☞45 ページ）

2 **ディスプレイに "Quick 1 Memory"、"Quick 2 Memory" または "Quick 3 Memory" が表示されるまで、 QUICK SELECTを長押しする。**
再生中の設定が記憶されます。

【お買い上げ時の設定】

	入力ソース	音量
Quick Select 1	DVD	-40dB
Quick Select 2	SAT/CBL	-40dB
Quick Select 3	VCR	-40dB

呼び出しかた

呼び出したい設定が記憶されている QUICK SELECT を押す。
ディスプレイの "Q1"、"Q2" または "Q3" 表示が点灯します。

❏ クイックセレクトに名前をつけるには
"Quick Select Name"（☞41 ページ）をご覧ください。

ご注意

"Source Delete"（☞40 ページ）で、クイックセレクトに記憶させている入力ソースを削除すると、そのクイックセレクトの設定も削除されます。このような場合は、もう一度クイックセレクトを記憶させてください。

各種メモリー機能

パーソナルメモリープラス機能

入力ソースごとに最後に設定していた内容（入力モード、サラウンドモード、MultEQ、Dynamic EQ、Dynamic Volume やオーディオディレイなど）を記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

ゾーン 2/ ゾーン 3 再生（マルチゾーン機能）

マルチチャンネル再生をおこなうメインゾーン以外の部屋で音声を再生することができます。

ゾーン 2 で選んだ入力ソースの音声は、録音用（VCR または DVR 出力端子）端子からも出力します。

音声出力

マルチチャンネル再生をおこなうメインゾーン以外の部屋で音声を再生することができます。
次の 2 通りの方法があります。いずれかを選んでください。
① スピーカー出力によるゾーン再生
② 音声出力によるゾーン再生（PRE OUT）
外部アンプを使用します。

① スピーカー出力によるゾーン再生

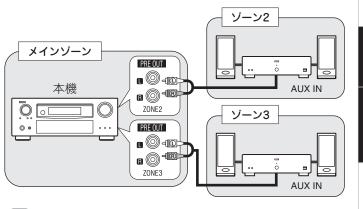
アンプアサイン機能により、本機の SURR BACK/AMP ASSIGN スピーカー端子からゾーン 2 またはゾーン 3 の音声を出力します。

スピーカーの接続と設定

	“Amp Assign” モード（☞34 ページ）の設定と出力する音声信号	スピーカーを接続する
ゾーン 2	**ZONE2** 出力信号： ステレオ（L / R）	
ゾーン 3	**ZONE3** 出力信号： ステレオ（L / R）	
ゾーン 2 および **ゾーン 3**	**ZONE2/3-MONO** 出力信号：モノラル	

② 音声出力によるゾーン再生 (PRE OUT)

音声接続（ゾーン 2、ゾーン 3）

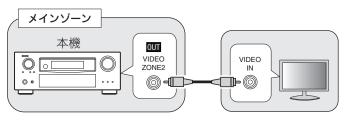
本機のゾーン 2 およびゾーン 3 の音声出力端子の音声をゾーン 2 およびゾーン 3 のアンプに出力し、そのアンプで再生します。

接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

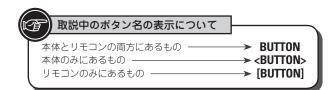
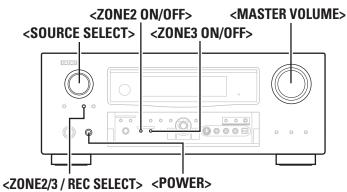
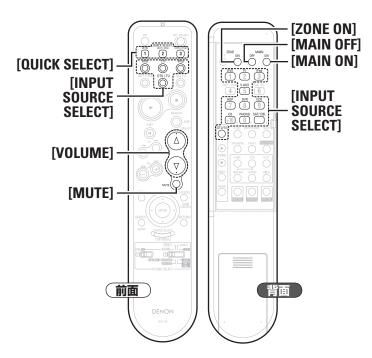
ご注意

- 音声の接続については、雑音が発生しないように高品質のピンプラグケーブルのご使用をおすすめします。
- デジタル入力端子（OPTICAL/COAXIAL）を割り当てた入力ソースをゾーン 2 またはゾーン 3 で選択した場合、入力されたデジタル信号が PCM（2 チャンネル）のときだけ再生します。
- ゾーン 2、ゾーン 3 では、HDMI 端子から入力されたデジタル音声信号は再生できません。
- デジタル信号が入力されている場合、ゾーン 2 とゾーン 3 のオーディオ出力端子から雑音が出力されることがあります。

ビデオ出力

映像接続

本機のゾーン 2 映像出力の映像をゾーン 2 のテレビで再生します。

ご注意

HDMI 端子やコンポーネントビデオ端子から入力した映像をゾーン 2 に出力することはできません。

再生のしかた

「① スピーカー出力によるゾーン再生」、「② 音声出力によるゾーン再生（PRE OUT）」の操作方法は同じです。

1 **<POWER> を押す。**

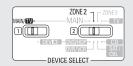
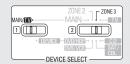
2 **ゾーンの電源を入れる。**

本体での操作

操作したいゾーンの<ZONE2ON/OFF>または<ZONE3 ON/OFF> を押す。

操作したいゾーンの電源が入ると、ディスプレイのマルチゾーン表示（Z2 または Z3）が点灯します。

リモコンでの操作

① **[DEVICE SELECT] を以下のように設定する。**

② **[ZONE ON] を押す。**

操作したいゾーンの電源が入ると、ディスプレイのマルチゾーン表示（Z2 または Z3）が点灯します。

※ スタンバイモード時に **[INPUT SOURCE SELECT]** または **[QUICK SELECT]** を押しても、電源が入ります。

※ ゾーン 2 またはゾーン 3 を使用しているときに **[MAIN ON]** または **[MAIN OFF]** を押すと、メインゾーンの電源をオン / オフすることができます。

3 **入力ソースを選ぶ。**

本体での操作

① **<ZONE2/3/ REC SELECT> で設定するゾーンを選ぶ。**

② **<SOURCE SELECT> を回して入力ソースを選ぶ。**

リモコンでの操作

操作したいゾーンのモードで [INPUT SOURCE SELECT] を押す。

4 以下の項目を調節する。

❑ 音量の調節

本体での操作

① <ZONE2/3/ REC SELECT> で設定するゾーンを選ぶ。
② <MASTER VOLUME>を回して調節する。

リモコンでの操作

音量を調節したいゾーンのモードで、[VOLUME]を押す。

【調節できる範囲】 – – – –80dB ~ –40dB ~ 18dB

（GUIメニューの"Volume Display"の設定（☞39ページ）が"Relative"のとき）

【調節できる範囲】 0 ~ 41 ~ 99

（GUIメニューの"Volume Display"の設定（☞39ページ）が"Absolute"のとき）

※ お買い上げ時は、"Volume Limit"が"–10dB（71）"に設定されています。

❑ 一時的に音を消す

音量を調節したいゾーンのモードで、[MUTE] を押す。

GUIメニューの"Mute Level"で設定したレベルまで減衰します（☞39ページ）。

※ キャンセルする場合は、音量を調節するか、もう一度[MUTE] を押してください。
※ ゾーンの電源をオフにしても、この設定はキャンセルされます。

クイックセレクト機能

マルチゾーンにも 3 通りの設定を記憶することができます。

1 ゾーン 2 またはゾーン 3 で、下記を記憶させたい状態に設定する。

① 入力ソース（☞66 ページ）
② 音量（☞67 ページ）

2 操作したいゾーンのモードで、本体のディスプレイに"Z2（Z3）Quick 1 Memory"、"Z2（Z3）Quick 2 Memory"または"Z2（Z3）Quick 3 Memory"が表示されるまで [QUICK SELECT] を押す。

再生中の設定が記憶されます。

【お買い上げ時の設定】

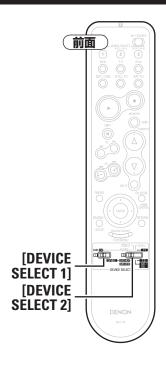
	入力ソース	音量
Z2/Z3 Quick Select 1	DVD	-40dB
Z2/Z3 Quick Select 2	SAT/CBL	-40dB
Z2/Z3 Quick Select 3	VCR	-40dB

呼び出しかた

呼び出したい設定が記憶されているゾーンのモードで、[QUICK SELECT] を押す。

❑ クイックセレクトに名前をつけるには

"Quick Select Name"（☞41 ページ）をご覧ください。

リモコンで機器を操作する

プリセットコードを登録する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、各社の機器の操作ができるようになります。

1 **[DEVICE SELECT 1] を切り替える。**

MAIN/TV：テレビを登録する場合

DEVICE：ブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤー、デジタルビデオレコーダー、ビデオデッキ、衛星チューナー、ケーブルテレビまたは CD プレーヤーを登録する場合

2 **[DEVICE SELECT 2] を登録したい機器に切り替える。**

TV：テレビ

DVD/HDP：ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤー

DVR/VCR：デジタルビデオレコーダーまたはビデオデッキ

SAT/CBL：衛星チューナーまたはケーブルテレビ

CD：CD プレーヤー

3 **[ZONE OFF] と [MAIN ON] を同時に押す。**
送信表示が点滅します。

4 **プリセットコード表（☞ 巻末）を参照し、[0 ~ 9] で登録する機器のメーカーの番号（3 桁）を入力する。**

5 **続けて他の機器の登録をおこなう場合は、手順 1 ~ 4 をくり返しおこなう。**

- メーカーによっては、プリセットコードを数種類持っています。プリセットコードを入力しても本機が動作しない場合は、別のコードを入力してください。
- VDP（ビデオディスクプレーヤー）は、**[DEVICE SELECT 2]** を “DVD/HDP” に設定したときにプリセットできます。
- TV、DVD/HDP、DVR/VCR、SAT/CABLE および CD には、いずれか一つの機器しかプリセットコードの登録ができません。

機器を操作する

1 **[DEVICE SELECT 1] を切り替える。**

MAIN/TV：テレビまたは iPod を操作する場合

DEVICE：ブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤー、デジタルビデオレコーダー、ビデオデッキ、衛星チューナー、ケーブルテレビまたは CD プレーヤーを操作する場合

2 **[DEVICE SELECT 2] を操作したい機器に切り替える。**

MAIN：iPod

TV：テレビ

DVD/HDP：ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤー

DVR/VCR：デジタルビデオレコーダーまたはビデオデッキ

SAT/CBL：衛星チューナーまたはケーブルテレビ

CD：CD プレーヤー

3 **機器を操作する。**

※ 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。

テレビ

前面

背面

前面	
DEVICE SELECT	
ON/SOURCE	電源オン / スタンバイ
▶	再生＊1
❚❚	一時停止＊1
■	停止＊1
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ＊1 （早戻し / 早送り）
CH + –	チャンネルの切り替え （アップ / ダウン）＊1
TV INPUT	入力切り替え
VOLUME ▲▼	▲：テレビの音量 （アップ） ▼：テレビの音量 （ダウン）
MUTE	テレビの消音
MENU	メニューの呼び出し
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	設定の確定
SETUP	セットアップ
RETURN	リターン
HDMI CONTROL	リンクメニューの 呼び出し＊2
背面	
1 ~ 9	チャンネルの選択
お買い上げ時の設定 （プリセットコード）	HITACHI （014）
特記事項	①

＊1：パンチスルー機能（☞71ページ）が設定されているときは、パンチスルーに設定した機器用のボタンとして動作します。
＊2：HDMIコントロール機能に対応しているテレビのリンクメニューの呼び出しをおこないます。

iPod

前面

前面		
DEVICE SELECT		
▶	再生 / 一時停止	
■	停止	
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ （早戻し / 早送り）	
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）	
△▽◁▷	カーソル	
ENTER	確定	
❚❚	一時停止	
SEARCH	**長押し**	**1回押し**
	ブラウズ/ リモート モードの 切り替え	ページ サーチ モードの 切り替え
RETURN	リターン	

ブルーレイディスクプレーヤー / DVD プレーヤー

前面

背面

前面		
DEVICE SELECT		
POWER OFF	電源オフ	
ON/SOURCE	電源オン / スタンバイ	
▶	再生	
■	停止	
❚❚	一時停止	
SKIP +	**ブルーレイ ディスク プレーヤー**	**DVD プレーヤー**
	–	ディスク スキップ
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ （早戻し / 早送り）	
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）	
MENU	メニューの呼び出し	
△▽◁▷	カーソル操作	
ENTER	設定の確定	
SETUP	セットアップ	
RETURN	リターン	
SOURCE SELECT / TOP MENU	トップメニューの呼び出し	
背面		
0 ~ 9, +10	数字入力 / 選曲	
お買い上げ時の設定 （プリセットコード）	**ブルーレイ ディスク プレーヤー**	**DVD プレーヤー**
	DENON （121）	DENON （111）＊
特記事項	①, ②	

【特記事項】
① それぞれのモードには、一つの機器のみプリセットコードを登録できます。
新しいコードを登録すると、前に登録したコードは自動的に消去されます。
② DVDプレーヤーのリモコンボタンは、メーカーによって機器名が異なる場合がありますので、あらかじめご確認ください。

デジタルビデオレコーダー（DVR）/ ビデオデッキ（VCR）

前面

背面

前面	
DEVICE SELECT	ZONE2 ZONE3 MAIN/TV MAIN TV 1 2 ・DEVICE DVD/HDP CD DVR/VCR SAT/CBL DEVICE SELECT
ON/SOURCE	電源オン / スタンバイ
▶	再生
■	停止
❚❚	一時停止
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
CH + –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	メニューの呼び出し
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	設定の確定
SETUP	セットアップ
RETURN	リターン
背面	
1 ~ 9	チャンネルの選択
お買い上げ時の設定（プリセットコード）	HITACHI（008）
特記事項	①

衛星チューナー / ケーブルテレビ

前面

背面

前面		
DEVICE SELECT	ZONE2 ZONE3 MAIN/TV MAIN TV 1 2 ・DEVICE DVD/HDP CD DVR/VCR SAT/CBL DEVICE SELECT	
ON/SOURCE	電源オン / スタンバイ	
▶	再生＊	
■	停止＊	
❚❚	一時停止＊	
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）＊	
CH + –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）＊	
△▽◁▷	カーソル操作	
ENTER	設定の確定	
MENU	メニューの呼び出し	
SETUP	セットアップ	
RETURN	リターン	
背面		
0 ~ 9, +10	チャンネルの選択	
お買い上げ時の設定（プリセットコード）	衛星チューナー	ケーブルテレビ
	–	ABC（009）
特記事項	①	

＊：パンチスルー機能（☞71ページ）が設定されているときは、パンチスルーに設定した機器用のボタンとして動作します。

CDプレーヤー

前面

背面

前面	
DEVICE SELECT	ZONE2 ZONE3 MAIN/TV MAIN TV 1 2 ・DEVICE DVD/HDP CD DVR/VCR SAT/CBL DEVICE SELECT
POWER OFF	電源オフ
ON/SOURCE	電源オン / スタンバイ
▶	再生
■	停止
❚❚	一時停止
SKIP +	ディスクスキップ（アップ）
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
❙◀◀ ▶▶❙	オートサーチ（頭出し）
背面	
0 ~ 9, +10	数字入力 / 選曲
お買い上げ時の設定（プリセットコード）	DENON（111）
特記事項	①

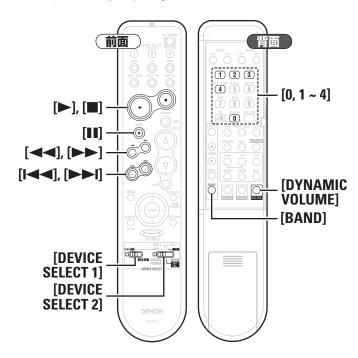
【特記事項】

① それぞれのモードには、一つの機器のみプリセットコードを登録できます。
新しいコードを登録すると、前に登録したコードは自動的に消去されます。

② DVDプレーヤーのリモコンボタンは、メーカーによって機器名が異なる場合がありますので、あらかじめご確認ください。

使用しないボタンに他の機器の操作を割り当てる（パンチスルー機能）

[DEVICE SELECT 2] が“SAT/CBL”や“TV”の位置でも、ブルーレイディスクプレーヤーやDVDプレーヤー、DVDレコーダー、ビデオデッキ、CDプレーヤーの次の操作ができます。

- 再生（▶）
- 停止（■）
- 一時停止（❚❚）
- 早送り（▶▶）
- 早戻し（◀◀）
- オートサーチ（❙◀◀, ▶▶❙）

1 **[DEVICE SELECT 1] を切り替える。**

MAIN/TV：テレビのボタンに他の機器の操作を割り当てる場合

DEVICE：衛星チューナーやケーブルテレビのボタンに他の機器の操作を割り当てる場合

2 **[DEVICE SELECT 2] を切り替える。**

TV：テレビのボタンに他の機器の操作を割り当てる場合

SAT/CBL：衛星チューナーやケーブルテレビのボタンに他の機器の操作を割り当てる場合

3 **[BAND] と [DYNAMIC VOLUME] を同時に押す。**
送信表示が点滅します。

4 **下表を参照して、他の機器の操作を割り当てる機器に対応する番号を入力する。**

他の機器の操作を割り当てる機器	番号
iPod	[1]
CDプレーヤー	[2]
ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤー	[3]
デジタルビデオレコーダー、ビデオデッキ	[4]
設定なし	[0]

お買い上げ時は、“設定なし”に設定されています。

その他の情報

用語の解説

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンド

Dolby Digital（ドルビーデジタル）

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド 2 チャンネル（SL、SR）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。
AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital Plus（ドルビーデジタルプラス）

Dolby Digital Plus は、ドルビーデジタルを改良した信号フォーマットで、最大 7.1ch のデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来のドルビーデジタルに対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby TrueHD（ドルビー TrueHD）

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。
サンプリング周波数とチャンネルも最大 96kHz/7.1ch に対応し、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

Dolby Pro Logic Ⅱ（ドルビープロロジック Ⅱ）

Dolby Pro Logic Ⅱ は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性 20Hz ～ 20kHz 以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic Ⅱx（ドルビープロロジック Ⅱx）

Dolby Pro Logic Ⅱx は、Dolby Pro Logic Ⅱ をさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“Cinema”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります。

Dolby Digital EX（ドルビーデジタル EX）

Dolby Digital EX は、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット“DOLBY DIGITAL SURROUND EX”を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した 6.1ch のサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた 6.1ch での音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

Dolby Pro Logic Ⅱz（ドルビープロロジック Ⅱz）

Dolby Pro Logic Ⅱz は、ソースに収録されている高いところで鳴っている「空間的な手がかり」を持った音響成分から、フロント・ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2 チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。
リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカーを加えることで、映画 / 音楽 / ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。
フロントハイトスピーカーは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカーのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境をつくることができます。

DTS サラウンド

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1ch のデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1ch のデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1ch のデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、最大 96kHz/7.1ch に対応し、さらにロスレス音声符号化技術によってマスター音声の忠実な再現を可能としています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1ch のデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えて SB チャンネルを追加した 6.1ch のデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に SB チャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1ch 音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS NEO:6™ Surround

DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した「DTS NEO:6 Cinema」と、音楽再生に適した「DTS NEO:6 Music」があります。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1ch となります。

DTS Express

DTS Express は、最大 5.1ch の 24kbps ～ 256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

Audyssey

Audyssey MultEQ®

Audyssey MultEQ は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
MultEQ は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

Audyssey Dynamic EQ™

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ 技術と連動することによりすべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume™

Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

AUDYSSEY MULTEQ DYNAMIC VOLUME

AL24 Processing Plus

本機では、全チャンネルに採用しています。
AL24 Processing Plus は、DVD 規格の最高スペックであるサンプリング周波数 192kHz にも対応するアナログ波形再現技術で、その音が自然界に存在したはずのアナログ波形に近付け、ホールに吸込まれるような残響音などの小音量時の音楽再生能力を高めます。
本機では、全チャンネルに採用しています。

MPEG-2 AAC について

MPEG-2　AAC（Advanced Audio Coding） は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。
MPEG-2　AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

❑ MPEG-2　AAC のスペック（概要）

- アルゴリズム：MAINプロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scalable Sampling Rate）プロファイル
- サンプリング周波数：
  8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数：最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能：LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

❑ 米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

サラウンド

サラウンドモードとパラメーター一覧表

サラウンドモード	信号と調節可能なモード														
	チャンネル出力						パラメーター　※（　）内はお買い上げ時の設定								
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンド バック 左 / 右	サブ ウーハー	フロントハイト 左 / 右	D. COMP *1	DRC *2	LFE *3	AFDM *3	Surround Back	Cinema EQ.	Mode	Room Size	Effect Level
PURE DIRECT, DIRECT (2ch)	○	×	×	×	◎*4	×	○ (OFF)	○ (Auto)	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×
MULTI CH DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	×	×	○ (0 dB)	○ (ON)	○	×	×	×	×
STEREO	○	×	×	×	◎	×	○ (OFF)	○ (Auto)	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×
EXT. IN	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	×	×	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIz	○	◎	◎	×	◎	◎	○ (OFF)	○ (Auto)	×	×	×	○ (OFF)	○ (Height)	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (OFF)	○ (Auto)	×	×	○	○ (注1)	○ (Cinema)	×	×
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎	×	◎	×	○ (OFF)	○ (Auto)	×	×	○	○ (注2)	○ (Cinema)	×	×
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (OFF)	○ (Auto)	×	×	○	○ (注1)	○ (Cinema)	×	×
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	×	○ (Auto)	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×
DTS EXPRESS	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×
5CH/7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	×	○	×	×	×	×
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	◎ (注3)	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	×	○	×	×	×	×
VIRTUAL	○	×	×	×	◎	×	○ (OFF)	×	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×

○： 信号有り/制御可能
×： 信号無し/制御不可能
◎： “Speaker Configuration”の設定により、オン/オフ可能（☞34ページ）
注1： “Mode”の設定が“Cinema”のときに選べます（☞55ページ）。
注2： “Mode”の設定が“Cinema”または“Pro Logic”のときに選べます（☞55ページ）。
注3： “Front Height”の設定が“ON”のときに選べます（☞56ページ）。
注4： “Subwoofer Mode”の設定が“LFE+Main”のときに選べます（☞35ページ）。

ご注意

*1 : ドルビーデジタルおよびDTS信号再生時
*2 : ドルビーTrueHD信号再生時
*3 : ドルビーデジタル、DTSおよびDVDオーディオ再生時
*4 : “Subwoofer Mode”の設定が“LFE+Main”のときのみ（☞35ページ）。

サラウンド

サラウンドモード	信号と調節可能なモード												
	パラメーター　※（　）内はお買い上げ時の設定												
	Delay Time	Subwoofer	Front Height	PRO LOGIC II/IIx MUSICモードのみ			NEO:6 MUSIC モードのみ	EXT. INのみ	Tone Control (注5)	MultEQ	Dynamic EQ (注6)	Dynamic Volume (注7)	RESTORER (注8)
				Panorama	Dimension	Center Width	Center Image	Subwoofer Att.					
PURE DIRECT, DIRECT (2ch)	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
STEREO	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	○
EXT. IN	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
MULTI CH IN	×	×	○	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIz	×	×	○	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC IIx	×	×	○	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II	×	×	○	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	○
DTS NEO:6	×	×	×	×	×	×	○ (0.3)	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	○
DOLBY DIGITAL	×	×	○	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	×
DOLBY DIGITAL Plus	×	×	○	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	×
DOLBY TrueHD	×	×	○	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	×
DTS SURROUND	×	×	○	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	×
DTS 96/24	×	×	○	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	×
DTS-HD	×	×	○	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	×
DTS EXPRESS	×	×	○	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	×
5CH/7CH STEREO	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	○
ROCK ARENA	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (注4)	○ (OFF)	○	○	○
JAZZ CLUB	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	○
MONO MOVIE	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	○
VIDEO GAME	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	○
MATRIX	○ (30 ms)	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	○
VIRTUAL	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○	○	○

○：信号有り/制御可能
×：信号無し/制御不可能
注4：低音+6dB、高音+4dB
注5：“Dynamic EQ”の設定が“ON”のときは設定できません（☞57ページ）。
注6：“MultEQ”の設定が“OFF”のときは設定できません（☞57ページ）。
注7：“Dynamic EQ”の設定が“OFF”のときは設定できません（☞57ページ）。
注8：“RESTORER”は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz、44.1kHzのときに設定できます。

入力信号に対するサラウンドモード表示

ボタン / サラウンドモード	注	入力信号																		
		ANALOG	LINEAR PCM / WAV	WMA (Windows Media Audio) / MP3 / MPEG-4 AAC / FLAC	DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL					MULTI CH PCM	
					DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	PCM (マルチチャンネル)	PCM (2ch)
STANDARD																				
DTS SURROUND																				
DTS-HD MSTR		×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS-HD HI RES		×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES DSCRT6.1	*1 *3	×	×	×	×	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES MTRX6.1	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND		×	×	×	×	×	×	○	○	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24		×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIx CINEMA	*2 *3	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIx MUSIC	*1 *3	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIz HEIGHT	*4	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS EXPRESS		×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + NEO:6	*1 *3	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS NEO:6 CINEMA		○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
DTS NEO:6 MUSIC		○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
DOLBY SURROUND																				
DOLBY TrueHD		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL+		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL EX	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×
DOLBY (D+) (HD) +EX	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	●	●	●	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx CINEMA	*2 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	● ◎	○	○	○	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx MUSIC	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIz HEIGHT	*4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIz HEIGHT	*4	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA	*2 *3	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC	*1 *3	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME	*1 *3	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA		○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC II GAME		○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC		○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○

注 :
*1 :“Surround Back”を“None”に設定している場合は、選択できません（☞35 ページ）。
*2 :“Surround Back”を“1spkr”または“None”に設定している場合は、選択できません（☞35 ページ）。
*3 :“Amp Assign”の設定が“Normal”のときに設定できます（☞34 ページ）。
*4 :“Front Height”を“None”に設定している場合は、選択できません（☞35 ページ）。

● : 初期状態で選ばれるモード
◎ : “AFDM”が“ON”に設定されているときに固定されるモード
○ : 選択可能なモード
× : 選択不可能なモード

サラウンド

ボタン	注	入力信号																		
					DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL					MULTI CH PCM	
サラウンドモード		ANALOG	LINEAR PCM / WAV	WMA (Windows Media Audio) / MP3 / MPEG-4 AAC / FLAC	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	PCM (マルチチャンネル)	PCM (2ch)
STANDARD																				
MULTI CH IN																				
MULTI CH IN		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×
MULTI IN + PLIIx CINEMA	*2 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
MULTI IN + PLIIx MUSIC	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
MULTI IN + PLIIz HEIGHT	*4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
MULTI IN + DOLBY EX	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
MULTI CH IN 7.1	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	● ◎ (7.1)	×
DIRECT																				
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
MULTI CH DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
M DIRECT + PLIIx CINEMA	*2 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
M DIRECT + PLIIx MUSIC	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
M DIRECT + PLIIz HEIGHT	*4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
M DIRECT + DOLBY EX	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
M DIRECT 7.1	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (7.1)	×
PURE DIRECT																				
PURE DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
MULTI CH PURE DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
M PURE D + PLIIx CINEMA	*2 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
M PURE D + PLIIx MUSIC	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
M PURE D + PLIIz HEIGHT	*4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
M PURE D + DOLBY EX	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
M CH PURE DIRECT 7.1	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (7.1)	×
DSP SIMULATION																				
5CH/7CH STEREO	*5	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
ROCK ARENA		○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
JAZZ CLUB		○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
MONO MOVIE		○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
VIDEO GAME		○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
MATRIX		○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
VIRTUAL		○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
STEREO																				
STEREO		●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	●

注：
*1：“Surround Back” を “None” に設定している場合は、選択できません（☞35 ページ）。
*2：“Surround Back” を “1spkr” または “None” に設定している場合は、選択できません（☞35 ページ）。
*3：“Amp Assign” の設定が “Normal” のときに設定できます（☞34 ページ）。
*4：“Front Height” を “None” に設定している場合は、選択できません（☞35 ページ）。
*5：“Surround Back” または “Front Height” を “None” に設定している場合は、“5CH STEREO” を表示します。

●： 初期状態で選ばれるモード
○： 選択可能なモード
×： 選択不可能なモード

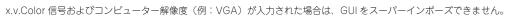
映像信号とモニター出力の関係

メインゾーンのモニター出力												
Video Convert	入力信号				出力信号				GUIメニュー表示			
	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
ON/OFF	×	×	×	×	×	×	×	×	GUIメニュー表示のみ	× ＊2	× ＊2	× ＊2
ON	×	×	×	○	VIDEO	VIDEO	VIDEO	VIDEO	○ (VIDEO)	× (VIDEO) ＊3	× (VIDEO) ＊3	× (VIDEO) ＊3
ON	×	×	○	×	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	○ (S-VIDEO)	× (S-VIDEO) ＊3	× (S-VIDEO) ＊3	× (S-VIDEO) ＊3
ON	×	×	○	○								
ON	×	○ (1080p)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	×	×	○ (COMPONENT)	× (COMPONENT) ＊2	× ＊2	× ＊2
ON	×	○ (1080i ~ 480p)	×	×						× (COMPONENT) ＊3	×	×
ON	×	○ (480i/576i)	×	×			COMPONENT	COMPONENT			× (COMPONENT) ＊3	× (COMPONENT) ＊3
ON	×	○ (1080p)	×	○			×	VIDEO		× (COMPONENT)	×	× (VIDEO)
ON ＊1	×	○ (1080p)	×	○			VIDEO		×	○ (VIDEO)	○ (VIDEO)	○ (VIDEO)
ON	×	○ (1080i ~ 480p)	×	○			×		○ (COMPONENT)	× (COMPONENT) ＊3	×	× (VIDEO)
ON	×	○ (480i/576i)	×	○			COMPONENT	COMPONENT			× (COMPONENT) ＊3	× (COMPONENT) ＊3
ON	×	○ (1080p)	○	×			S-VIDEO	S-VIDEO		× (COMPONENT)	× (S-VIDEO)	× (S-VIDEO)
ON ＊1	×	○ (1080p)	○	×					×	○ (S-VIDEO)	○ (S-VIDEO)	○ (S-VIDEO)
ON	×	○ (1080i ~ 480p)	○	×					○ (COMPONENT)	× (COMPONENT) ＊3	× (S-VIDEO)	× (S-VIDEO)
ON	×	○ (480i/576i)	○	×			COMPONENT	COMPONENT			× (COMPONENT) ＊3	× (COMPONENT) ＊3
ON	×	○ (1080p)	○	○			S-VIDEO	S-VIDEO		× (COMPONENT)	× (S-VIDEO)	× (S-VIDEO)
ON ＊1	×	○ (1080p)	○	○					×	○ (S-VIDEO)	○ (S-VIDEO)	○ (S-VIDEO)
ON	×	○ (1080i ~ 480p)	○	○					○ (COMPONENT)	× (COMPONENT) ＊3	× (S-VIDEO)	× (S-VIDEO)
ON	×	○ (480i/576i)	○	○			COMPONENT	COMPONENT			× (COMPONENT) ＊3	× (COMPONENT) ＊3
ON	○	×	×	×	HDMI	×	×	×	○ (HDMI)	× ＊2	× ＊2	× ＊2
ON	○	×	×	○				VIDEO				× (VIDEO) ＊2
ON	○	×	○	×			S-VIDEO	S-VIDEO			× (S-VIDEO) ＊2	× (S-VIDEO) ＊2
ON	○	×	○	○								
ON	○	○	×	×		COMPONENT	×	×		× (COMPONENT) ＊2	× ＊2	× ＊2
ON	○	○	×	○				VIDEO				× (VIDEO) ＊2
ON	○	○	○	×			S-VIDEO	S-VIDEO			× (S-VIDEO) ＊2	× (S-VIDEO) ＊2
ON	○	○	○	○								
OFF	×	×	×	○	×	×	×	VIDEO	GUIメニュー表示のみ	× ＊2		
OFF	×	×	○	×			S-VIDEO	×				
OFF	×	×	○	○				VIDEO				
OFF	×	○	×	×		COMPONENT	×	×				
OFF	×	○	×	○				VIDEO				
OFF	×	○	○	×			S-VIDEO	×				
OFF	×	○	○	○				VIDEO				
OFF	○	×	×	×	HDMI	×	×	×				
OFF	○	×	×	○				VIDEO				
OFF	○	×	○	×			S-VIDEO	×				
OFF	○	×	○	○				VIDEO				
OFF	○	○	×	×		COMPONENT	×	×				
OFF	○	○	×	○				VIDEO				
OFF	○	○	○	×			S-VIDEO	×				
OFF	○	○	○	○				VIDEO				

○ : 映像入力あり
× : 映像入力なし
＊1 : HDMI モニターが接続されていないか、HDMI モニターの電源が入っていないとき

ゾーン2のモニター出力		
入力		出力
S-VIDEO	VIDEO	VIDEO
×	×	×
×	○	VIDEO
○	×	S-VIDEO
○	○	S-VIDEO

○ ( ) : ( ) 内の映像にスーパーインポーズ
× ( ) : ( ) 内の映像のみ出力
× : 映像、メニューともに出力なし
＊2 : HDMI モニターが接続されていないか、HDMI モニターの電源が入っていないときに、GUI メニューのみ表示されます。
＊3 : HDMI モニターの接続がないときや、HDMI モニターの電源がオフのとき、GUI メニュー表示を（ ）内の映像にスーパーインポーズします。

x.v.Color 信号およびコンピューター解像度（例：VGA）が入力された場合は、GUI をスーパーインポーズできません。

故障かな？と思ったら

❑ 各接続は正しいですか
❑ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
❑ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、弊社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
本機が正常に動作しない。	• マイコンを初期化してください。	82
電源が入らない。 または、入れてもすぐに切れる。	• 本機のリアパネルおよび電源コンセントへの電源プラグの差し込みを確認してください。	24
スピーカーから音が出ない。	• 入力機器との接続またはスピーカーケーブルの接続を確認してください。 • 再生機器との接続を確認し、適切な入力ソースを選んでください。 • 主音量を適切な大きさに調節してください。 • ミューティング（消音）モードを解除してください。 • ヘッドホンを外してください。ヘッドホンを接続していると、スピーカーやプリアウト端子から音が出なくなります。 • 接続を確認し、デジタル入力を設定した入力ソースを選んでください。 • デジタル入力端子が割り当てられている端子と入力モードを合わせてください。	15 ～ 23 16 ～ 23, 27 50 50 50 44 46
ディスプレイの表示が消える。	• “Dimmer”を“OFF”以外の設定にしてください。 • PURE DIRECT モードを解除してください。PURE DIRECT モード中、ディスプレイは消灯します。	41 54
ディスプレイが“DOLBY DIGITAL”の表示にならない。	• ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーの取扱説明書をお読みください。	–
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 • 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	– –
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。 • スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路が働いています。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどした後で、もう一度接続し直してください。	15 15
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機のアンプ回路が故障しています。電源を切り、弊社の修理相談窓口までご連絡ください。	–

【リモコン】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
リモコンを操作しても、正常に動作しない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。 • リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。 • 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。 • 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。 • 本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバーター式蛍光灯の光など）が当たっています。受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。 • 本体とリモコンのリモコン ID を合わせてください。付属のリモコンのリモコン ID は“1”です。付属のリモコンをご使用になる場合は、本体のリモコン ID を“1”に設定してください。 • リモコンの **DEVICE SELECT** スイッチを正しく設定してください。	6 6 – 6 6 41 10

【iPod】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
iPod が再生できない。	• “iPod dock”を割り当てた端子に接続し、入力ソースを切り替えてください。 • iPod の接続を確認してください。 • iPod 用コントロールドックの AC アダプターをコンセントに挿入してください。AC アダプターを挿入していない場合は、本機と通信することができません。	27, 45 18 –

【オーディオ】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
センタースピーカーから音が出ない。	• モノラル音源を再生する場合は、“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）以外のサラウンドモードを選んでください。	53
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• サラウンドモードをサラウンド再生用のモードにしてください。	52, 53
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• “Amp Assign”の設定が“Normal”になっているか確認してください。 • “Surround Back”を“None”以外に設定してください。 • “Surround Parameter” ⇨ “Surround Back”を“OFF”以外に設定してください。 • サラウンドモードをサラウンド再生用のモードにしてください。	34 35 56 52, 53
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの電源を入れてください。 • “Subwoofer”を“Yes”に設定してください。 • サブウーハーの接続を確認してください。 • サブウーハーのチャンネルレベルを上げてください。	– 34 15 36
DTS 音声が出力されない。	• ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーの音声出力の設定を、“Bitstream”に設定してください。詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 • DTS 対応のブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーをご使用ください。 • “Decode Mode”を“Auto”または“DTS”にしてください。	– – 47
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	• HDMI 接続をしてください。 • ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーの音声出力の設定を、“Bitstream”に設定してください。詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 • DTS 対応のブルーレイディスクプレーヤーをご使用ください。	16 – –

【ビデオ】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
映像が映らない。	• 本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続を確認してください。 • 本機に接続したモニターの入力端子と入力設定を合わせてください。 • PURE DIRECT モードを解除してください。 • ハイビジョン（1080i/720p）やプログレッシブ映像信号（480p/576p）は、ダウンコンバートされません。プレーヤーをインターレース（480i/576i）の設定にしてください。 • “Video Select”の設定を確認してください。	17, 18 – 54 – 45
録画ができない。	• REC OUT のビデオ端子にはビデオコンバート機能がありませんので、入力がビデオの場合はビデオケーブルで、S ビデオの場合は S ビデオケーブルで接続してください。	20
DVD から VCR にダビングできない。	• 故障ではありません。ほとんどの映画ソフトには、コピー防止信号が入っているので、ダビングすることはできません。	–
GUI が表示されない。	• “Format”を使用しているモニターのフォーマット（NTSC または PAL）に合わせて設定してください。	40

【HDMI】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
HDMI 音声信号がスピーカーから出力されない。	• HDMI 音声信号をスピーカーから出力するときは、“Audio Out”の設定を“AMP”に設定してください。	37
HDMI 接続で映像が映らない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • “Input Assign”で“HDMI”を割り当てた入力ソースを選んでください。 • 著作権保護 (HDCP) に対応したモニターを接続してください。 • 接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とモニターの入力対応フォーマットが合っているかを確認してください。	16 27, 44 16 16, 17
HDMI 接続しているテレビから音声が出力されない。	• HDMI 音声信号をテレビから出力するときは、“Audio Out”の設定を“TV”に設定してください。	37
接続機器に以下の操作をすると、本機も同じ動作をする。 • 電源の入 / 切 • 音声を出力する機器の切り替え • 音量の調節 • 入力ソースの切り替え	• “HDMI Control”を“OFF”に設定してください。各機器の電源の入 / 切のみを操作したい場合は、“Power Off Control”を“OFF”に設定してください。	37

すべての設定をお買い上げ時の設定に戻す（マイコンの初期化）

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。

<STANDARD>

<POWER>　<DSP SIMULATION>

1 **<POWER> を押して電源を切る。**

2 **<STANDARD> と <DSP SIMULATION> を同時に押しながら <POWER> を押す。**

3 **ディスプレイの表示が約1秒間隔で点滅したら、2つのボタンから指を離す。**

手順 3 でディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、もう一度手順 1 からやり直してください。

保障と修理について

保証書について

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

❑ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

❑ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

修理を依頼されるとき

❑ 修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

❑ 修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名…… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号… 保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❏オーディオ部

●パワーアンプ部

定格出力：	フロント：	120W ＋ 120W （負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.05％） 160W ＋ 160W （負荷 6 Ω、1kHz、T.H.D 0.7％）
	センター：	120W （負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.05％） 160W （負荷 6 Ω、1kHz、T.H.D 0.7％）
	サラウンド：	120W ＋ 120W （負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.05％） 160W ＋ 160W （負荷 6 Ω、1kHz、T.H.D 0.7％）
	サラウンドバック：	120W ＋ 120W （負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.05％） 160W ＋ 160W （負荷 6 Ω、1kHz、T.H.D 0.7％）
実用最大出力：	180W × 2 チャンネル（負荷 6 Ω、JEITA）	
ダイナミックパワー：	130W × 2 チャンネル（負荷 8 Ω） 180W × 2 チャンネル（負荷 4 Ω）	
出力端子：	センター / サラウンド / サラウンドバック：6 ～ 16 Ω フロント：　A または B　6 ～ 16 Ω A ＋ B　8 ～ 16 Ω	

●アナログ部

入力感度 /	200mV/12k Ω（EXT. IN（S/SB/SW）、CD、PHONO、V. AUX を除く）
入力インピーダンス：	200mV/47k Ω（EXT. IN（S/SB/SW）、CD、PHONO、V. AUX）
周波数特性：	10Hz ～ 100kHz：＋ 1、－ 3dB（DIRECT モード時）
S/N 比：	102dB（JIS-A）（DIRECT モード時）
ひずみ率	0.005％（20Hz ～ 20kHz）（DIRECT モード時）
定格力	1.2V

●デジタル部

D/A 出力	定格出力：2V（0dB 再生時） 全高調波ひずみ率：0.008％（1kHz、0dB） S/N 比：102dB ダイナミックレンジ：100dB
デジタル入力	フォーマット：デジタルオーディオインターフェース

●フォノ・イコライザー部（PHONO 入力　REC OUT）

入力感度：	2.5mV
RIAA 偏差：	± 1dB（20Hz ～ 20kHz）
S/N 比：	74dB（JIS-A、5mV 入力時）
ひずみ率：	0.03％（1kHz、3V 出力時）
定格出力：	150mV

❏ビデオ部

●標準ビデオ端子

入出力レベル / インピーダンス：	1Vp-p/75 Ω
周波数特性：	5Hz ～ 10MHz：＋ 0、–3dB（“Video Convert” が “OFF” のとき）

●S ビデオ端子

入出力レベル / インピーダンス：	Y（輝度）信号：	1Vp-p/75 Ω
	C（色）信号：	0.286Vp-p/75 Ω
周波数特性：	5Hz ～ 10MHz：	＋ 0、–3dB（“Video Convert” が “OFF” のとき）

●コンポーネントビデオ（D）端子

入出力レベル / インピーダンス：	Y（輝度）信号：	1Vp-p/75 Ω
	PB/CB（青色）信号：	0.7Vp-p/75 Ω
	PR/CR（赤色）信号：	0.7Vp-p/75 Ω
周波数特性：	5Hz ～ 100MHz：	＋ 0、–3dB（“Video Convert” が “OFF” のとき）

❏総合

電源：	AC100V　50/60Hz
消費電力：	275W（電気用品安全法による） 0.1W（スタンバイ時）
最大外形寸法：	434（幅）× 171（高さ）× 414（奥行き）mm
質量：	12.9kg

❏リモコン（RC-1118）

乾電池：	R6（単 3 形）乾電池 2 本使用
最大外形寸法：	52（幅）× 243（高さ）× 21（奥行き）mm
質量：	184g（乾電池を含む）

※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

DEVICE SELECT : TV

テレビ

	3M	100
A	Addison	163
	Admiral	033, 044, 050, 141
	Advent	130
	Adventura	041
	Aiko	138
	Akai	018, 019, 034, 119, 137, 151
	Albatron	127, 131
	Alleron	039
	America Action	139
	Ampro	129
	Amtron	038
	Anam	139
	Anam National	035, 038
	AOC	030, 036, 079, 137 151, 154
	Apex	048, 062
	Apex Digital	174
	Audiovox	038, 067, 071, 138, 139, 140
	Aventura	029
	Axion	120
B	Bang & Olufsen	146
	Barco	020
	Baur	034
	Belcor	030
	Bell & Howell	033
	Benq	089, 135
	Blue Sky	020
	Bradford	038, 139
	Brillian	145
	Brockwood	030
	Broksonic	050, 139, 141
	byd:sign	123
C	Candle	037, 041, 137, 151
	Carnivale	137, 151
	Carver	155
	CCE	147, 152
	Celebrity	034
	Celera	048
	Changhong	048
	Ching Tai	163
	Chun Yun	157, 163, 169, 173
	Chung Hsin	160, 169
	Citizen	037, 038, 049, 137, 138, 151, 153, 156
	Clarion	139
	Coby	074
	Contec	139
	Contec/Cony	038
	Craig	038, 139
	Crosley	049, 155
	Crown	038, 139, 153
	CTX	082
	Curtis Mathes	010, 019, 044, 137, 140, 143, 151, 153, 155, 156
	CXC	038, 139
	Cytron	118
D	Daewoo	030, 036, 049, 138, 140, 153
	Daytron	030
	Dell	012, 032
	Denon	143
	DiamondVision	125
	Dimensia	010
	Disney	060
	Dumont	013, 030
	Durabrand	012, 029, 050, 111, 136, 139, 141
	Dwin	044, 128
E	Electroband	034
	Electrograph	142
	Electrohome	034, 035, 050
	Element	106
	Emerson	012, 029, 030, 038, 039, 049, 050, 139, 141, 153
	Emprex	124
	Envision	137, 151
	Epson	080, 097
	Erres	149
	ESA	018, 029
	Ether	158
F	Firstar	170
	Fujitsu	037, 039, 077
	Funai	029, 038, 039, 139
	Furi	165
	Futuretech	038, 139
G	Gateway	085, 142, 144
	GE	010, 012, 035, 040, 045, 055, 140
	GFM	027, 028
	Gibralter	013, 030, 137, 151
	Go Video	134
	Goldstar	012, 030, 036, 137, 151
	Gradiente	084
	Grundig	152
	Grunpy	038, 039, 139
H	Haier	107, 114, 136, 148
	Hallmark	012
	Hankook	158, 168, 169
	Harman/Kardon	155
	Harvard	038, 139
	Havermy	044
	Hello Kitty	140
	Hewlett Packard	068
	Hisense	087, 167, 174
	Hitachi	**[014]**＊, 058, 103, 143, 181
	HP	031
	Hyundai	133
I	Ilo	090, 115, 117, 122
	IMA	038
	Infinity	155
	InFocus	099
	Initial	117
	Innova	152
	Insignia	029, 108, 109, 110
J	Janeil	041
	JBL	155
	JC Penney	010, 036, 037, 040
	JCB	034
	Jean	159, 163, 167, 170
	Jinxing	161, 165, 167
	JVC	023, 024, 025, 040, 050
K	Kawasho	034
	Kaypani	154
	KEC	139
	Kenwood	030, 137, 151
	Kioto	020, 155
	KLH	048
	Kloss Novabeam	038, 041
	Kolin	166, 169
	KTV	038, 137, 139, 147, 151, 153
L	LG	012, 030, 036, 127, 151
	Logik	033
	LXI	010, 012, 155
M	M & S	155
	Magnasonic	049
	Magnavox	028, 037, 047, 054, 056, 137, 151, 155
	Majestic	033
	Marantz	046, 137, 151, 152, 155
	Maxent	112, 142
	Mediator	149
	Megapower	127
	Megatron	012, 143
	Memorex	012, 029, 033, 036, 050, 141
	MGA	012, 030, 036, 137, 151
	Megatron	013, 040, 153
	Mintek	117
	Mitsubishi	012, 030, 036, 044, 057, 178
	Monivision	127, 131
	Montgomery Ward	033
	Motorola	035, 044
	MTC	030, 036, 137, 151, 156
	Multitech	038, 139, 147
N	NAD	012, 152
	NEC	030, 035, 036, 081, 137, 151
	Netsat	152
	Net-TV	090, 142
	Newave	163, 164, 168
	Nikko	012, 137, 138, 151
	Norcent	079, 174
	Norwood Micro	090
	Noshi	150
	NTC	138
O	Olevia	064, 072, 078
	Onwa	038, 139
	Oppo	121
	Optoma	098
	Optonica	044
	Orion	050, 141
	Otto Versand	034
P	Panasonic	007, 008, 009, 035, 040, 059, 069, 176
	Penney	012, 030, 137, 150, 151, 153, 156
	Philco	030, 035, 036, 037, 050, 137, 151, 155
	Philips	020, 021, 022, 035, 037, 046, 066, 105, 149, 152,155
	Philips Magnavox	020, 046, 047
	Phonola	149
	Pilot	030, 137, 151, 153
	Pioneer	180, 184
	Polaroid	030, 048, 075
	Portland	030, 036, 138, 153
	Prima	083, 130
	Princeton	127
	Prism	040
	Proscan	010
	Proton	012, 154
	Protron	073
	Proview	086, 106
	Pulsar	013, 030
	Pye	149
Q	Quasar	035, 040
	Quelle	034
R	Radio Shack/ Realistic	010, 038
	Radiola	149
	RadioShack	012, 030, 137, 139, 151, 153
	RCA	010, 011, 030, 035, 036, 043, 045, 150, 156
	Realistic	012, 030, 137, 139, 151, 153
	Runco	013, 137, 151
S	Sampo	137, 142, 151, 153, 154
	Samsung	012, 018, 019, 030, 036, 101, 102, 137, 147, 151, 152, 156
	Samsux	153
	Sansui	050, 141
	Sanyo	092
	SBR	149
	Sceptre	096
	Scimitsu	030
	Scotch	012
	Scott	012, 030, 038, 039, 116, 139
	Sears	010, 012, 029, 039, 088, 155
	SEI	034
	Sharp	015, 016, 017, 044, 070, 153, 179, 183
	Shen Ying	163
	Sheng Chia	044, 164
	Shogun	030
	Signature	033
	Simpson	037
	Sinudyne	034
	SKY	152
	Skygiant	169
	Sony	000, 001, 002, 034, 052, 053, 175, 182
	Soundesign	012, 037, 038, 039, 139
	Sova	073
	Sowa	162, 167
	Squareview	029
	SSS	030, 038, 139
	Starlite	038, 139
	Studio Experience	131
	Superscan	044
	Supre-Macy	041
	Supreme	034
	SVA	020, 113, 148, 174
	Sylvania	026, 027, 028, 029, 037, 063, 104, 137, 151, 155
	Symphonic	029, 038, 139
	Synco	157, 162, 163, 164, 168, 172
	Syntax	072
	Syntax-Brillian	072, 088
T	Tacico	163, 168
	Tandy	044
	Tatung	035, 090, 144, 159, 162, 167
	Technics	040
	Techview	132
	Techwood	040
	Teco	159, 164, 168
	Teknika	030, 033, 036, 037, 038, 039, 138, 139, 153, 155, 156

	Telefunken	019
	TMK	012
	Toshiba	003, 004, 005, 006, 030, 051, 156, 177
	Totevision	153
	Trutech	091
	Tuntex	158, 163
	TVS	050, 141
U	US Logic	090
V	Vector Research	137, 151
	Vidikron	155
	Vidtech	012, 030, 036
	Viewsonic	061, 076, 142
	Viking	041
	Viore	115
	Vizio	061, 093, 094, 095, 126, 144
W	Wards	010, 012, 030, 033, 036, 039, 137, 151, 155
	Westinghouse	061, 065, 140
	White Westinghouse	049, 050, 141
Y	Yamaha	030, 036, 137, 151
	Yapshe	171
Z	Zenith	012, 013, 014, 030, 033, 042, 050, 138, 141

テレビ / ビデオデッキ コンビネーション

R	RCA	011
S	Sylvania	026

テレビ / DVDプレーヤー コンビネーション

A	Akai	119
	Apex	062
	Axion	120
C	Coby	074
	Cytron	118
D	DiamondVision	125
	Disney	060
G	GFM	028
H	Haier	114
I	Ilo	117
	Initial	117
	Insignia	108
L	LG	030
M	Mintek	117
O	Oppo	121
P	Panasonic	069
	Philips	066
	Polaroid	075
R	RCA	010
S	Sansui	051
	Sharp	070
	Sylvania	027, 063
T	Toshiba	005, 051
W	Westinghouse	065

テレビ / DVDプレーヤー / ビデオデッキ コンビネーション

M	Magnavox	028
P	Panasonic	059
T	Toshiba	006

DEVICE SELECT : DVD/HDP

ブルーレイディスクプレーヤー

D	Denon	121

DVDプレーヤー

A	Accele Vision	088
	Accurian	146
	Advent	131
	Akai	098, 126
	Alco	129
	Allegro	142
	Amphion MediaWorks	117
	AMW	117
	Apex	025, 026, 027, 028, 049, 059, 136
	Apple	109
	Arrgo	043
	Aspire	132
	Astar	090
	Audiovox	075, 129
	Axion	099
B	Bang & Olufsen	137
	Blaupunkt	136
	Blue Parade	039
	BOSS	089
	Broksonic	061, 126
C	California Audio Labs	128
	Changhong	071, 153
	CineVision	074, 142
	Coby	050, 081
	Curtis Mathes	143
	CyberHome	029, 043, 151, 152, 155, 156
	Cytron	097
D	Daewoo	057, 142
	Denon	014, 070, **[111]***, 112, 128
	Desay	116
	DiamondVision	124, 125
	Disney	053, 063
	Durabrand	144
E	Emerson	127, 138, 145
	Enterprise	138
	Epson	120
	ESA	145
F	Fisher	139
	Funai	145
G	Gateway	068, 154
	GE	044, 054, 136
	GFM	101
	Go Video	012, 142
	Gradiente	128
	Greenhill	136
H	Haier	103
	Harman/Kardon	082, 140
	Hitachi	013
	Hiteker	025
I	Ilo	096
	Initial	096, 136
	Insignia	055, 102, 145
	Integra	039
	Irradio	091
	iSymphony	108
J	JBL	140
	JVC	030, 031, 032, 033, 034
K	Kawasaki	129
	Kenwood	080, 128
	KLH	058, 129, 136
	Koss	067, 134
L	Landel	147
	Lasonic	141
	Lenoxx	133, 144
	LG	055, 076, 077, 095, 138, 142
	Liquid Video	134
	Liteon	068, 146
M	Magnavox	047, 062, 127, 135, 145
	Memorex	053, 126
	Microsoft	044
	Mintek	096, 136
	Mitsubishi	056
N	Nesa	136
	Next Base	147
	Nexxtech	115
O	Onkyo	071, 135
	Oppo	100, 114
	Optoma	122
	Oritron	067, 134
P	Panasonic	017, 018, 019, 020, 021, 022, 023, 024, 078, 083, 084, 085, 128, 135
	Philips	007, 037, 038, 047, 052, 064, 073, 104, 135
	Pioneer	039, 040, 041, 042, 087
	Polaroid	028, 086
	Proceed	025
	Proscan	044
	Protron	119
Q	Qwestar	067
R	RCA	035, 036, 039, 044, 129, 136
	Regent	133
	Rio	142
	Rowa	130
S	Sampo	148, 150
	Samsung	011, 012, 013, 015, 016, 048, 128
	Sansui	008, 126
	Sanyo	126, 139
	Sharp	051, 060, 079, 092, 093, 094
	Shinsonic	096
	Sonic Blue	142
	Sony	000, 001, 002, 003, 004, 005, 006 ,045, 065, 066, 105, 106, 107
	Sungale	113
	Superscan	127
	Sylvania	046, 101, 123, 127, 145
	Symphonic	038
T	Teac	129, 149, 157, 158
	Technics	128
	Theta Digital	039
	Toshiba	007, 008, 009, 010, 069, 126, 135
	Trutech	110
U	Urban Concepts	135
	US Logic	096
V	Venturer	129
	VocoStar	118
W	Westinghouse	072
X	Xbox	044
Y	Yamaha	017, 128
Z	Zenith	055, 135, 138, 142

DVDプレーヤー / ビデオデッキ コンビネーション

B	Broksonic	061
C	CineVision	074
G	Go Video	012
I	Insignia	055
P	Panasonic	018, 019, 020
S	Samsung	012, 048
	Sony	002, 003, 004, 005
	Sylvania	046
T	Toshiba	007, 010

テレビ / DVDプレーヤー コンビネーション

A	Akai	098
	Apex	026
	Audiovox	075
	Axion	099
C	Coby	081
	Cytron	097
D	DiamondVision	124
	Disney	063
G	GFM	101
H	Haier	103
I	Ilo	096
	Initial	096
	Insignia	102
L	LG	077
M	Mintek	096
O	Oppo	100
P	Panasonic	078
	Philips	073
	Polaroid	086
R	RCA	035
S	Sansui	008
	Sharp	079
	Sylvania	046, 123
T	Toshiba	008, 101
W	Westinghouse	072

テレビ / DVDプレーヤー / ビデオデッキ コンビネーション

M	Magnavox	062
P	Panasonic	021
T	Toshiba	009

DEVICE SELECT : DVR/VCR

デジタルビデオレコーダー

A	ABS	035
	Alienware	035
B	Bang & Olufsen	079
C	CyberPower	035
D	Dell	035
	DIRECTV	063, 065, 066, 067, 071, 073, 077
	Dish Network	076
	Dishpro	076
E	Echostar	076
	Expressvu	076
G	Gateway	035
	GOI	076

H	Hewlett Packard	035
	HNS	072
	Howard Computers	035
	HP	035
	HTS	076
	Hughes Network Systems	063, 065, 066, 067, 073
	Humax	063
	Hush	035
I	iBUYPOWER	035
J	JVC	063, 076
L	Linksys	035
M	Media Center PC	035
	Microsoft	035
	Mind	035
N	Niveus Media	035
	Northgate	035
P	Panasonic	070
	Philips	063, 065, 066, 067, 068, 072
	Proscan	077
R	RCA	063, 065, 072, 077
	ReplayTV	069
S	Samsung	065, 067, 072
	Sonic Blue	069
	Sony	035, 064, 074, 078
	Stack	035
	Systemax	035
T	Tagar Systems	035
	Tivo	063, 064, 065, 068, 073, 074, 078
	Toshiba	035, 075
	Touch	035
U	UltimateTV	077
V	Viewsonic	035
	Voodoo	035
Z	ZT Group	035

ビデオデッキ

A	ABS	035
	Adventura	008, 033
	Aiwa	008, 033
	Akai	020
	Alienware	035
	American High	032
	Asha	013, 030
	Audio Dynamics	018
	Audiovox	031
B	Beaumark	013, 030
	Bell & Howell	029
	Broksonic	056
C	Calix	031
	Candle	030, 031
	Canon	032
	CineVision	058
	Citizen	030, 031
	Colortyme	018
	Craig	013, 030, 031
	Curtis Mathes	012, 018, 030, 032
	Cybernex	013, 030
	CyberPower	035
D	Daewoo	019, 033
	Davidson	008
	DBX	018
	Dell	035
	Denon	014
	DIRECTV	061
	Durabrand	025
	Dynatech	008, 033
E	Electrohome	010, 031
	Electrophonic	031
	Emerson	008, 010, 021, 031, 032, 033
F	Fisher	029
	Fuji	026, 032
	Funai	008, 021, 033
G	Garrard	008, 033
	Gateway	035
	GE	012, 013, 030, 032
	Go Video	013, 048
	Goldstar	018, 031
	Gradiente	008, 033
H	Harley Davidson	033
	Harman/Kardon	018
	Headquarter	029
	Hewlett Packard	035
	Hitachi	**[008]**＊, 014
	Howard Computers	035
	HP	035
	Hughes Network Systems	014, 061
	Humax	061
	Hush	035
I	iBUYPOWER	035
	Insignia	059
	Instant Replay	032
J	JC Penney	018, 029, 030, 031, 032
	JCL	032
	JVC	016, 017, 018, 029
K	Kenwood	018, 029
	Kodak	031, 032
L	LG	031
	Linksys	035
	Lloyd's	008, 033
	LXI	031
M	Magnasonic	021
	Magnavox	008, 021, 022, 025, 028, 032
	Magnin	013, 031
	Marantz	018, 029, 032
	Marta	031
	Matsushita	032
	Media Center PC	035
	MEI	032
	Memorex	008, 013, 025, 029, 030, 031, 032, 033, 062
	MGA	010, 013
	MGN Technology	013, 030
	Microsoft	035
	Mind	035
	Minolta	014
	Mitsubishi	010, 038
	Motorola	032
	MTC	008, 013, 030
	Multitech	008, 030, 033
N	NEC	018, 029
	Nikko	031
	Niveus Media	035
	Noblex	013, 030
	Northgate	035
O	Olympus	032
	Optimus	021, 031
	Optonica	024
	Orion	044, 062
P	Panasonic	000, 001, 002, 003, 004, 032, 060
	Penney	013, 014
	Pentax	014
	Philco	032
	Philips	024, 032, 041, 061
	Philips Magnavox	041
	Pilot	031
	Profitronic	013
	Pulsar	025
Q	Quarter	029
	Quartz	029
	Quasar	032
R	RadioShack	008, 024, 031
	Radio Shack/ Realistic	024, 029, 030, 031, 032, 033
	Radix	031
	Randex	031
	RCA	011, 012, 013 ,014, 015, 030, 032, 051
	Realistic	008, 024, 029, 030, 031, 032, 033
	ReplayTV	060
	Ricavision	035
	Runco	025
S	Samsung	013, 019, 020, 030, 040, 048, 049, 061
	Sanky	025
	Sansui	008, 044, 062
	Sanyo	013, 029, 030
	Scott	010, 019
	Sears	008, 014, 029, 031, 032
	Sharp	023, 024, 042
	Shogun	013, 030
	Singer	032
	Sonic Blue	060
	Sony	005, 006, 007, 008, 026 ,034, 035, 036, 037, 045 , 052, 053, 054
	Stack	035
	STS	014, 032
	Sylvania	008, 010, 021, 022, 032, 033, 046, 055
	Symphonic	008, 021, 022, 033
	Systemax	035
T	Tagar Systems	035
	Tandy	029
	Tashiko	031
	Teac	008, 033
	Technics	032
	Teknika	008, 031, 032, 033
	Thomas	008
	Tivo	061
	TMK	013, 030
	Toshiba	009, 010, 019, 035, 039, 047, 050, 057
	Totevision	013, 030, 031
	Touch	035
U	Unitech	013, 030
V	Vector	019
	Vector Research	018
	Video Concepts	018, 019
	Videosonic	013, 030
	Viewsonic	035
	Villain	008
	Voodoo	035
W	Wards	008, 013, 014, 024, 030, 031, 032, 033
X	XR-1000	008, 032, 033
Y	Yamaha	018, 029
Z	Zenith	008, 025, 026, 027, 043
	ZT Group	035

DVDプレーヤー / ビデオデッキ コンビネーション

B	Broksonic	056
C	CineVision	058
G	Go Video	048
I	Insignia	059
P	Panasonic	002, 003, 004
S	Samsung	040, 048, 049
	Sony	037, 045, 052, 053, 054
	Sylvania	046
T	Toshiba	039, 050, 057

テレビ / ビデオデッキ コンビネーション

R	RCA	051
S	Sylvania	055

テレビ / DVDプレーヤー / ビデオデッキ コンビネーション

M	Magnavox	022
P	Panasonic	001
T	Toshiba	047

DEVICE SELECT : SAT/CBL

衛星チューナー

A	AccessHD	109
	Alpha Digital	109
	Alphastar	083
	Artec	106
C	CaptiveWorks	102
	Channel Master	111
	Chaparral	077
	Coolsat	103
	Coship	114
	Crossdigital	120
D	Digital Stream	110
	DIRECTV	058, 059, 060, 061, 062, 063, 064, 068, 069, 073, 074, 075, 076, 088, 089, 090, 093, 095, 116
	Dish Network	052, 053, 054, 055, 065, 091, 115, 119
	Dishpro	115, 119
	Drake	078
E	Echostar	052, 065, 091, 115, 119
	Expressvu	119
G	GE	056, 057, 112
	General Instrument	079, 117
	GOI	119
	Goodmind	112
H	Hisense	118
	Hitachi	074, 084
	HTS	119
	Hughes Network Systems	060, 062, 067, 068, 070, 075, 093
	Humax	104
I	Ilo	118
	Insignia	096

J	Jerrold	117
	JVC	052, 065, 091, 119
L	Lasonic	113
	LG	096, 105
M	Magnavox	073, 107
	Memorex	073
	MicroGem	108
	Mitsubishi	068, 099
	Motorola	117
N	Next Level	117
P	Panasonic	061, 095, 097
	Pansat	100
	Paysat	073
	PCT	111
	Philco	107
	Philips	060, 067, 068, 070, 072, 073, 090
	Pioneer	060
	Primestar	082
	Proscan	056, 057
	Proton	118
R	RadioShack	117
	RCA	056, 057, 058, 070, 076, 086, 087, 088, 089, 092
	Realistic	080
S	Samsung	060, 062, 069, 070, 071, 094
	Sharp	098
	Sony	059, 066, 116
	Star Choice	117
	STS	085
T	Tivax	109
	Tivo	060, 070
	Toshiba	063
U	UltimateTV	116
	Uniden	073, 081
	US Digital	118
V	Viewsat	101
	Voom	117
Z	Zenith	064, 096

ケーブルテレビ

A	ABC	**[009]***, 010, 012, 028, 040
	Adelphia	007
	Americast	047
	Antronix	014, 015
	Archer	015
	AT&T	003
B	Bell South	047
C	Cable Vision	006
	Cabletenna	014
	Cableview	013
	Clearmaster	046
	ClearMax	046
	Colour Voice	016
	Comcast	000, 005, 033
	Comtronics	017
	Contec	018
	Coolmax	046
	COX	005
D	Daeryung	036
	Director	033
	Dumont	051
E	Eastern	019
	Everquest	041
F	Focus	045
G	GC Electronics	015
	GE	009, 010
	Gehua	033
	Gemini	020, 041
	General Instrument	005, 010, 033, 044
	Goldstar	042
H	Hamlin	021
	Hitachi	010
J	Jasco	041
	Jerrold	005, 010, 020, 028, 029, 033, 041, 044
L	LG	050
M	Magnavox	022
	MegaCable	005
	Memorex	023, 040
	Motorola	000, 003, 005, 033, 037, 039, 044
	Movie Time	024
	Multitech	046
N	NEC	011
	NET Brazil	035
	NSC	024
O	Oak	018
P	Pace	008, 043
	Panasonic	026, 027, 040
	Paragon	040
	Philips	016, 022
	Pioneer	002, 030, 036, 042
	Popular Mechanics	045
	Proscan	009, 010
	Pulsar	040
Q	Quasar	040
R	RadioShack	041, 046
	RCA	013, 027
	Realistic	015
	Recoton	045
	Regal	021
	Regency	019
	Rembrandt	010
	Runco	040
S	Samsung	008, 034, 042
	Scientific Atlanta	001, 002, 003, 007, 012, 036, 038
	Signal	020, 041
	Signature	010
	Sony	006, 048
	Sprucer	027
	Standard Component	025
	Starcom	020, 028, 041
	Stargate	020, 041
	Starquest	020, 041
	Supercable	044
	Supermax	046
T	Time Warner	004
	Tocom	031
	Torx	049
	Toshiba	040
	Trans PX	044
	Tristar	046
	TS	049
	Tusa	020, 041
	TV86	024
U	Unika	014, 015
	United Cable	028
	Universal	014, 015
V	V2	046
	View Star	018, 022, 024
	Viewmaster	046
	Vision	046
	Vortex View	046
Z	Zenith	032, 040, 047
	Zentek	045

DEVICE SELECT : CD

CDプレーヤー

A	Accuphase	018
	Acoustic Research	019
	ADS	020
	Aiwa	021
	Akai	022
	Audio Alchemy	023
	Audio Pro	024
	Audio-Technica	025
B	B & K	026
C	California Audio Labs	036
	Carver	040, 041
D	Denon	001, 042, **[111]***
	DKK	035
	DMX Electronics	040
	Dynamic Bass	041
G	GE	017
	Genexxa	037
H	Harman/Kardon	007
J	JVC	003, 011, 012
K	Kenwood	038, 039
L	Krell	040
L	Linn	040
M	Magnavox	027
	Marantz	028
	Miro	035
	Mission	040
	Musical Fidelity	029
N	NEC	030
	NSM	040
O	Onkyo	002
	Optimus	035, 037, 039, 041
P	Philips	009, 010
	Pioneer	006
	Polk Audio	040
	Proscan	017
	Proton	040
Q	QED	040
	Quad	040
R	RCA	000, 017
	Realistic	041
	Rotel	040
S	SAE	040
	Sansui	040
	Sanyo	031
	SAST	040
	Sharp	032
	Silsonic	038
	Sonic Frontiers	040
	Sony	004, 005, 008, 013, 014
	Soundesign	033
	Symphonic	034
T	TAG McLaren	040
	Technics	015
W	Wards	040
Y	Yamaha	016
Z	Zonda	040

[ ]*：お買い上げ時に設定されているプリセットコードです。

DENON製 DVDプレーヤー プリセットコード

111（お買い上げ時の設定）		014
DVD-900	DVD-2800Ⅱ	DVD-800
DVD-1000	DVD-2900	DVD-1600
DVD-1400	DVD-2910	DVD-2000
DVD-1500	DVD-2930	DVD-2500
DVD-1710	DVD-3800	DVD-3000
DVD-1720	DVD-3910	DVD-3300
DVD-1730	DVD-3930	
DVD-1740	DVD-A11	
DVD-1910	DVD-5000	
DVD-1920	DVD-A1XV	
DVD-1930	DVD-A1XVA	
DVD-1940	DVD-A1	
DVD-2200	DVM-3700	
DVD-2800		

DENON製 ブルーレイディスクプレーヤー プリセットコード

121
DVD-1800BD
DVD-2500BT
DVD-3800BD
DVD-A1UDCI

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1
D&M ビル 3F

お客様相談センター　TEL：044-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30 ～ 12：00、12：45 ～ 17：30
（弊社休日および祝日を除く、月～金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、
次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購入店名：	電話（　　－　　－　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in China　5411 10348 001DA